

アンケート調査結果について (中間とりまとめ)

— 目 次 —

I. アンケート調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	2
4. 設問構成	2
5. 分析方針	2
6. アンケートの配布・回収状況	3

II. 集落アンケート調査の結果

1. 対象集落の基礎的屬性	4
(1) 集落の世帯規模	4
(2) 集落の高齢化率	5
(3) 集落の世帯規模・高齢化率との関係	6
(4) 生活中心都市までの時間距離	7
(5) 集落類型区分	8
2. 集落の住民共同活動の実施状況（質問1）	9
(1) 農林作業の実施状況とその要因	10
(2) 共有資産管理の実施状況とその要因	14
(3) 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況とその要因	20
(4) まとめ	26
3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識（質問2）	28
(1) 農林作業の重要性への意識（重要度）	29
(2) 共有資産管理の重要性への意識（重要度）	32
(3) 冠婚葬祭等の重要性への意識（重要度）	36
(4) 住民協働体制の重要性への意識（重要度）	38
(5) 生活支援の重要性への意識（重要度）	44
(6) まとめ	48

4. 居住継続に対する意識（質問3・4・5）	49
(1) 居住継続に対する意識（質問3）	49
(2) 集落で今後居住を継続する上での不安（質問4）	51
5. 集落元気づくりに向けた取り組み状況と意欲（質問10・11）	68
(1) 集落元気づくりに向けた取り組み（質問10）	68
(2) 集落内の地域として誇るべき地域資源（質問6）	71
(3) 集落内で今後活用可能な資源（質問7）	72
(4) 集落内の山の幸や海の幸（質問8）	73
(5) 子孫に伝えたい伝統文化、芸能、風習（質問9）	74
(6) 集落元気づくりのアイデア（質問11）	75

Ⅱ-2. 自治体アンケート調査結果

1. 集落の基本属性	76
(1) 自治体の集落の基本単位の考え方（質問1）	77
2. 集落の交流機能・生活機能（質問1）	78
(1) 集落の交流（コミュニティ）機能	79
(2) 集落の生活サービス	80
3. 集落元気づくりへの協力体制（質問2）	82
4. 対象集落の再編の予定（質問4）	83
5. 集落支援アイデア（質問3）	84

I. アンケート調査の概要

1. 調査目的

平成 19 年度に九州圏の全自治体（市町村）を対象としたアンケート調査によって、存続が危惧される集落の状況や課題、存続・再生に向けた取り組みについて把握した。

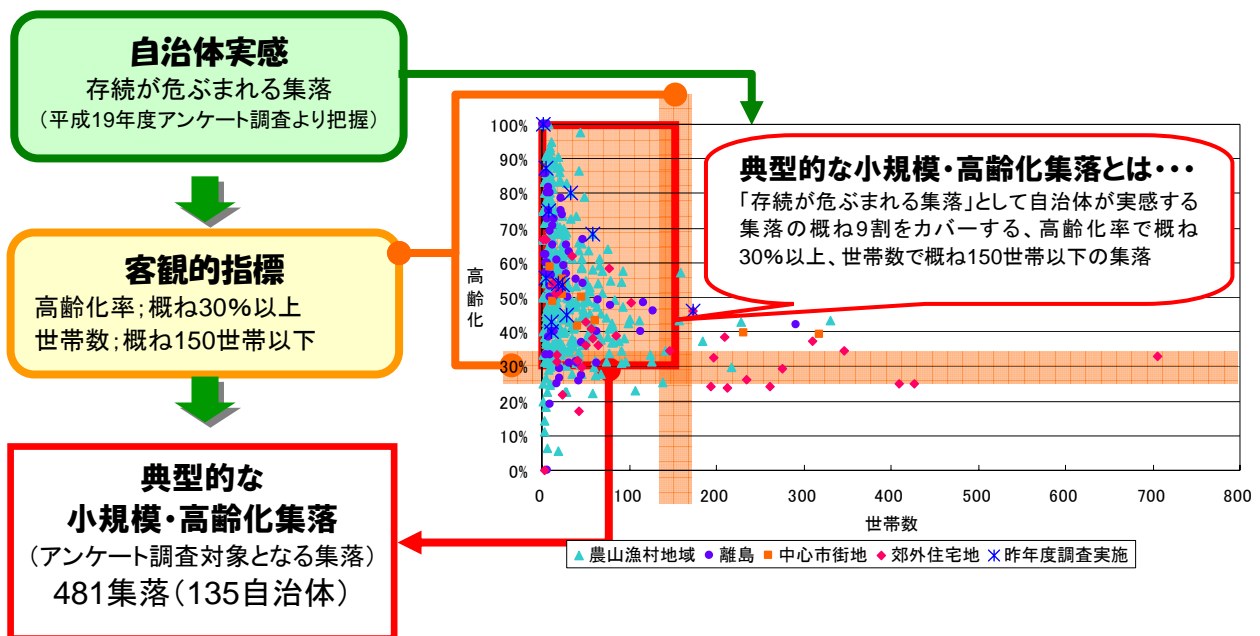
そこで本調査は、小規模・高齢化集落の活力維持・向上に向け、“集落住民が安心して元気が出るくらしの実現”のための支援策を具体的に検討していくための基礎資料にすることを目的とし、集落（代表者）を対象として、集落の共同活動の実施状況を把握するとともに、共同活動の重要性や今後居住を継続する上での不安、集落元気づくりに向けた取り組み意欲など、住民意識について即地的な実態を把握した。

また、自治体からは、集落の世帯数、高齢化率、社会基盤の状況などの基礎情報や集落元気づくりへの支援意向や体制について把握した。

2. 調査対象

集落機能の実態は、統計的な資料のみでは把握できないことから、自治体が「存続が危ぶまれる集落」と懸念する自治体の実感を重視するとともに、客観的指標（高齢化率、世帯規模）も加味し、典型的な小規模・高齢化集落として、481 集落（135 自治体）を調査対象とした。

- ・自治体実感⇒平成 19 年度調査で回答のあった、自治体が「存続が危ぶまれる集落」と考えた集落（146 自治体※現在は合併により 145 自治体。）
- ・客観的指標⇒高齢化率で概ね 30%以上、世帯数で概ね 150 世帯以下
特に中山間地域において、自治体実感からあげられた集落を幅広くカバーする範囲として設定。



3. 調査方法

- ・対象自治体 135 自治体及び対象集落 481 集落の代表者に対し、回答期間を平成 20 年 12 月～平成 21 年 1 月とし、アンケートを実施した。

①集落アンケート

- ・当該自治体に依頼し、集落代表者へ配布、集落代表者から郵送で回収を行った。

②自治体アンケート

- ・当該自治体に依頼し、郵送による配布・回収を行った。

4. 設問構成

- ・典型的な小規模・高齢化集落における即地的な実態を把握するため、集落及び自治体に対して、以下の設問構成により、アンケートを実施した。

①集落アンケート（集落活動の実態の把握、元気づくりへの取り組み意欲を把握）

目的① 集落の安心
集落共同活動、
居住意向と居住継続の不安

居住意向と居住継続上の課題

- 集落共同活動の実態
- 集落居住の継続意志、居住継続にあたっての不安
(医療、共同作業、農林漁業、公共交通等)

目的② 集落の元気
活用可能な地域資源

活用可能な地域資源や残したい地域資源

- 活用可能な地域資源等の把握
(景観や食材、伝統芸能の他、祠、習慣、空き屋、遊休農地、
放棄山林、等)

目的③ 取り組み意欲
集落元気づくりへの取り組み

集落元気づくりへの取り組み意欲等

- 集落元気づくりの取り組みへの意欲やアイデア
- 他出者や大学等外部組織・人材とのつながりの必要性

②自治体アンケート（集落の基礎的情報の把握、集落支援への協力意向を把握）

目的①基礎的情報把握
集落機能維持にかかわる
基礎的情報

対象集落の生活機能・資源

- 交流・コミュニティの状況(集会施設、学校施設等)
- 生活サービスの状況
(社会基盤、公共交通、医療福祉、商業施設等)

目的②協力意向等の把握
自治体の協力意向
外部支援の可能性

集落元気づくりへの協力意向等

- 集落元気づくりの取り組みへの自治体の協力意欲
- 集落元気づくりの取り組みにあたってのアイデアの提案
- 対象集落における集落単位見直しの予定

5. 分析方針

- 集落アンケートと自治体アンケートから把握される基本属性情報（世帯規模、高齢化率、生活中心都市までの時間距離等）の結果にもとづき、分析を行う。
- 集落元気づくりのアイデアについては、「安心」、「元気」、「外部交流」の3つに分類、整理する。

6. アンケートの配布・回収状況

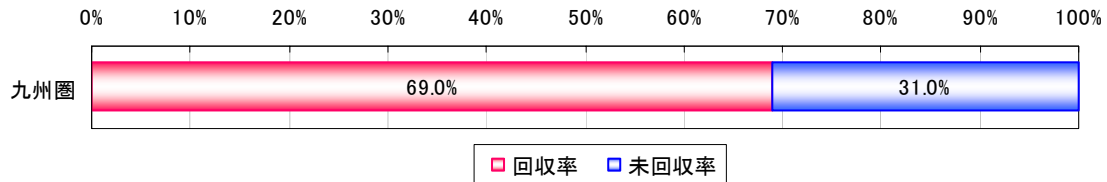
①集落アンケートの配布・回収状況

- ・ 集落アンケートの配布は九州圏の 481 集落の代表者に対して行い、現在までに 332 集落から回答を得た。(回収率 69.0%)

表 調査対象数

県名	配布数	回収数	回収率 (%)
九州圏	481	332	69.0%

※回収数、回収率は平成 21 年 1 月 23 日現在



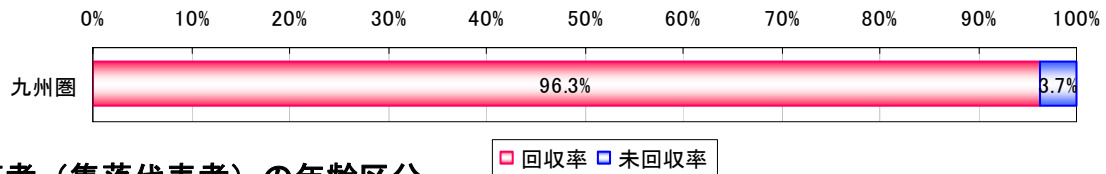
②自治体アンケートの配布・回収状況

- ・ 自治体アンケートの配布は九州圏の 135 市町村長に対して行い、現在までに 130 自治体から回答を得た。(回収率 96.3%)

表 調査対象数

県名	配布数	回収数	回収率 (%)
九州圏	135	130	96.3%

※回収数、回収率は平成 21 年 1 月 23 日現在

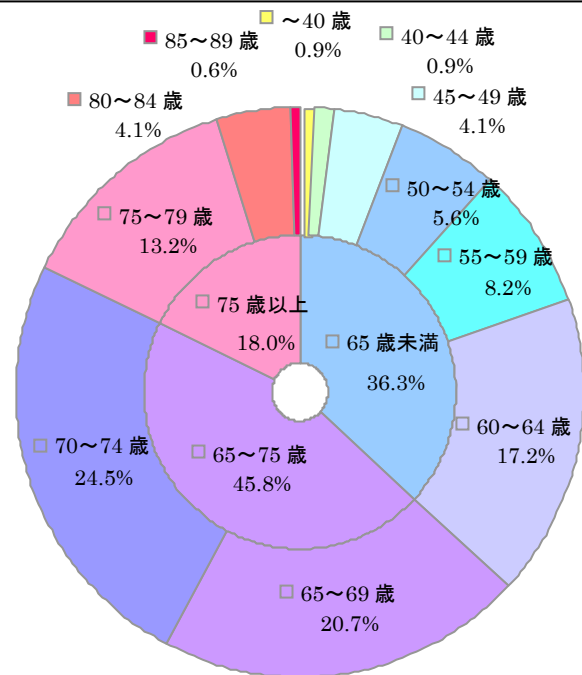


③回答者（集落代表者）の年齢区分

- ・ 回答者（集落代表者）の年齢区分が、住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、65 歳未満、65 歳～75 歳、75 歳以上の 3 つの年齢区分別に集計を行った。
- ・ 回答者（集落代表者）の年齢区分別の割合をみると、65 歳未満 (36.3%)、65 歳～75 歳 (45.8%)、75 歳以上 (18.0%) となっている。

表 回答者（集落代表者）の年齢

回答者の年齢	集落数	有効%
～40 歳	3	0.9%
40～44 歳	3	0.9%
45～49 歳	13	4.1%
50～54 歳	18	5.7%
55～59 歳	26	8.2%
60～64 歳	55	17.3%
65～69 歳	66	20.8%
70～74 歳	78	24.5%
75～79 歳	42	13.2%
80～84 歳	12	3.8%
85～89 歳	2	0.6%
計	318	100%



○ 図 回答者（集落代表者）の年齢

Ⅱ. 集落アンケート調査の結果

1. 対象集落の基礎的屬性

(1) 集落の世帯規模

- ・ 世帯規模が住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、世帯規模を20世帯未満、20世帯～50世帯、50世帯以上の3つの世帯規模別に集計を行った。
- ・ 20世帯未満の集落の割合は、長崎県（73.5%）、大分県（67.8%）、鹿児島県（66.0%）、佐賀県（64.3%）で高くなっている。
- ・ 各県とも、20世帯以上50世帯未満の集落数は、約3割となっている。
- ・ 一方、50世帯以上の集落の割合では、宮崎県（32.1%）、福岡県（26.6%）で高くなっている。

表 対象集落の県別・世帯規模別の集落個数

世帯数		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	計(九州圏)
20世帯未満	度数	25	18	25	43	40	32	95	278
	%	39.1%	64.3%	73.5%	58.1%	67.8%	41.0%	66.0%	57.8%
20世帯以上50世帯未満	度数	22	8	7	21	15	21	34	128
	%	34.4%	28.6%	20.6%	28.4%	25.4%	26.9%	23.6%	26.6%
50世帯以上	度数	17	2	2	10	4	25	15	75
	%	26.6%	7.1%	5.9%	13.5%	6.8%	32.1%	10.4%	15.6%
計		64	28	34	74	59	78	144	481
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

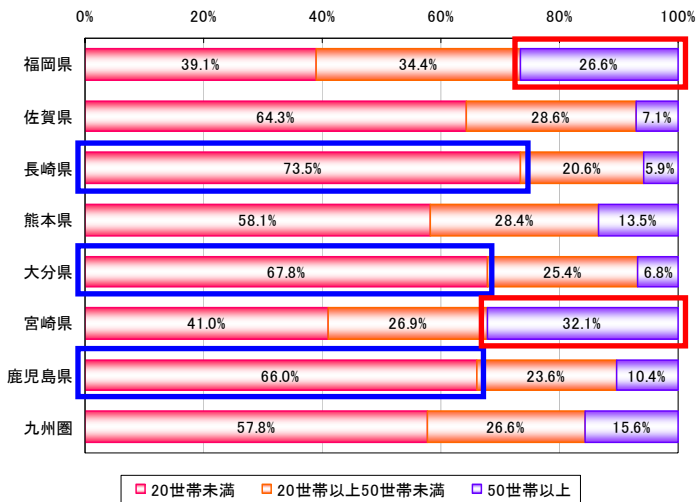


図 対象集落の県別・世帯規模別割合

(2) 集落の高齢化率

- 高年齢化率が住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、集落の高年齢化率を50%未満、50%～70%、70%以上の3つに区分し、集計を行った。
(ここでいう高年齢化率とは、全集落人口に占める65歳以上人口の比率を示す。)
- 高年齢化集落(65歳以上人口が全人口に占める比率が50%以上の集落)の割合は、鹿児島県(81.9%)、長崎県(76.5%)、次いで大分県(74.6%)で、全体平均(62.1%)より高くなっている。
- 一方、高年齢化率が50%未満の集落の割合をみると、福岡県(71.9%)、佐賀県(60.7%)で高くなっている。

表 対象集落の県別・高年齢化率

高年齢化率		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	計(九州圏)
50%未満	度数	46	17	8	31	15	39	26	182
	%	71.9%	60.7%	23.5%	41.9%	25.4%	50.0%	18.1%	37.8%
50～70%	度数	12	10	16	31	23	24	54	170
	%	18.8%	35.7%	47.1%	41.9%	39.0%	30.8%	37.5%	35.3%
70%以上	度数	6	1	10	12	21	15	64	129
	%	9.4%	3.6%	29.4%	16.2%	35.6%	19.2%	44.4%	26.8%
計		64	28	34	74	59	78	144	481
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

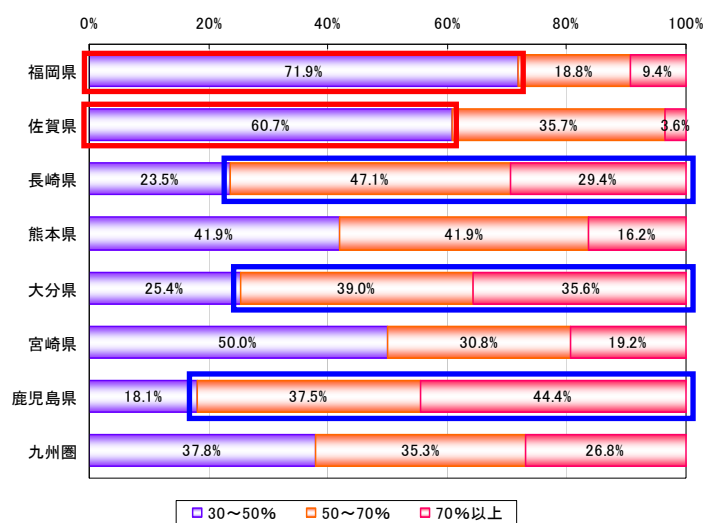


図 対象集落の県別高年齢化

(3) 集落の世帯規模・高齢化率との関係

- ・ 集落の世帯規模と高齢化率との関係について分析した。
- ・ 存続が危ぶまれる 481 集落のうち、世帯数 20 世帯未満、高齢化率 70%以上の集落が 113 集落あった。
- ・ 世帯規模が小さいほど、高齢化率 50%以上の集落の割合（76.6%）は高くなっている。

表 世帯規模・高齢化率

世帯数		30~50%	50~70%	70%以上	計
20 世帯未満	度数	65	100	113	278
	%	23.4%	36.0%	40.6%	100.0%
20 世帯以上 50 世帯未満	度数	60	52	16	128
	%	46.9%	40.6%	12.5%	100.0%
50 世帯以上	度数	57	18	0	75
	%	76.0%	24.0%	0.0%	100.0%
計		182	170	129	481

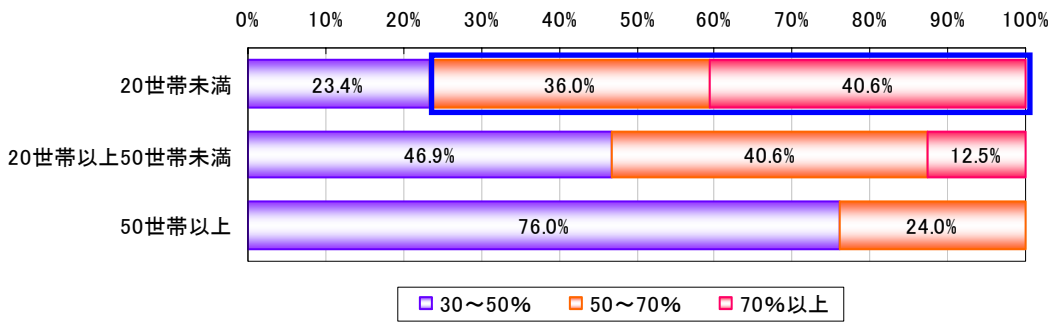


図 世帯規模・高齢化率

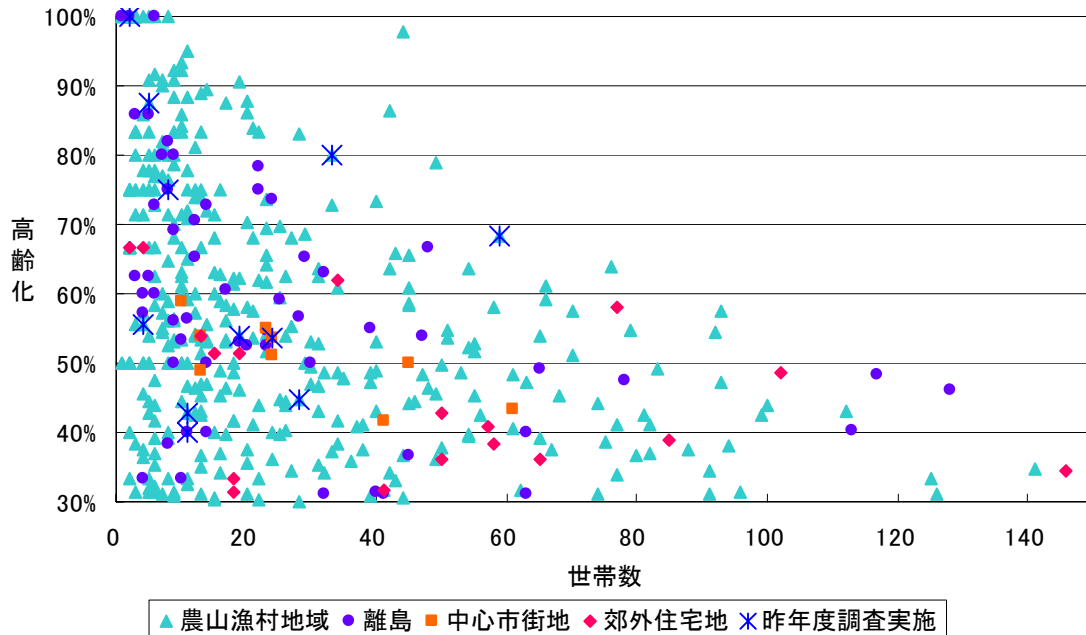


図 集落の世帯規模・高齢化率の関係

(4) 生活中心都市までの時間距離

- 生活中心都市までの時間距離が、住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、生活中心都市までの時間距離を15分未満、15分～30分、30分～45分、45分～1時間、1時間以上の5段階に区分し、集計を行った。
(時間距離は集落中心部から生活中心都市の市役所(本庁舎)までとした。また、算出にあたっては全国総合交通分析システム(NITAS[※])を用いて算出した)。
- 生活中心都市までの時間距離が30分未満の集落の割合は、佐賀県(89.3%)、福岡県(81.2%)、次いで大分県(77.2%)で高くなっている。
- 生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落の約7割は離島が占める。
- 生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落の割合は、鹿児島県(31.3%)、次いで長崎県(29.4%)と離島の多い県で高くなっている。

表 生活中心都市までの時間距離

時間距離		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	九州圏
15分未満	度数	23	11	8	5	14	8	28	97
	%	35.9%	39.3%	23.5%	6.8%	24.6%	11.0%	19.4%	20.5%
15～30分	度数	29	14	8	33	30	29	48	191
	%	45.3%	50.0%	23.5%	44.6%	52.6%	39.7%	33.3%	40.3%
30～45分	度数	11	3	1	27	12	18	20	92
	%	17.2%	10.7%	2.9%	36.5%	21.1%	24.7%	13.9%	19.4%
45～60分	度数	0	0	7	5	1	7	3	23
	%	0.0%	0.0%	20.6%	6.8%	1.8%	9.6%	2.1%	4.9%
60分以上	度数	1	0	10	4	0	11	45	71
	%	1.6%	0.0%	29.4%	5.4%	0.0%	15.1%	31.3%	15.0%
計	度数	64	28	34	74	57	73	144	474
	%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

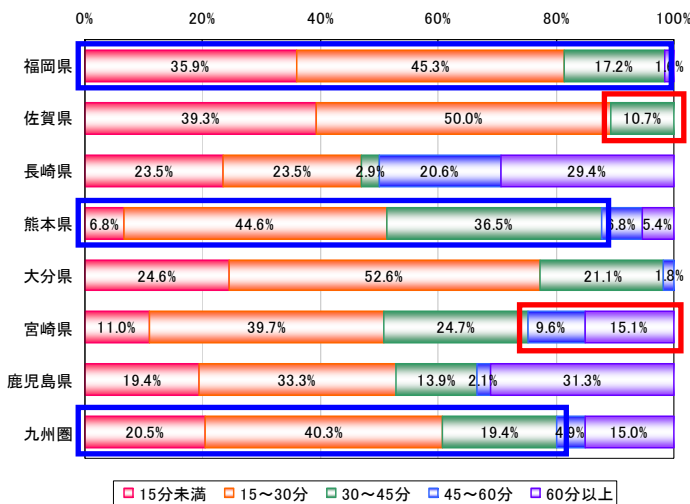


図 生活中心都市までの時間距離

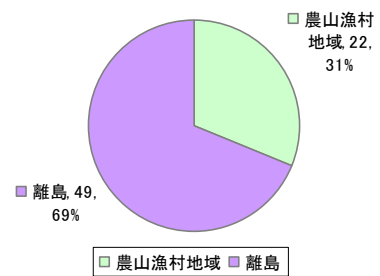


図 生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落

※生活中心都市までの時間距離は、NITAS (※NITAS: NITAS (National Integrated Transport Analysis System: 全国総合交通分析システム)「道路」・「鉄道」・「航空」・「船舶」の各交通機関を組み合わせることで総合的に交通体系の分析を行うシステムのこと。集落から生活中心都市までの時間距離を様々な交通手段により正確に算出できる。)を用いて算出。

(5) 集落類型区分

- ・ 集落の自治体内での役割や他集落との関係から、中心集落、基幹集落、基礎集落の 3 つに区分し集計を行った。
- ・ 集落類型区分^{*}は基礎集落が 93.0%となり、ほとんどを占める。次いで基幹集落(5.0%)、中心集落(2.0%)となっている。

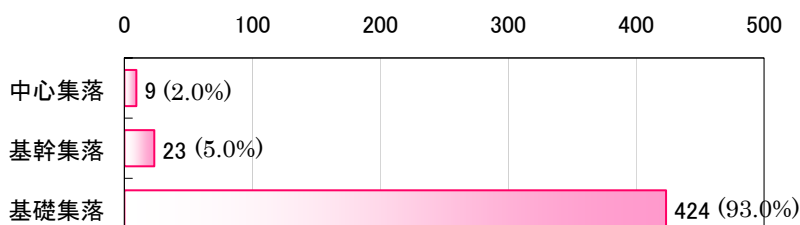


図 集落類型区分 (単位：集落数)

※集落類型区分の定義

○集落の類型区分については、明確な定義はないが、ここでは以下のように分類した。

中心集落：地域の中心的な集落であり、古くから地域の要所となっていたため、役場等の行政機関や事務所等が集積する。

基幹集落：基礎集落の分布の中にあつて、住民の日常生活上、集落間の要となつて存続している集落であり、主として谷筋の分岐点やその他バス停留所があるなど交通上の要所で、日常的な買い物ができるような商店も立地している（あるいはかつては立地していた）地域に分布する。

基礎集落：地域社会を構成する最も基礎的かつ原単位的な集落であり、いずれの地域にも広く分布する。
(中心集落、基幹集落以外のものは、これに分類)

2. 集落の住民共同活動の実施状況（質問1）

- 集落の住民共同活動の実施状況をみるため、下記の項目について、それぞれ現在までの実施状況と、その要因をたずねた。
- 各共同活動の実施状況の変化として、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」、「以前から行われていない」、「以前から現在まで引き続き行われている」、「最近になって行われるようになった」の4つの選択肢より選んでいただいた。
(なお、ここでいう以前とは「戦後（昭和20年以降）、当該集落に最も多くの人に住んでいた頃」を想定した。)
- また、現在までの活動状況の変化要因として「特に理由はない」、「人口の減少」、「人口の高齢化」、「農外就労の増加」、「農林業の低迷」、「役場や農協、普及所などの助言・指導・支援」、「民間組織の支援」の内より選んでいただいた。

①「農林作業」の実施状況とその要因

- 「荒廃農地の共同維持管理」
- 「農作業の手間がえ・結い」
- 「集落共有の山林・牧野の共同作業」

②共有資産管理」の実施状況とその要因

- 「集落道の草刈」
- 「用水路の清掃」
- 「神社・仏閣・墓地の維持管理」
- 「集落所・広場等の維持管理」

③「冠婚葬祭・伝統継承等」の実施状況とその要因

- 「集落内での葬儀の実施」
- 「集落内での祭り」
- 「伝統芸能の継承活動」
- 「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」

(1) 農林作業の実施状況とその要因

○ 荒廃農地の共同維持管理の実施状況

- 「荒廃農地の共同維持管理」は、「以前から行われていない」(67.5%)と「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(20.4%)を合わせると8割を超える。また、「最近になって行われるようになった」(5.0%)集落があった。

○ 荒廃農地の共同維持管理が行われなくなった主な要因

- 「荒廃農地の共同維持管理」が行われなくなった要因として「人口の高齢化」(21集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の減少」(11集落)となっている。

○ 荒廃農地の共同維持管理が行われるようになった主な要因

- 「荒廃農地の共同維持管理」が最近行われるようになった要因として「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(6集落)を挙げる集落があった。

表 荒廃農地の共同維持管理の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
荒廃農地の共同維持管理	度数	189	57	20	14	280
	%	67.5%	20.4%	7.1%	5.0%	100%

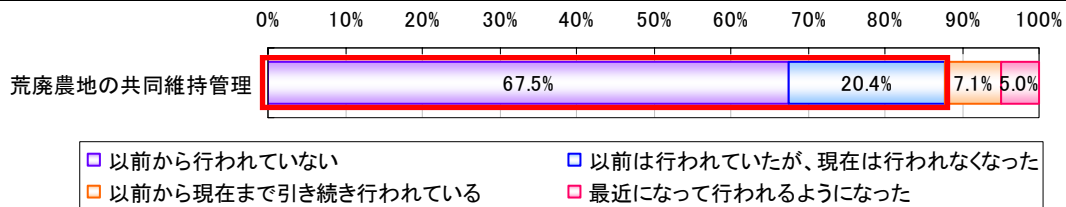


図 荒廃農地の共同維持管理

表 荒廃農地の共同維持管理

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	96	3	6	0	105
	%	74.4%	7.7%	42.9%	0.0%	54.4%
人口の減少	度数	12	11	1	1	25
	%	9.3%	28.2%	7.1%	9.1%	13.0%
人口の高齢化	度数	14	21	5	2	42
	%	10.9%	53.8%	35.7%	18.2%	21.8%
農外就労の増加	度数	5	2	0	1	8
	%	3.9%	5.1%	0.0%	9.1%	4.1%
農林業の低迷	度数	2	1	0	0	3
	%	1.6%	2.6%	0.0%	0.0%	1.6%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	1	2	6	9
	%	0.0%	2.6%	14.3%	54.5%	4.7%
民間組織の支援	度数	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.5%
計	度数	129	39	14	11	193
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○農作業の手間がえ・結いの実施状況

- 「農作業の手間がえ・結い」は、「以前から行われていない」(24.2%)と「以前は行われていたが現在に行われなくなった」(62.1%)を合わせると8割を超える。

○農作業の手間がえ・結いが行われなくなった主な要因

- 「農作業の手間がえ・結い」が行われなくなった要因として「人口の減少」(36集落)、「人口の高齢化」(35集落)を挙げる集落が多く、次いで「農外就労の増加」(30集落)となっている。

○農作業の手間がえ・結いが行われるようになった主な要因

- 「農作業の手間がえ・結い」が最近行われるようになった要因として「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(2集落)を挙げる集落があった。

表 農作業の手間がえ・結いの実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
農作業の手間がえ・結い	度数	69	177	35	4	285
	%	24.2%	62.1%	12.3%	1.4%	100%

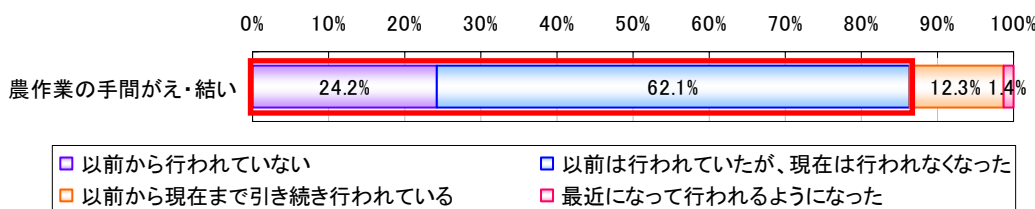


図 農作業の手間がえ・結い

表 農作業の手間がえ・結いの実施状況の変化要因

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	34	11	7	0	52
	%	73.9%	8.5%	38.9%	0.0%	26.7%
人口の減少	度数	6	36	1	0	43
	%	13.0%	27.9%	5.6%	0.0%	22.1%
人口の高齢化	度数	4	35	5	0	44
	%	8.7%	27.1%	27.8%	0.0%	22.6%
農外就労の増加	度数	1	30	1	0	32
	%	2.2%	23.3%	5.6%	0.0%	16.4%
農林業の低迷	度数	1	16	0	0	17
	%	2.2%	12.4%	0.0%	0.0%	8.7%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	2	2	4
	%	0.0%	0.0%	11.1%	100.0%	2.1%
民間組織の支援	度数	0	1	2	0	3
	%	0.0%	0.8%	11.1%	0.0%	1.5%
計	度数	46	129	18	2	195
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○集落共有の山林・牧野の共同作業の実施状況

- ・ 「集落共有の山林・牧野の共同作業」は、「以前から行われていない」(35.2%)と「以前は行われていた」(37.7%)を合わせると7割を超える。

○集落共有の山林・牧野の共同作業が行われなくなった主な要因

- ・ 「集落共有の山林・牧野の共同作業」が行われなくなった要因として、「人口の高齢化」(25集落)、「人口の減少」(21集落)を挙げる集落が多く、次いで「農林業の低迷」(19集落)となっている。

○集落共有の山林・牧野の共同作業が行われるようになった主な要因

- ・ 「集落共有の山林・牧野の共同作業」が「最近行われるようになった」集落は存在しなかった。

表 集落共有の山林・牧野の共同作業の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落共有の山林・牧野の共同作業	度数	100	107	77	0	284
	%	35.2%	37.7%	27.1%	0.0%	100%

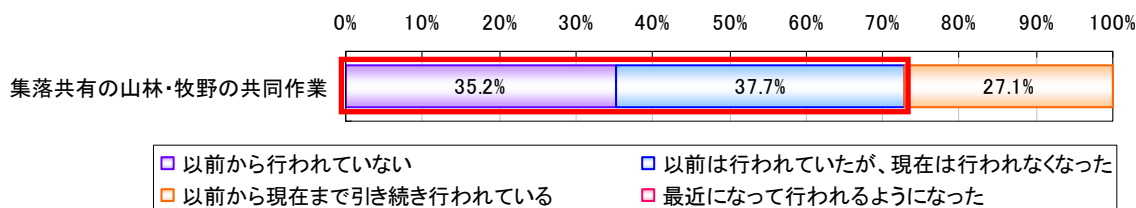


図 集落共有の山林・牧野の共同作業

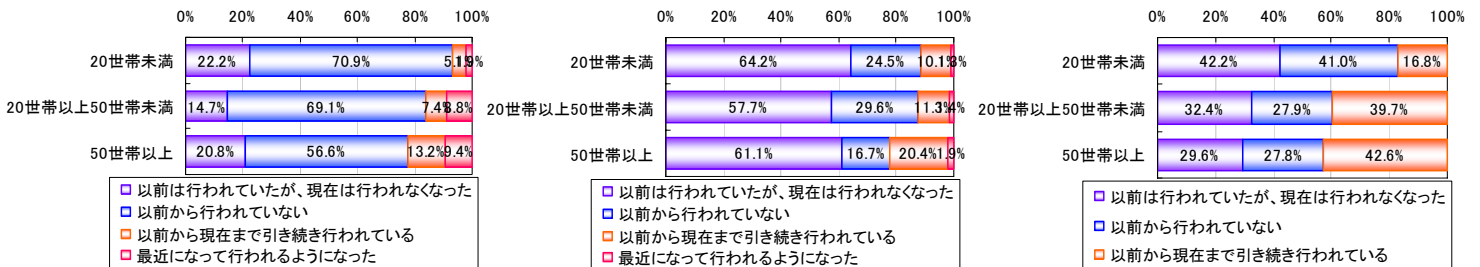
集落共有の山林・牧野などの共同作業の実施状況の変化要因

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	50	4	21	0	75
	%	74.6%	5.5%	50.0%	0.0%	41.2%
人口の減少	度数	5	21	2	0	28
	%	7.5%	28.8%	4.8%	0.0%	15.4%
人口の高齢化	度数	8	25	5	0	38
	%	11.9%	34.2%	11.9%	0.0%	20.9%
農外就労の増加	度数	2	4	0	0	6
	%	3.0%	5.5%	0.0%	0.0%	3.3%
農林業の低迷	度数	2	19	1	0	22
	%	3.0%	26.0%	2.4%	0.0%	12.1%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	9	0	9
	%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	4.9%
民間組織の支援	度数	0	0	4	0	4
	%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	2.2%
計	度数	68	73	42	0	183
	%	100%	100%	100%	0%	100%

○「農林作業」と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が大きいほど、「以前から現在まで引き続き行われている」という割合が高くなっている。

<世帯規模>



荒廃農地の共同維持管理

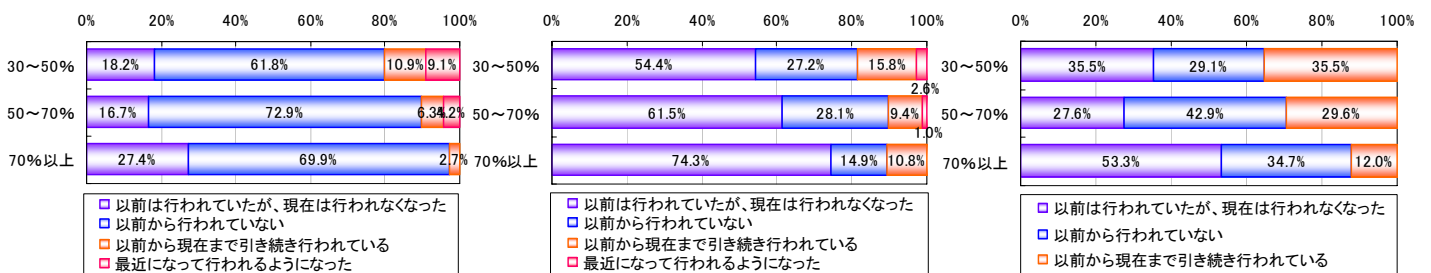
農作業の手間がえ・結い

集落共有の山林・牧野の共同作業

○「農林作業」と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」という割合が高くなっている。

<高齢化率>



荒廃農地の共同維持管理

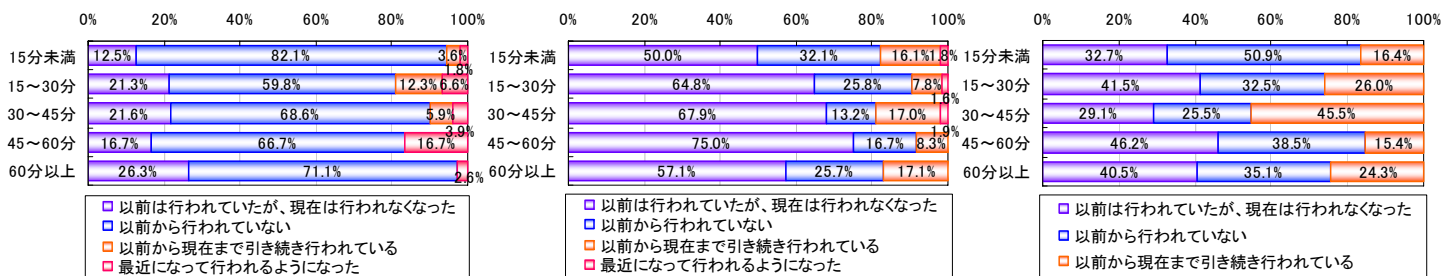
農作業の手間がえ・結い

集落共有の山林・牧野の共同作業

○「農林作業」と生活中心都市までの距離との関係

- ・ 生活中心都市までの時間距離との関係では、一定の傾向は見られなかった。

<生活中心都市までの時間距離>



荒廃農地の共同維持管理

農作業の手間がえ・結い

集落共有の山林・牧野の共同作業

(2) 共有資産管理の実施状況とその要因

○集落道の草刈などの共同作業の実施状況

- 「集落道の草刈りなどの共同作業」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(84.0%)と回答した集落が最も多くなっている。

○集落道の草刈などの共同作業が行われなくなった主な要因

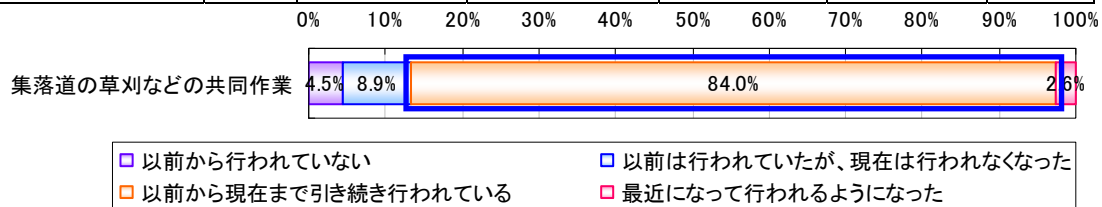
- 「集落道の草刈りなどの共同作業」が「行われなくなった」主な要因として「人口の高齢化」(9集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の減少」(7集落)となっている。

○集落道の草刈などの共同作業が行われるようになった主な要因

- 「集落道の草刈りなどの共同作業」が「最近行われるようになった」主な要因は「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(2集落)となっている。

表 集落道の草刈などの共同作業の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落道の草刈などの共同作業	度数	14	28	263	8	313
	%	4.5%	8.9%	84.0%	2.6%	100%



- 以前から行われていない
- 以前は行われていたが、現在は行われなくなった
- 以前から現在まで引き続き行われている
- 最近になって行われるようになった

図 集落道の草刈などの共同作業の実施状況

表 集落道の草刈などの共同作業

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	7	2	70	0	79
	%	77.8%	10.5%	54.3%	0.0%	49.4%
人口の減少	度数	1	7	11	0	19
	%	11.1%	36.8%	8.5%	0.0%	11.9%
人口の高齢化	度数	1	9	12	0	22
	%	11.1%	47.4%	9.3%	0.0%	13.8%
農外就労の増加	度数	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.6%
農林業の低迷	度数	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.6%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	1	30	2	33
	%	0.0%	5.3%	23.3%	66.7%	20.6%
民間組織の支援	度数	0	0	5	0	5
	%	0.0%	0.0%	3.9%	0.0%	3.1%
計	度数	9	19	129	3	160
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○用水路の清掃などの共同作業の実施状況

- ・ 「用水路の清掃などの共同作業」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(62.9%)と回答した集落が多くなっている。

○用水路の清掃などの共同作業が行われなくなった主な要因

- ・ 「用水路の清掃などの共同作業」が「行われなくなった」主な要因として「人口の減少」(13集落)、「人口の高齢化」(13集落)を挙げる集落が多くなっている。

○用水路の清掃などの共同作業が行われるようになった主な要因

- ・ 「用水路の清掃などの共同作業」が「最近行われるようになった」主な要因は「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(5集落)となっている。

表 用水路の清掃などの共同作業

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
用水路の清掃などの共同作業	度数	48	49	185	12	294
	%	16.3%	16.7%	62.9%	4.1%	100%

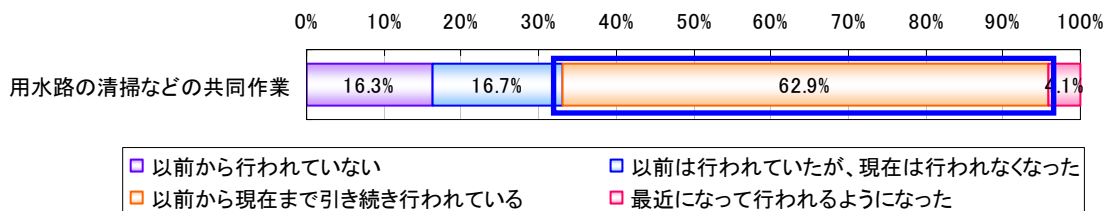


図 用水路の清掃などの共同作業の実施状況

表 用水路の清掃などの共同作業

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	23	2	59	0	84
	%	85.2%	6.1%	62.8%	0.0%	52.5%
人口の減少	度数	3	13	5	0	21
	%	11.1%	39.4%	5.3%	0.0%	13.1%
人口の高齢化	度数	1	13	10	0	24
	%	3.7%	39.4%	10.6%	0.0%	15.0%
農外就労の増加	度数	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.6%
農林業の低迷	度数	0	4	0	0	4
	%	0.0%	12.1%	0.0%	0.0%	2.5%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	1	15	5	21
	%	0.0%	3.0%	16.0%	83.3%	13.1%
民間組織の支援	度数	0	0	4	1	5
	%	0.0%	0.0%	4.3%	16.7%	3.1%
計	度数	27	33	94	6	160
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○神社・仏閣・墓地の維持管理の実施状況

- ・ 「神社・仏閣・墓地の維持管理」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(77.3%)と回答した集落が多くなっている。

○神社・仏閣・墓地の維持管理が行われなくなった主な要因

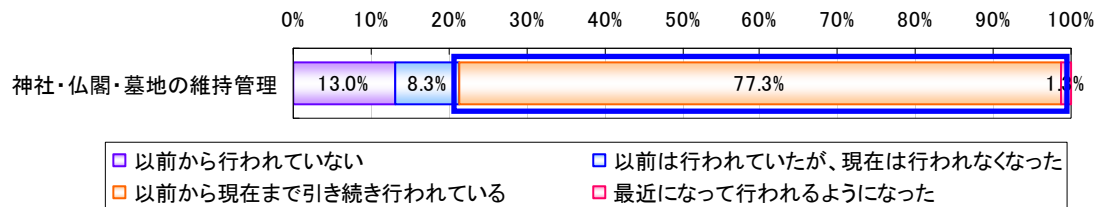
- ・ 「神社・仏閣・墓地の維持管理」が「行われなくなった」主な要因として「人口の高齢化」(9集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の減少」(7集落)となっている。

○神社・仏閣・墓地の維持管理が行われるようになった主な要因

- ・ 「神社・仏閣・墓地の維持管理」が「最近行われるようになった」主な要因は「とくに理由はない」(2集落)となっている。

表 神社・仏閣・墓地の維持管理

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
神社・仏閣・墓地の維持管理	度数	39	25	232	4	300
	%	13.0%	8.3%	77.3%	1.3%	100%



■ 以前から行われていない ■ 以前は行われていたが、現在は行われなくなった
■ 以前から現在まで引き続き行われている ■ 最近になって行われるようになった

図 神社・仏閣・墓地の維持管理の実施状況

表 神社・仏閣・墓地の維持管理

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	20	1	84	2	107
	%	80.0%	5.9%	75.0%	100.0%	68.6%
人口の減少	度数	3	7	7	0	17
	%	12.0%	41.2%	6.3%	0.0%	10.9%
人口の高齢化	度数	1	9	9	0	19
	%	4.0%	52.9%	8.0%	0.0%	12.2%
農外就労の増加	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
農林業の低迷	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	6	0	6
	%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	3.8%
民間組織の支援	度数	1	0	6	0	7
	%	4.0%	0.0%	5.4%	0.0%	4.5%
計	度数	25	17	112	2	156
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○集会所・広場等の維持管理の実施状況

- ・ 「集会所・広場等の維持管理」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(78.2%)と回答した集落が多くなっている。

○集会所・広場等の維持管理が行われなくなった主な要因

- ・ 「集会所・広場等の維持管理」が「行われなくなった」主な要因は「人口の減少」(6集落)、「人口の高齢化」(4集落)となっている。

○集会所・広場等の維持管理が行われるようになった主な要因

- ・ 「集会所・広場等の維持管理」が「最近行われるようになった」主な要因は「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(1集落)となっている。

表 集会所・広場等の維持管理

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落所・広場等の維持管理	度数	39	19	229	6	293
	%	13.3%	6.5%	78.2%	2.0%	100%

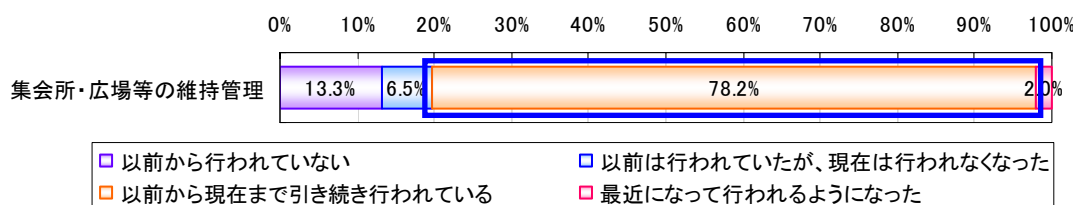


図 集会所・広場等の維持管理の実施状況

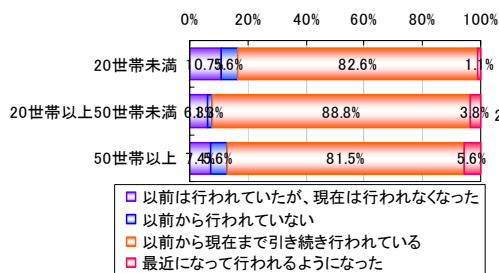
表 集会所・広場等の維持管理

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	24	0	85	0	109
	%	92.3%	0.0%	75.9%	0.0%	73.2%
人口の減少	度数	1	6	3	0	10
	%	3.8%	60.0%	2.7%	0.0%	6.7%
人口の高齢化	度数	1	4	11	0	16
	%	3.8%	40.0%	9.8%	0.0%	10.7%
農外就労の増加	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
農林業の低迷	度数	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	7	1	8
	%	0.0%	0.0%	6.3%	100.0%	5.4%
民間組織の支援	度数	0	0	5	0	5
	%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	3.4%
計	度数	26	10	112	1	149
	%	100%	100%	100%	100%	100%

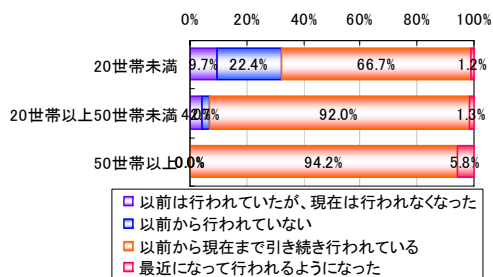
○共有資産管理と世帯規模の関係

- 「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地の維持管理」、「集落所・広場等の維持管理」は、世帯規模が小さいほど、「以前は行われていたが、現在は行われていない」の割合が高くなっている。
- 「集落道の草刈りなどの共同作業」は、一定の傾向は見られず、「以前から現在まで引き続き行われている」とする割合が8割を超える。

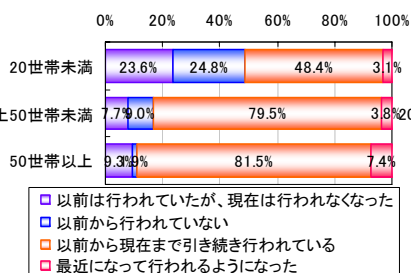
<世帯規模>



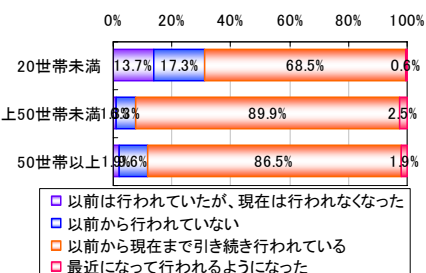
集落道の草刈りなどの共同作業



集落所・広場等の維持管理



用水路の清掃などの共同作業

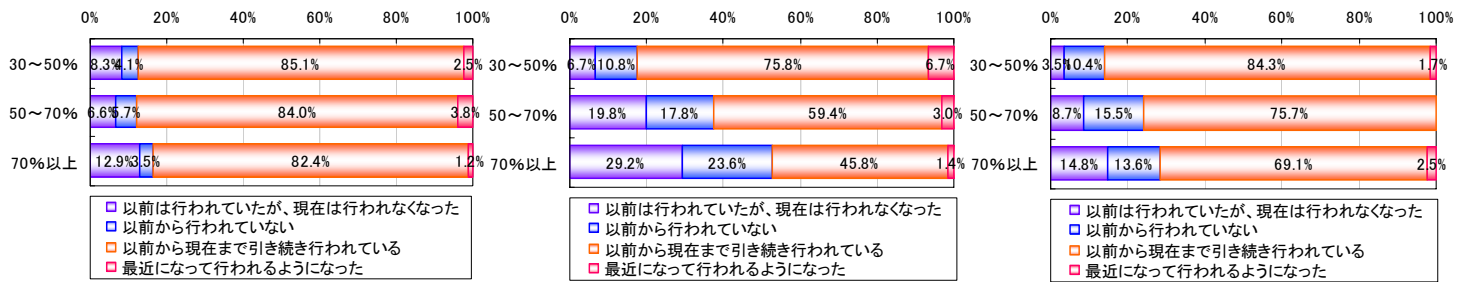


神社・仏閣・墓地の維持管理

○共有資産管理と高齢化率の関係

- 「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地の維持管理」、「集落所・広場等の維持管理」は、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われていない」の割合が高くなっている。
- 「集落道の草刈りなどの共同作業」は、一定の傾向は見られず、「以前から現在まで引き続き行われている」とする割合が8割を超える。

<高齢化率>



集落道の草刈りなどの共同作業

用水路の清掃などの共同作業

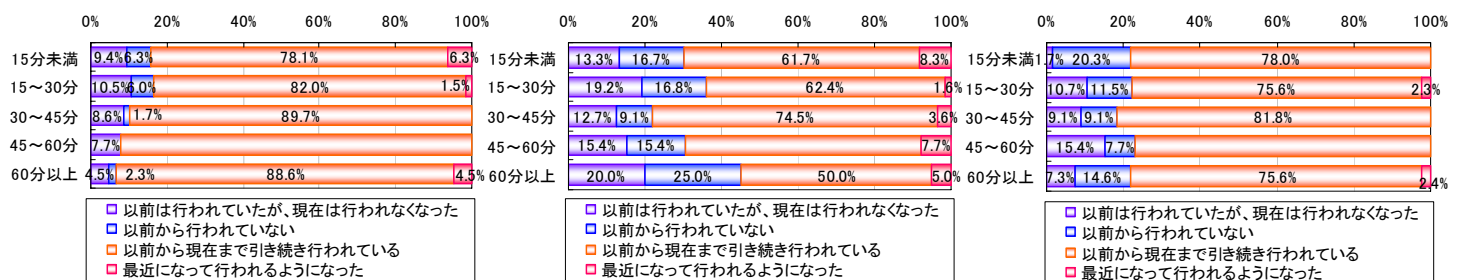
神社・仏閣・墓地の維持管理

集落所・広場等の維持管理

○「共有資産管理」と生活中心都市までの時間距離の関係

- 生活中心都市までの時間距離との関係では、一定の傾向は見られなかった。

<生活中心都市までの時間距離>



集落道の草刈りなどの共同作業

用水路の清掃などの共同作業

神社・仏閣・墓地の維持管理

集落所・広場等の維持管理

(3) 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況とその要因

○集落内での葬儀の実施状況

- 「集落内での葬儀の実施」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(55.4%)と回答した集落が最も多く、次いで「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(40.9%)と回答した集落であった。

○集落内での葬儀が行われなくなった主な要因

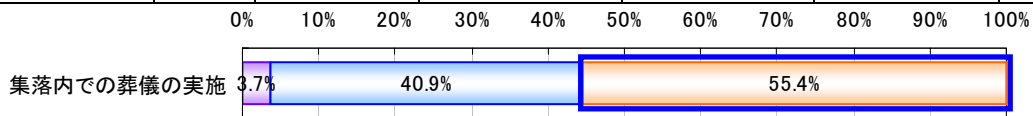
- 「集落内での葬儀の実施」が「行われなくなった」主な要因は、「人口の減少」(36 集落)が多く、次いで「人口の高齢化」(33 集落)となっている。

○集落内での葬儀が行われるようになった主な要因

- 「集落内での葬祭の実施」は、「最近になって行われるようになった」集落は存在しなかった。

表 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落内での葬儀の実施	度数	11	121	164	0	296
	%	3.7%	40.9%	55.4%	0.0%	100%



以前から行われていない 以前は行われていたが、現在は行われなくなった
 以前から現在まで引き続き行われている 最近になって行われるようになった

図 集落内での葬儀の実施状況

表 集落内での葬儀の実施

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	合計
特に理由はない	度数	4	14	54	0	72
	%	80.0%	15.4%	72.0%	0.0%	42.1%
人口の減少	度数	1	36	5	0	42
	%	20.0%	39.6%	6.7%	0.0%	24.6%
人口の高齢化	度数	0	33	7	0	40
	%	0.0%	36.3%	9.3%	0.0%	23.4%
農外就労の増加	度数	0	2	1	0	3
	%	0.0%	2.2%	1.3%	0.0%	1.8%
農林業の低迷	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	3	4	0	7
	%	0.0%	3.3%	5.3%	0.0%	4.1%
民間組織の支援	度数	0	3	4	0	7
	%	0.0%	3.3%	5.3%	0.0%	4.1%
計	度数	5	91	75	0	171
	%	100%	100%	100%	0%	100%

○集落内での祭りの実施状況

- ・ 「集落内での祭り」の実施は、「以前から現在まで引き続き行われている」(62.3%)と回答した集落が最も多くなっている。

○集落内での祭りが行われなくなった主な要因

- ・ 「集落内での祭り」が「行われなくなった」主な要因は「人口の減少」(36集落)が多く、次いで「人口の高齢化」(12集落)となっている。

○集落内での祭りが行われるようになった主な要因

- ・ 「集落内での祭り」は、「最近になって行われるようになった」集落は存在しなかった。

表 集落内での祭り

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落内での祭り	度数	46	67	187	0	300
	%	15.3%	22.3%	62.3%	0.0%	100%

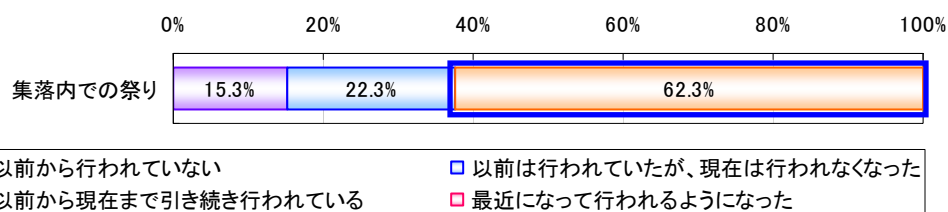


図 集落内での祭りの実施状況

表 集落内での祭り

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	合計
特に理由はない	度数	25	2	60	0	87
	%	78.1%	3.9%	69.8%	0.0%	51.5%
人口の減少	度数	6	36	10	0	52
	%	18.8%	70.6%	11.6%	0.0%	30.8%
人口の高齢化	度数	1	12	7	0	20
	%	3.1%	23.5%	8.1%	0.0%	11.8%
農外就労の増加	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
農林業の低迷	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	1	5	0	6
	%	0.0%	2.0%	5.8%	0.0%	3.6%
民間組織の支援	度数	0	0	4	0	4
	%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	2.4%
計	度数	32	51	86	0	169
	%	100%	100%	100%	0%	100%

○伝統芸能の継承活動の実施状況

- ・ 「伝統芸能の継承活動」は、「以前から行われていない」(47.0%)が最も高く、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(26.7%)を合わせると7割を超える。

○伝統芸能の継承活動が行われなくなった主な要因

- ・ 「伝統芸能の継承活動」が「行われなくなった」主な要因として「人口の減少」(38集落)が多く、次いで「人口の高齢化」(12集落)となっている。

表 伝統芸能の継承活動

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
伝統芸能の継承活動	度数	134	76	72	3	285
	%	47.0%	26.7%	25.3%	1.0%	100%

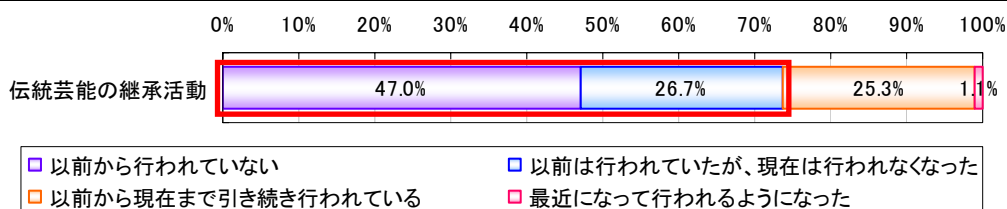


図 伝統芸能の継承活動の実施状況

表 伝統芸能の継承活動

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	合計
特に理由はない	度数	69	0	23	1	93
	%	81.2%	0.0%	57.5%	100.0%	52.2%
人口の減少	度数	10	38	5	0	53
	%	11.8%	73.1%	12.5%	0.0%	29.8%
人口の高齢化	度数	5	12	4	0	21
	%	5.9%	23.1%	10.0%	0.0%	11.8%
農外就労の増加	度数	1	2	0	0	3
	%	1.2%	3.8%	0.0%	0.0%	1.7%
農林業の低迷	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	5	0	5
	%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	2.8%
民間組織の支援	度数	0	0	3	0	3
	%	0.0%	0.0%	7.5%	0.0%	1.7%
計	度数	85	52	40	1	178
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○運動会や旅行などのレクリエーションの実施状況

- 「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(41.4%)が全体で最も高い割合を占め、「以前から行われていない」(18.2%)と「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(35.7%)を合わせると5割を超える。

○運動会や旅行などのレクリエーションが行われなくなった主な要因

- 「運動会や旅行などのレクリエーション」が行われなくなった主な要因として「人口の減少」(47集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の高齢化」(31集落)となっている。

○運動会や旅行などのレクリエーションが行われるようになった主な要因

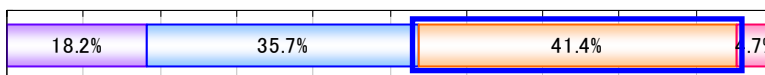
- 「運動会や旅行などのレクリエーション」が、「最近になって行われるようになった」集落は少ない。

表 運動会や旅行などのレクリエーションの実施

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
運動会や旅行などのレクリエーションの実施	度数 %	54 18.2%	106 35.7%	123 41.4%	14 4.7%	297 100%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

運動会や旅行などのレクリエーションの実施



- 以前から行われていない
- 以前は行われていたが、現在は行われなくなった
- 以前から現在まで引き続き行われている
- 最近になって行われるようになった

図 運動会や旅行などのレクリエーションの実施状況

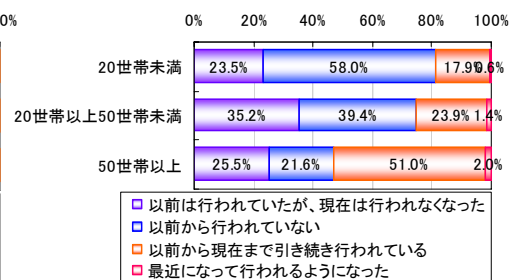
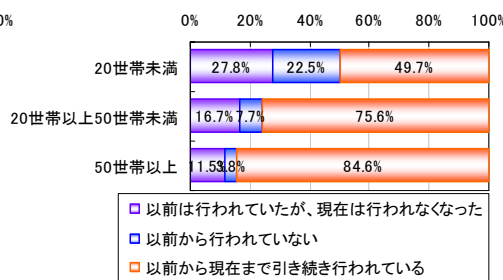
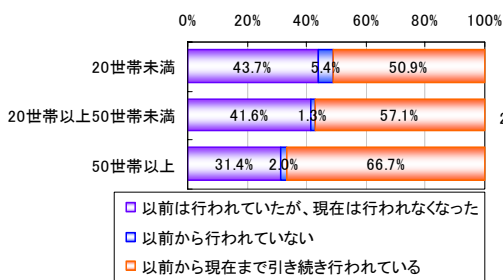
表 運動会や旅行などのレクリエーションの実施

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	合計
特に理由はない	度数 %	27 75.0%	1 1.2%	38 60.3%	2 50.0%	68 37.0%
人口の減少	度数 %	6 16.7%	47 58.0%	5 7.9%	1 25.0%	59 32.1%
人口の高齢化	度数 %	3 8.3%	31 38.3%	6 9.5%	0 0.0%	40 21.7%
農外就労の増加	度数 %	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
農林業の低迷	度数 %	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	11 17.5%	1 25.0%	12 6.5%
民間組織の支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	3 4.8%	0 0.0%	3 1.6%
計	度数 %	36 100%	81 100%	63 100%	4 100%	184 100%

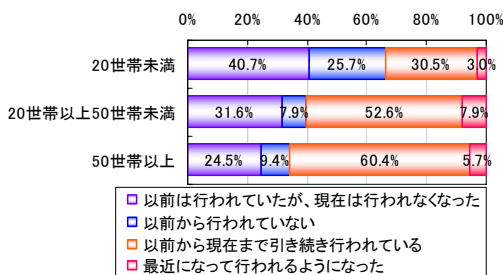
○冠婚葬祭・伝統継承等と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が小さいほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」の割合は高くなり、逆に「以前から現在まで引き続き行われている」の割合は低くなっている。

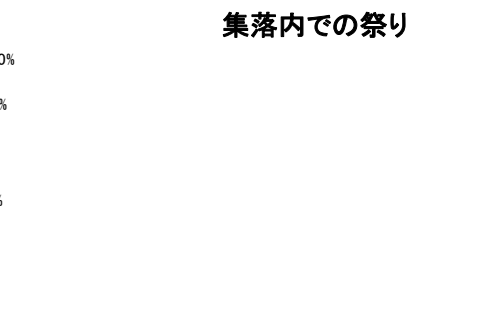
<世帯規模>



集落内での葬儀の実施



集落内での祭り



伝統芸能の継承活動

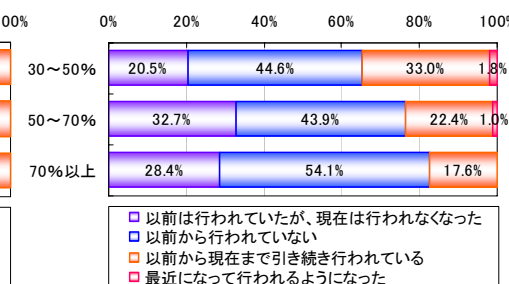
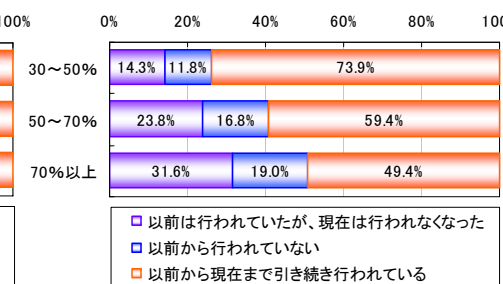
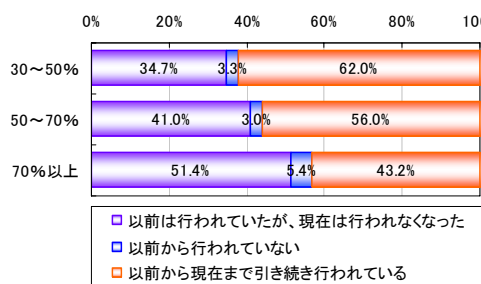


運動会や旅行などのレクリエーションの実施

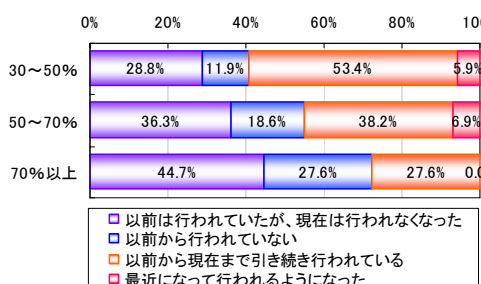
○冠婚葬祭・伝統継承等と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」の割合は高くなり、逆に「以前から現在まで引き続き行われている」の割合は低くなっている。

<高齢化率>



集落内での葬儀の実施



集落内での祭り



伝統芸能の継承活動

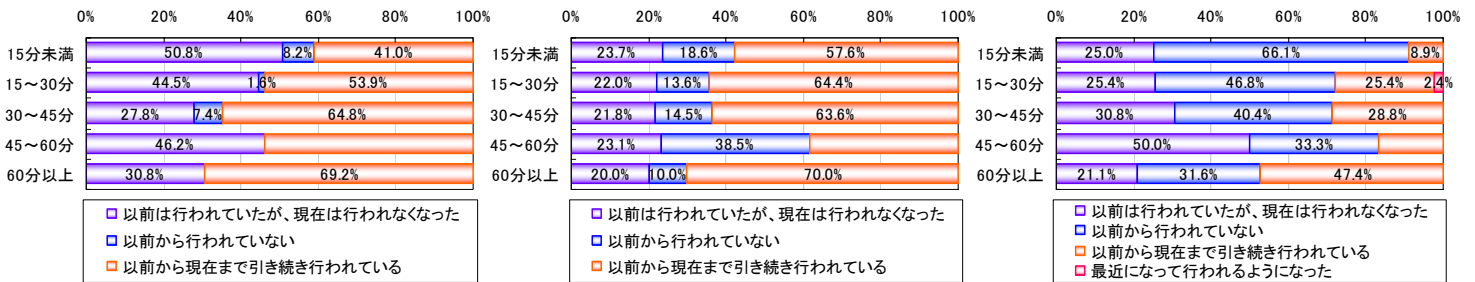


運動会や旅行などのレクリエーションの実施

○「冠婚葬祭・伝統継承等」と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・生活中心都市までの時間距離との関係では、一定の傾向は見られなかった。

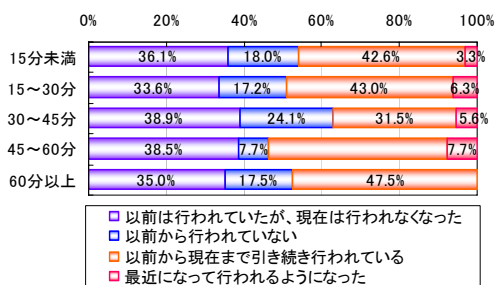
<生活中心都市までの時間距離>



集落内での葬儀の実施

集落内での祭り

伝統芸能の継承活動



運動会や旅行などのレクリエーションの実施

(4) まとめ

①「農林作業」の実施状況とその要因

○「農林作業」の実施状況

- ・ 農林作業の共同活動は行われていない（「以前から行われていない」または「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」と回答した集落が全体の約8割を占める。
- ・ 農林作業の実施状況は、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」という回答が高くなっている。

○要因

- ・ 農林作業の住民共同作業が行われなくなった主な要因として「人口の減少」、「人口の高齢化」を挙げる集落が多くなっている。「農作業の手間がえ・結い」では「農外就労の増加」や「農林業の低迷」を、「集落共有の山林・牧野の共同作業」では「農林業の低迷」を挙げる集落も多くなっている。
- ・ 農林作業の住民共同作業が最近行われるようになった主な要因としては、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」が多くなっている。

②「共有資産管理」の実施状況とその要因

○「共有資産管理」の実施状況

- ・ 共有資産管理の実施状況については、6～8割の集落が「以前から現在まで引き続き行われている」と回答しており、農林作業や冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況に比べ、実施している集落の割合が高くなっている。
- ・ 「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地の維持管理」、「集落所・広場等の維持管理」については、世帯規模が小さいほど、また、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われていない」の割合が高くなっており、特に、高齢化率でその傾向が顕著である。
- ・ 「集落道の草刈りなどの共同作業」については、世帯規模、高齢化率などとの関係では、一定の傾向は見られず、「以前から現在まで行われている」とする割合が8割を超える。これは、日常生活に直接影響が及ぶことに起因するものと考えられる。

○要因

- ・ 集落の共有資産管理が行われなくなった主な要因は、「人口の減少」、「人口の高齢化」を挙げる集落が多くなっている。
- ・ 共有資産管理が最近行われるようになった主な要因は、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」が多くなっている。

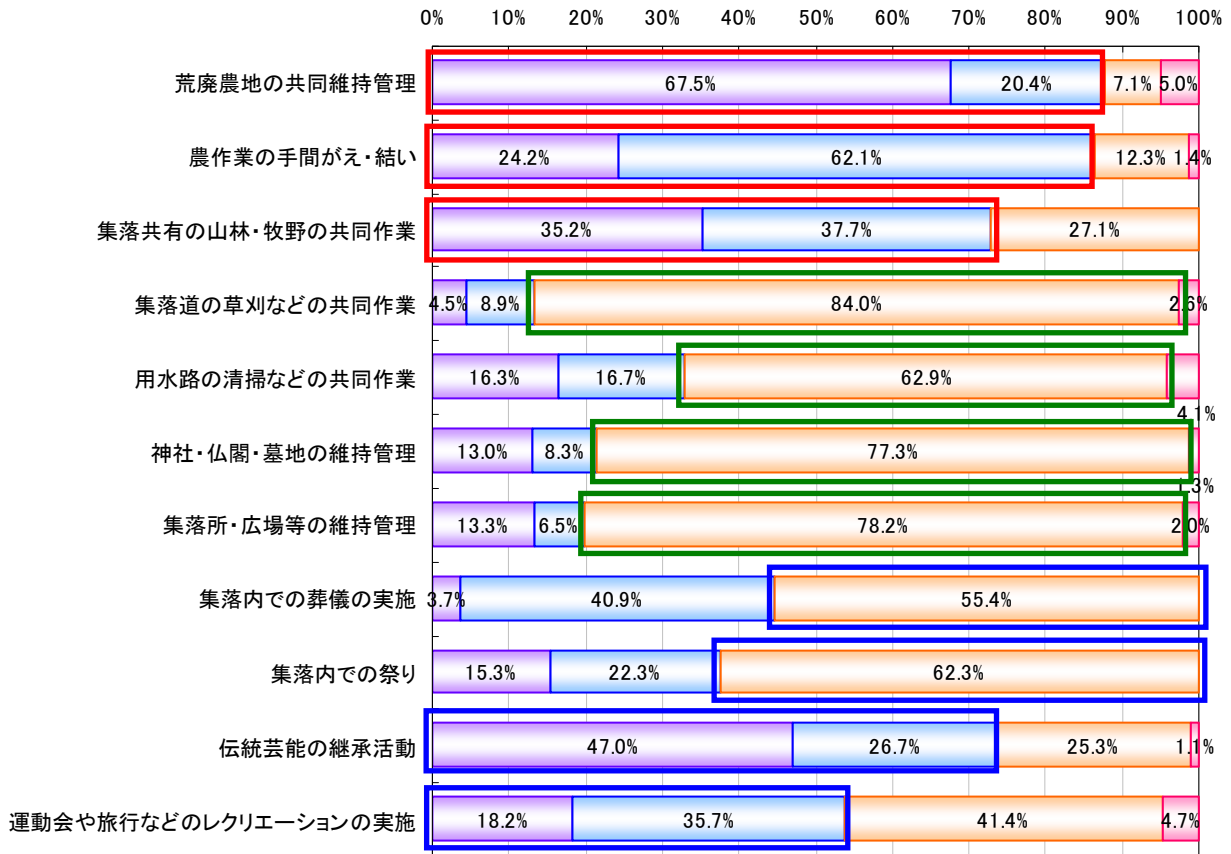
③「冠婚葬祭・伝統継承等」の実施状況とその要因

○「冠婚葬祭・伝統継承等」の実施状況

- ・ 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況をみると、「集落内での祭り」や「集落内での葬儀の実施」、「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」では、「以前から現在まで引き続き行われている」が最も高く、4～6割を占める。「伝統芸能の継承活動」では、「以前から行われていない」が最も高く約5割を占める。
- ・ 「集落内での葬儀の実施」、「集落内での祭り」、「伝統芸能の継承活動」、「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」のいずれにおいても、世帯規模が小さいほど、また、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」の割合は高くなる傾向にあり、逆に「以前から現在まで引き続き行われている」の割合は低くなる傾向にある。

○要因

- ・ 集落内の冠婚葬祭における住民共同活動が行われなくなった主な要因は、「集落内での葬儀の実施」では「人口の高齢化」を挙げる集落が多く、「集落内での祭り」や「伝統芸能の継承」、「運動会や旅行などのレクリエーション」の実施では「人口の減少」を挙げる集落が多くなっている。



■ 以前から行われていない ■ 以前は行われていたが、現在は行われなくなった
■ 以前から現在まで引き続き行われている ■ 最近になって行われるようになった

図 集落の住民共同活動の動態

3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識（質問2）

- 集落の住民共同活動や支援に対する意識を把握するため、下記の項目について、それぞれの度合いをたずねた。
 - 重要性の度合いとしては、「まったく重要ではない」、「あまり重要ではない」、「どちらともいえない」、「やや重要である」、「たいへん重要である」の5段階の選択肢より選んでいただいた。
- ①「農林作業」の重要性への意識(重要度)
- 「荒廃農地の共同維持管理」
 - 「農作業の手間がえ・結い」
 - 「集落共有の山林・牧野の共同作業」
- ②「共有資産管理」の重要性への意識(重要度)
- 「集落道の草刈」
 - 「用水路の清掃」
 - 「神社・仏閣・墓地の維持管理」
 - 「集会所・広場等の維持管理」
- ③「冠婚葬祭等」の重要性への意識(重要度)
- 「集落内での葬儀の実施」
 - 「伝統芸能の継承活動」
- ④「住民協働体制の重要性」の重要性への意識(重要度)
- 「集落内の寄り合いや話し合い」
 - 「他の集落との連携」
 - 「外部の人や団体からの支援受け入れ」
 - 「他出家族・親族とのきずなの強化」
 - 「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」
- ⑤「生活支援」の重要性への意識(重要度)
- 「訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ」
 - 「直売活動や交流活動の取り組み」
 - 「住民の足の確保」

(1) 「農林作業」の重要性への意識（重要度）

○荒廃農地の共同維持管理の重要度への意識（重要度）

- ・ 「荒廃農地の共同維持管理」は、「重要である」との回答が42.9%となり、「重要ではない」(30.0%)より高くなっている。

表 荒廃農地の共同維持管理の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
荒廃農地の共同維持管理	度数	37	49	78	66	57	287
	%	12.9%	17.1%	27.2%	23.0%	19.9%	100%

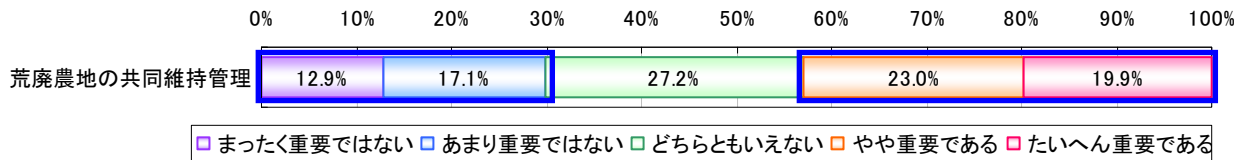


図 荒廃農地の共同維持管理の重要性への意識（重要度）

○農作業の手間がえ・結いの重要度への意識（重要度）

- ・ 「農作業の手間がえ・結い」は、「重要ではない」との回答が37.3%となり、「重要である」(33.1%)より、若干高くなっている。

表 農作業の手間がえ・結いの重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
農作業の手間がえ・結い	度数	41	66	85	62	33	287
	%	14.3%	23.0%	29.6%	21.6%	11.5%	100%

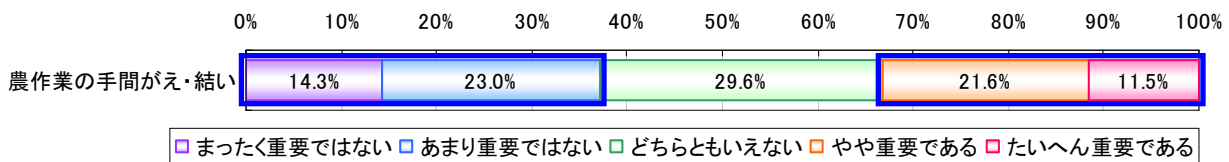


図 農作業の手間がえ・結いの重要性への意識（重要度）

○農作業の手間がえ・結いの重要度への意識（重要度）

- ・ 「集落共有の山林・牧野の共同作業」は、「重要である」との回答が45.5%となり、「重要ではない」(29.8%)より高くなっている。

表 集落共有の山林・牧野の共同作業の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落共有の山林・牧野の共同作業	度数	39	44	69	69	58	279
	%	14.0%	15.8%	24.7%	24.7%	20.8%	100%

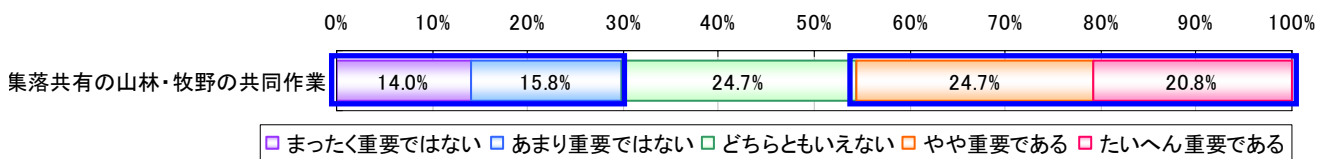
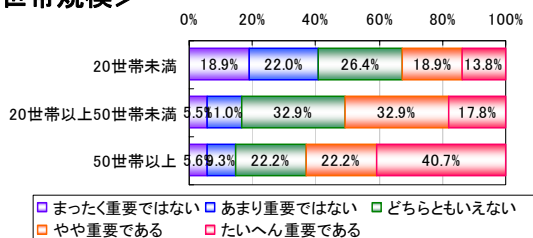


図 集落共有の山林・牧野の共同作業の重要性への意識（重要度）

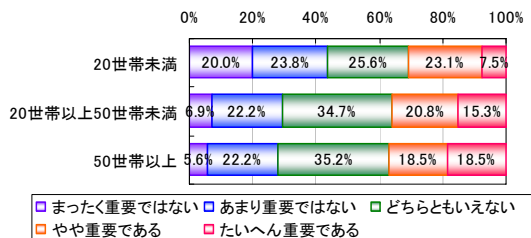
○「農林作業」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・ 「集落共有の山林・牧野の共同作業」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

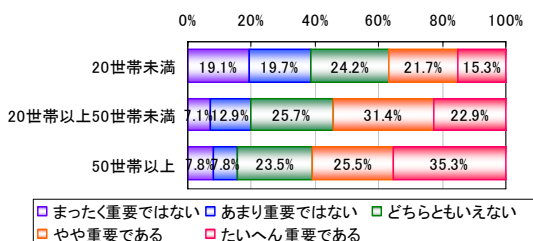
<世帯規模>



荒廃農地の共同維持管理



農作業の手間がえ・結い

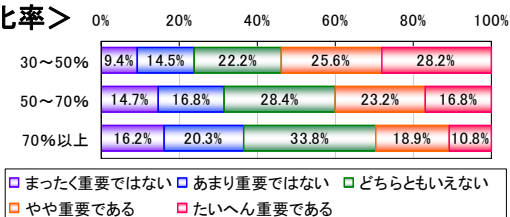


集落共有の山林・牧野の共同作業

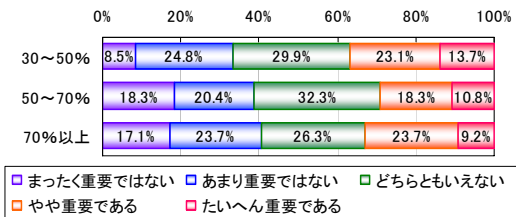
○「農林作業」の重要性への意識と高齢化率の関係

- ・ 農林作業の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「荒廃農地の共同維持管理」、及び「集落共有の山林・牧野の共同作業」の重要度は低くなっている。

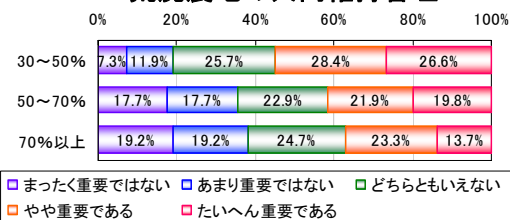
<高齢化率>



荒廃農地の共同維持管理



農作業の手間がえ・結い

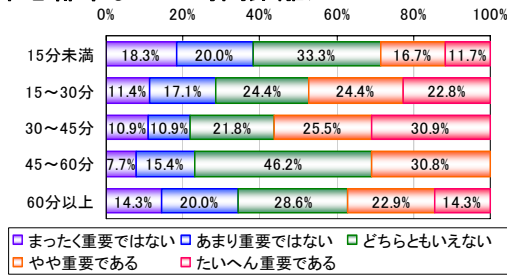


集落共有の山林・牧野の共同作業

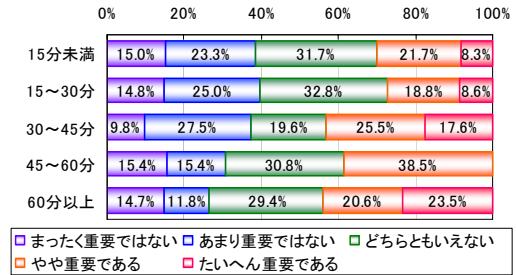
○「農林作業」の重要性への意識と生活中心都市への時間距離の関係

- ・ 農林作業の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離とは関連性が見られなかった。

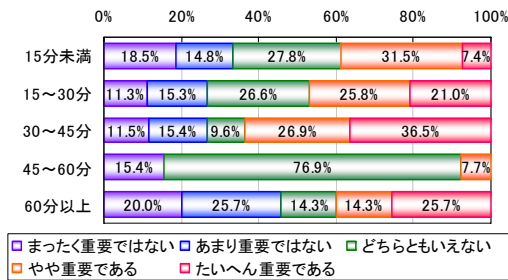
<生活中心都市までの時間距離>



荒廃農地の共同維持管理



農作業の手間がえ・結い

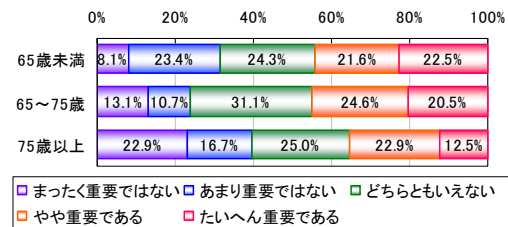


集落共有の山林・牧野の共同作業

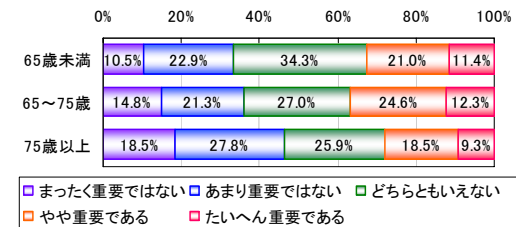
○「農林作業」の重要性への意識と回答者の年齢区分の関係

- ・ 農林作業の重要性への意識と回答者の年齢区分とは関連性が見られなかった。

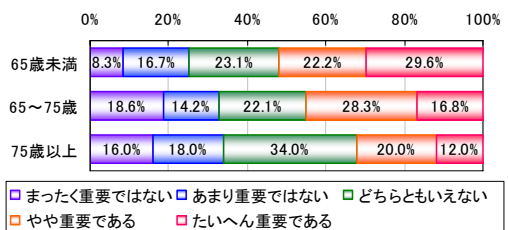
<回答者の年齢区分>



荒廃農地の共同維持管理



農作業の手間がえ・結い



集落共有の山林・牧野の共同作業

(2) 「共有資産管理」の重要性への意識（重要度）

○集落道の草刈などの共同作業の重要性への意識（重要度）

- ・ 「集落道の草刈などの共同作業」は、「重要である」との回答が 91.7%となっている。

表 集落道の草刈などの共同作業の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落道の草刈などの共同作業	度数	6	6	14	81	208	315
	%	1.9%	1.9%	4.4%	25.7%	66.0%	100%

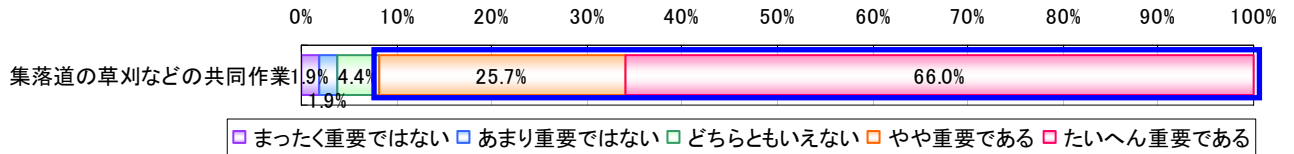


図 集落道の草刈などの共同作業の重要性への意識（重要度）

○用水路の清掃などの共同作業の重要性への意識（重要度）

- ・ 「用水路の清掃などの共同作業」は、「重要である」との回答が 81.7%となっている。

表 用水路の清掃などの共同作業の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
用水路の清掃などの共同作業	度数	24	13	19	87	163	306
	%	7.8%	4.2%	6.2%	28.4%	53.3%	100%

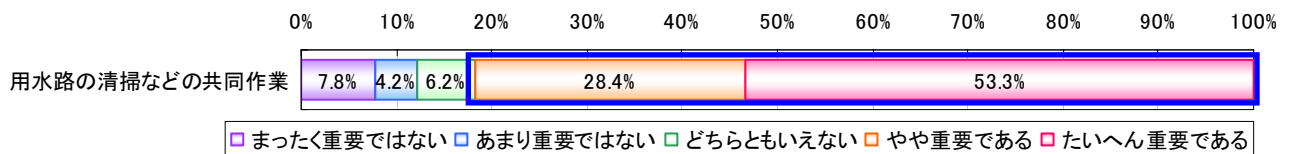


図 用水路の清掃などの共同作業の重要性への意識（重要度）

○神社・仏閣・墓地の維持管理の重要性への意識（重要度）

- ・ 「神社・仏閣・墓地の維持管理」は、「重要である」との回答が 82.8%となっている。

表 神社・仏閣・墓地の維持管理の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
神社・仏閣・墓地の維持管理	度数	12	13	27	100	150	302
	%	4.0%	4.3%	8.9%	33.1%	49.7%	100%

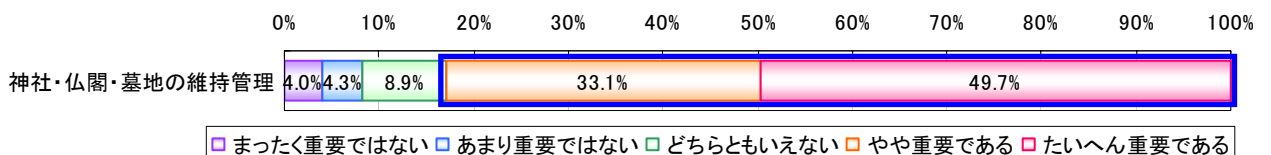


図 神社・仏閣・墓地の維持管理の重要性への意識（重要度）

○集会所・広場等の維持管理の重要性への意識(重要度)

- ・ 「集会所・広場等の維持管理」は、「重要である」との回答が87.5%となっている。

表 集会所・広場等の維持管理の重要性への意識(重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集会所・広場等の維持管理	度数	15	6	16	91	170	298
	%	5.0%	2.0%	5.4%	30.5%	57.0%	100%

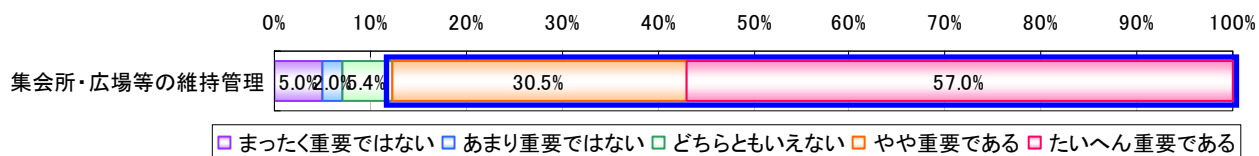
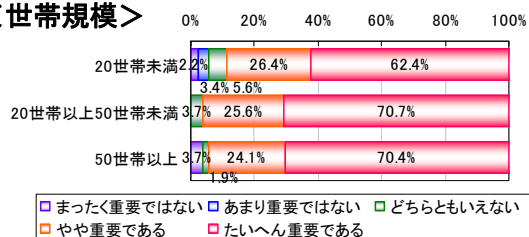


図 集会所・広場等の維持管理の重要性への意識(重要度)

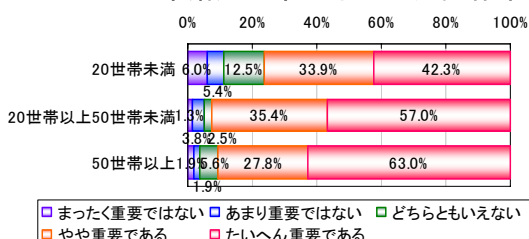
○「共有資産管理」の重要性への意識と世帯規模の関係

- 「集会所・広場等の維持管理」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

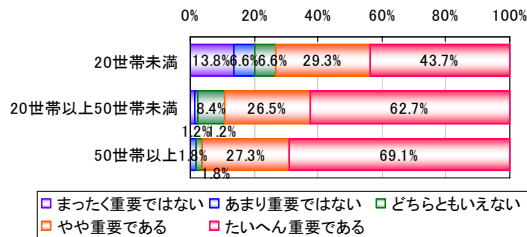
<世帯規模>



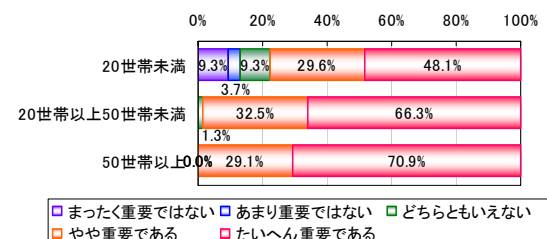
集落道の草刈などの共同作業



神社・仏閣・墓地などの維持管理



用水路の清掃などの共同作業

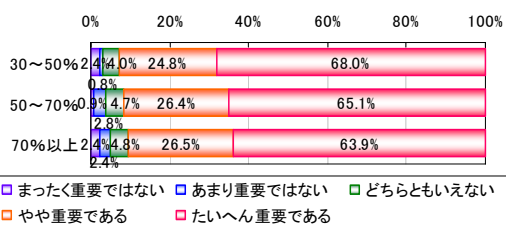


集会所・広場等の維持管理

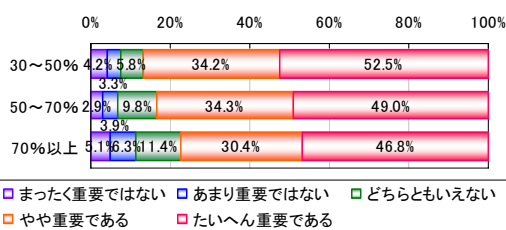
○「共有資産管理」の重要性への意識と高齢化率の関係

- 共有資産管理に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「用水路の清掃などの共同作業」、及び「集会所・広場等の維持管理」の重要度は低くなっている。

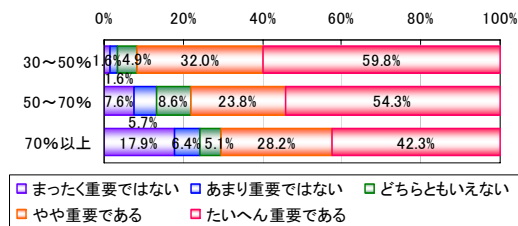
<高齢化率>



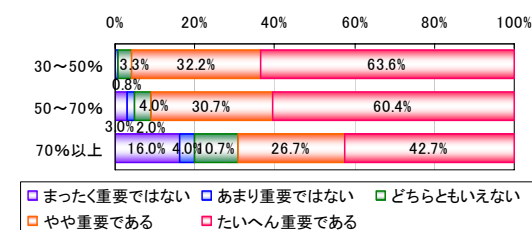
集落道の草刈などの共同作業



神社・仏閣・墓地などの維持管理



用水路の清掃などの共同作業

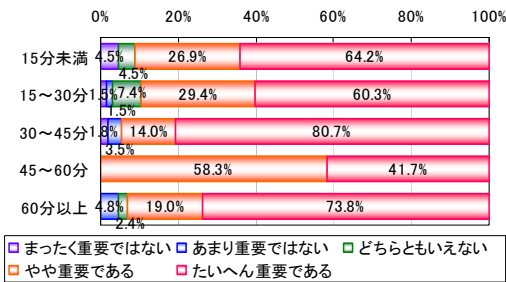


集会所・広場等の維持管理

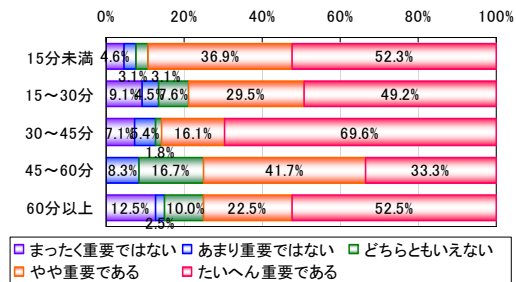
○「共有資産管理」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- 共有資産管理の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離との関連性が見られなかった。

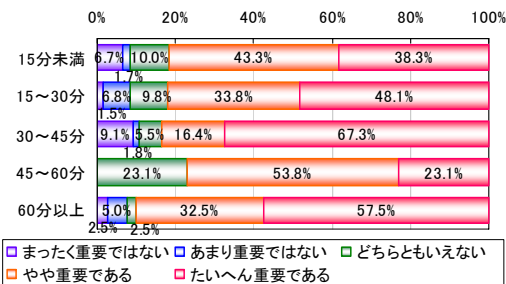
<生活中心都市までの時間距離>



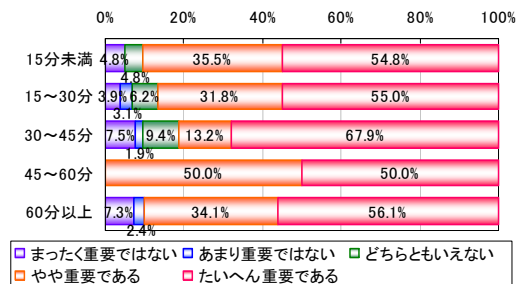
集落道の草刈などの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



神社・仏閣・墓地などの維持管理

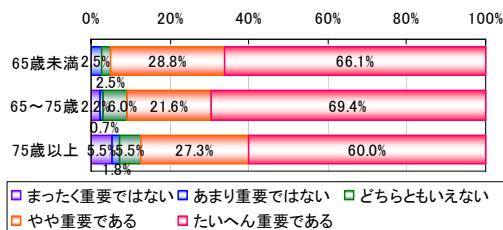


集会所・広場等の維持管理

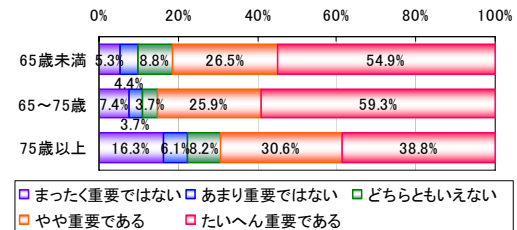
○「共有資産管理」の重要性への意識と回答者の年齢区分の関係

- 共有資産管理の重要性への意識と回答者の年齢区分とは関連性が見られなかった。

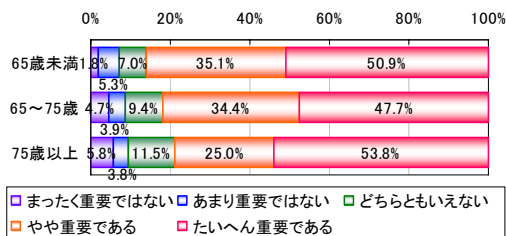
<回答者の年齢区分>



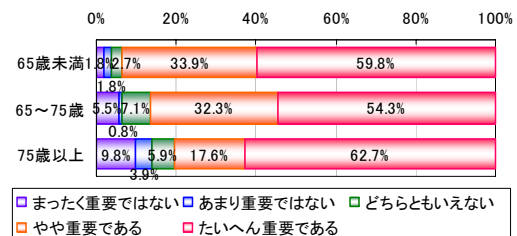
集落道の草刈などの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



神社・仏閣・墓地などの維持管理



集会所・広場等の維持管理

(3) 「冠婚葬祭等」の重要性への意識（重要度）

○集落内での葬儀の実施の重要性への意識（重要度）

- ・ 「集落内での葬儀の実施」は、「重要である」との回答が 47.0%となり、「重要ではない」(24.1%)より高くなっている。

表 集落内での葬儀の実施の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落内での葬儀の実施	度数	20	54	88	54	90	306
	%	6.5%	17.6%	28.8%	17.6%	29.4%	100%

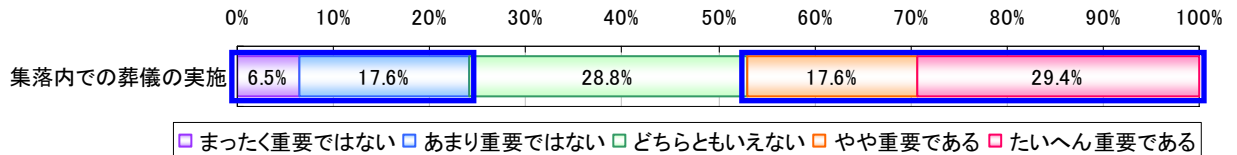


図 集落内での葬儀の実施の重要性への意識（重要度）

○伝統芸能の継承活動の重要性への意識（重要度）

- ・ 「集落内での継承活動」は、「重要である」との回答が 40.8%となり、「重要ではない」(30.6%)より高くなっている。

表 伝統芸能の継承活動の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
伝統芸能の継承活動	度数	47	40	81	60	56	284
	%	16.5%	14.1%	28.5%	21.1%	19.7%	100%

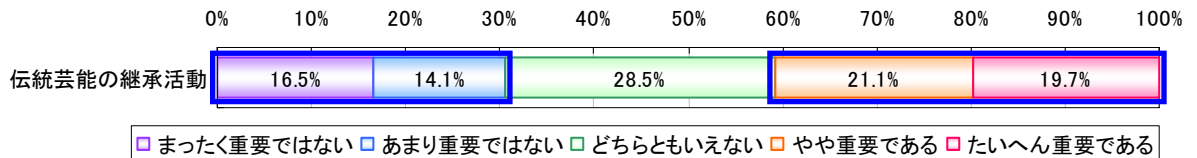
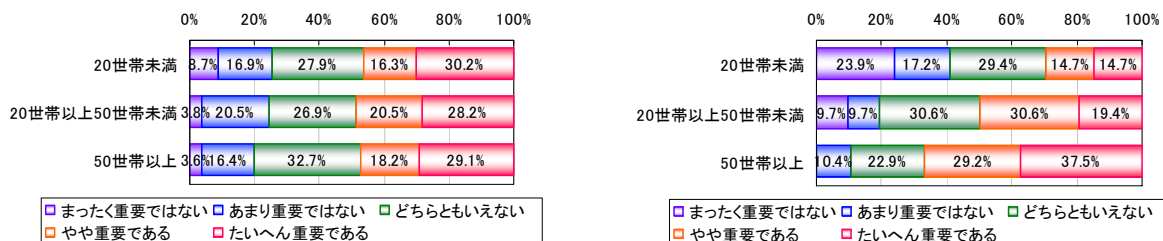


図 伝統芸能の継承活動の重要性への意識（重要度）

○冠婚葬祭等の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・ 「伝統芸能の継承活動」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

<世帯規模>



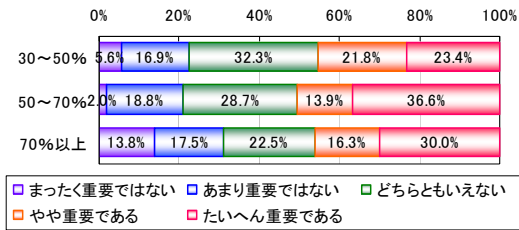
集落内での葬儀の実施

伝統芸能の継承活動

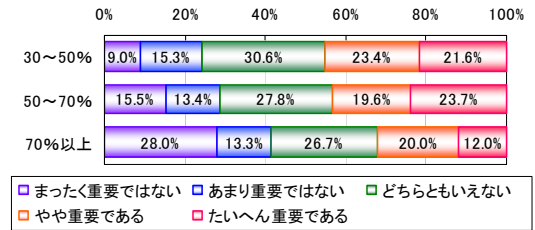
○冠婚葬祭等の重要性への意識と高齢化の関係

- ・ 「伝統芸能の継承活動」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

<高齢化率>



集落内での葬儀の実施

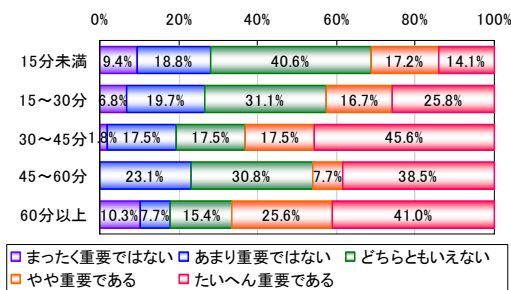


伝統芸能の継承活動

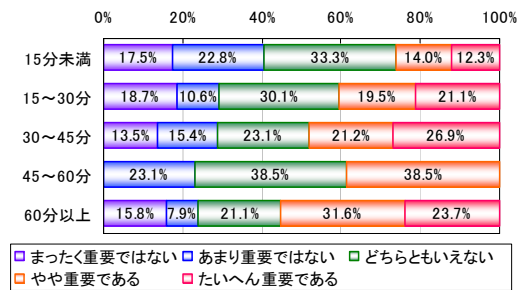
○冠婚葬祭等の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 冠婚葬祭等の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離は関連性が見られなかった。

<生活中心都市までの時間距離>



集落内での葬儀の実施

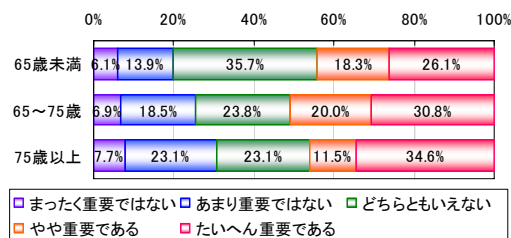


伝統芸能の継承活動

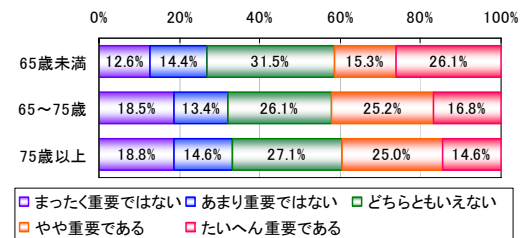
○冠婚葬祭等の重要性への意識と回答者の年齢区分の関係

- ・ 冠婚葬祭等の重要性への意識と回答者の年齢区分は関連性が見られなかった。

<回答者の年齢区分>



集落内での葬儀の実施



伝統芸能の継承活動

(4) 住民協働体制の重要性への意識（重要度）

○集落内の寄り合いや話し合いの活性化の重要性への意識(重要度)

- ・ 「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」は、「重要である」との回答が、約9割を占める。

表 集落内の寄り合いや話し合いの活性化の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落内の寄り合いや話し合いの活性化	度数	5	7	23	123	155	313
	%	1.6%	2.2%	7.3%	39.3%	49.5%	100%

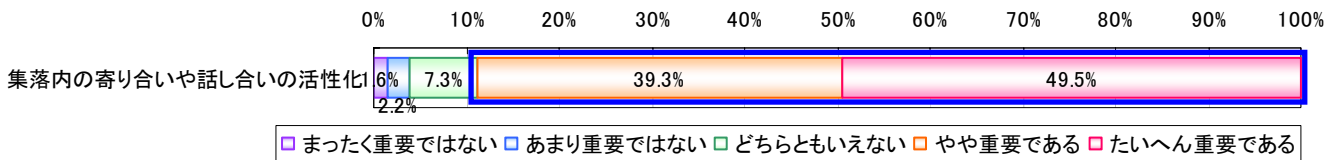


図 集落内の寄り合いや話し合いの活性化の重要性への意識（重要度）

○他の集落との連携の重要性への意識(重要度)

- ・ 「他の集落との連携」は、「重要である」との回答が、約8割を占める。

表 他の集落との連携の重要性の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
他の集落との連携	度数	5	11	42	149	104	311
	%	1.6%	3.5%	13.5%	47.9%	33.4%	100%

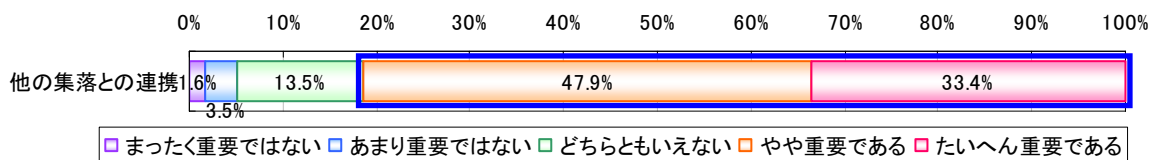


図 他の集落との連携の重要性への意識（重要度）

○外部の人や団体からの支援受け入れの重要性への意識(重要度)

- ・ 「外部の人や団体からの支援受け入れ」は、「重要である」との回答は約5割であり、他より重要度は低くなっている。

表 外部の人や団体からの受け入れの重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
外部の人や団体からの支援受け入れ	度数	11	27	90	105	61	294
	%	3.7%	9.2%	30.6%	35.7%	20.7%	100%

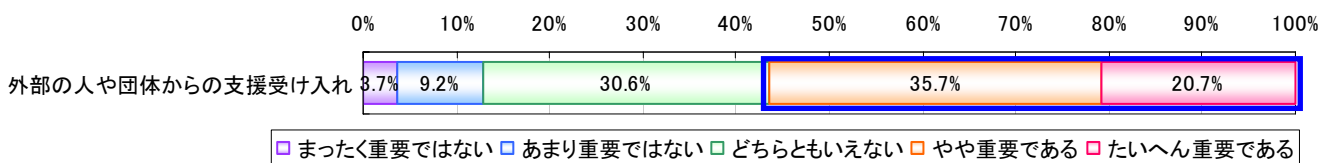


図 外部の人や団体からの支援の受け入れの重要性への意識（重要度）

○他出家族・親族とのきずな強化の重要性への意識(重要度)

- ・ 「他出家族・親族とのきずな強化」は、「重要である」との回答が、約8割を占める。

表 他出家族・親族とのきずな強化の重要性への意識(重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
他出家族・親族とのきずな強化	度数	3	6	45	127	122	303
	%	1.0%	2.0%	14.9%	41.9%	40.3%	100%

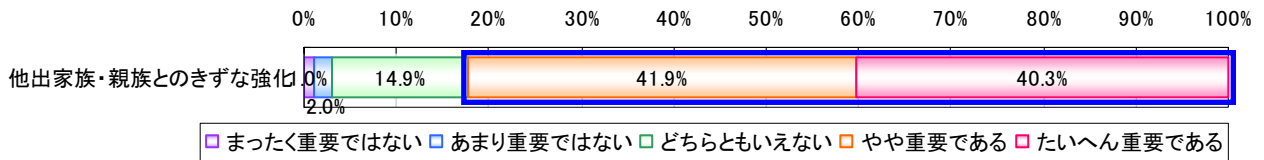


図 他出家族・親族とのきずな強化の重要性への意識(重要度)

○行政と一緒に取り組む地域づくり活動の重要性への意識(重要度)

- ・ 「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」は、「重要である」との回答が、約8割を占める。

表 行政と一緒に取り組む地域づくり活動の重要性への意識(重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
行政と一緒に取り組む地域づくり活動	度数	5	4	35	95	172	311
	%	1.6%	1.3%	11.3%	30.5%	55.3%	100%

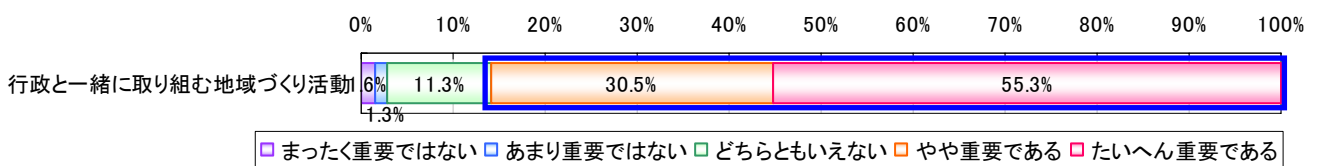
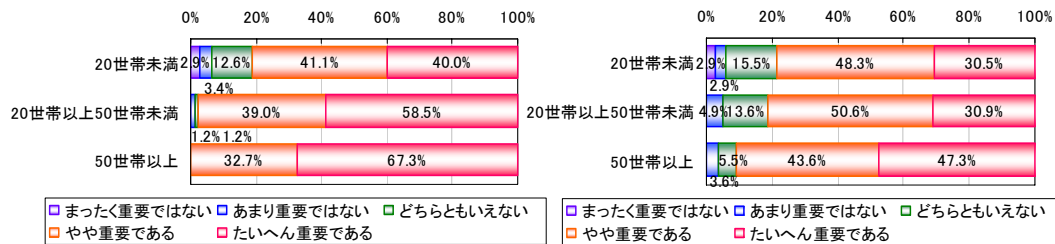


図 行政と一緒に取り組む地域づくり活動の重要性への意識(重要度)

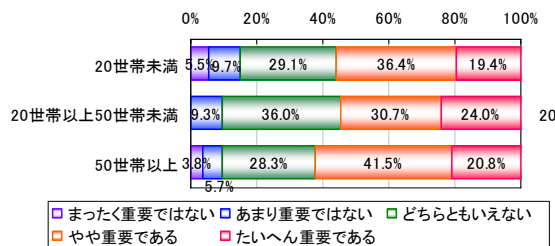
○「住民協働体制」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・ 「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」と「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

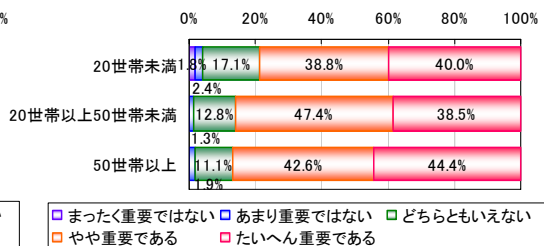
<世帯規模>



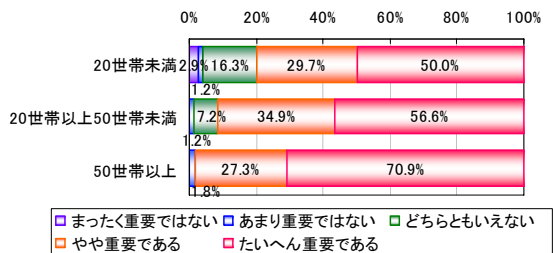
集落内の寄り合いや話し合いの活性化



他の集落との連携



外部の人や団体からの支援受け入れ



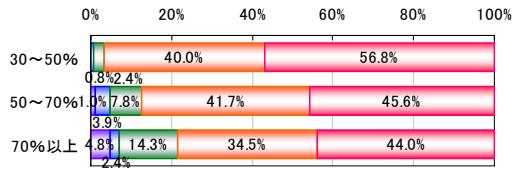
他出家族・親族とのきずな強化

行政と一緒に取り組む地域づくり活動

○「住民協働体制」の重要性への意識と高齢化率の関係

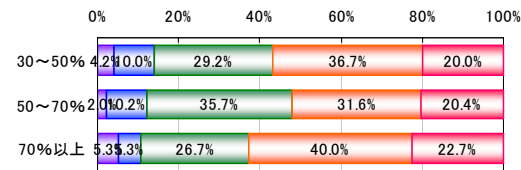
- ・ 「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」と「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

<高齢化率>



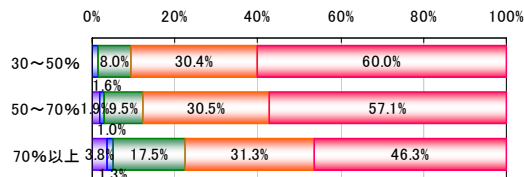
■ まったく重要ではない
 ■ あまり重要ではない
 ■ どちらともいえない
■ やや重要である
 ■ たいへん重要である

集落内の寄り合いや話し合いの活性化



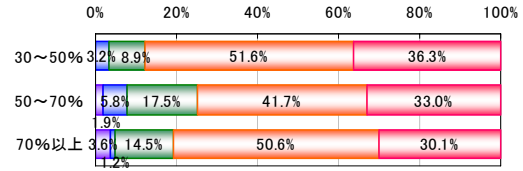
■ まったく重要ではない
 ■ あまり重要ではない
 ■ どちらともいえない
■ やや重要である
 ■ たいへん重要である

外部の人や団体からの支援受け入れ



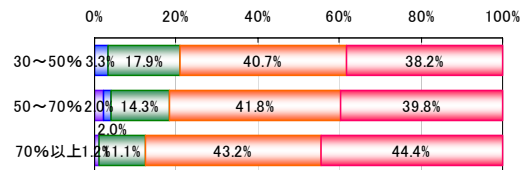
■ まったく重要ではない
 ■ あまり重要ではない
 ■ どちらともいえない
■ やや重要である
 ■ たいへん重要である

行政と一緒に取り組む地域づくり活動



■ まったく重要ではない
 ■ あまり重要ではない
 ■ どちらともいえない
■ やや重要である
 ■ たいへん重要である

他の集落との連携



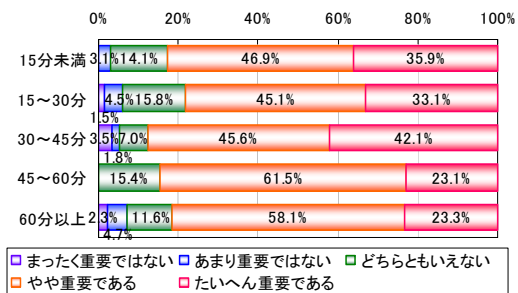
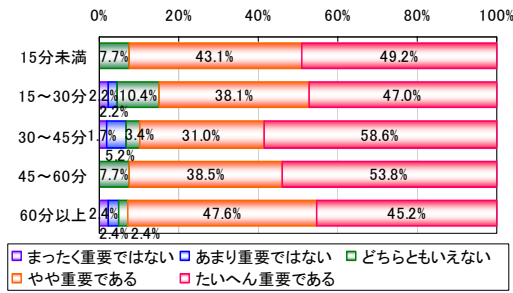
■ まったく重要ではない
 ■ あまり重要ではない
 ■ どちらともいえない
■ やや重要である
 ■ たいへん重要である

他出家族・親族とのきずな強化

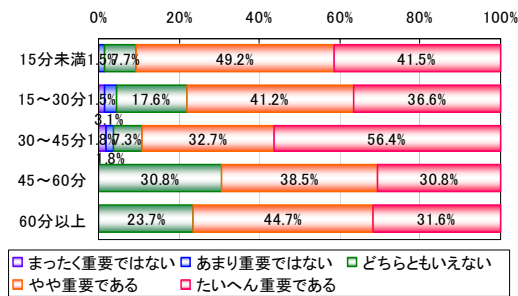
○「住民協働体制」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 「住民協働体制」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離は関連性が見られなかった。

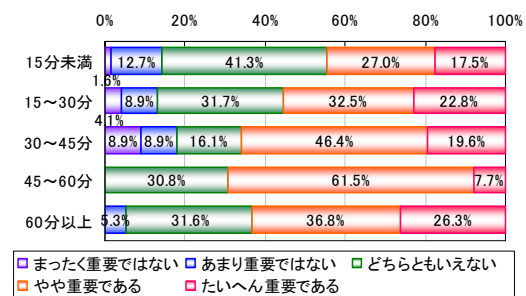
＜生活中心都市までの時間距離＞



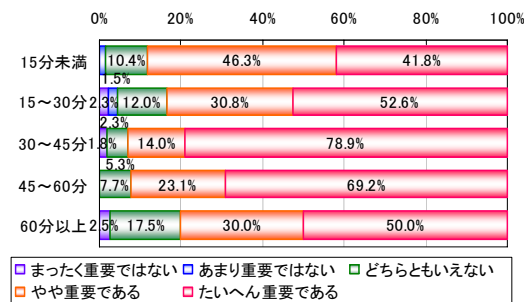
集落内の寄り合いや話し合いの活性化



他の集落との連携



他大家族・親族とのきずな強化



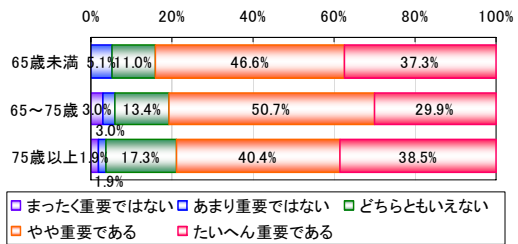
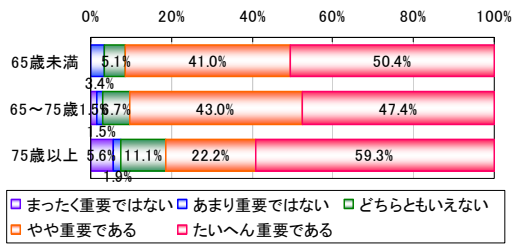
外部の人や団体からの支援受け入れ

行政と一緒に取り組む地域づくり活動

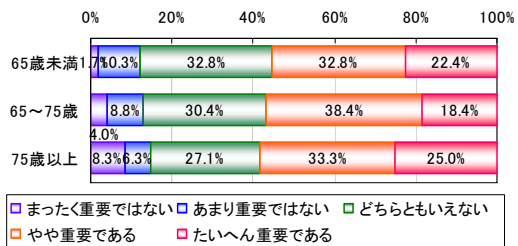
○「住民協働体制」の重要性への意識回答者の年齢区分との関係

- ・ 「住民協働体制」の重要性への意識回答者の年齢区分は関連性が見られなかった。

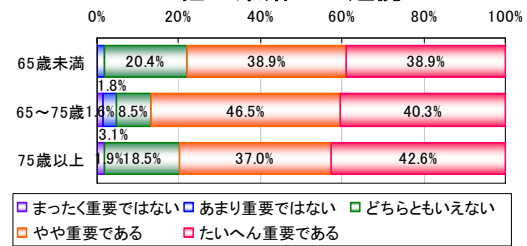
<回答者の年齢区分>



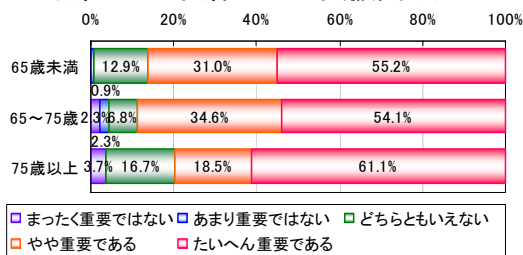
集落内の寄り合いや話し合いの活性化



他の集落との連携



外部の人や団体からの支援受け入れ



他出家族・親族とのきずな強化

行政と一緒に取り組む地域づくり活動

(5) 生活支援の重要性への意識（重要度）

○訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れの重要性への意識(重要度)

- ・ 「訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れ」が「重要である」との回答が約8割を占める。

表 訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れの重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れ	度数	9	5	41	105	145	305
	%	3.0%	1.6%	13.4%	34.4%	47.5%	100%

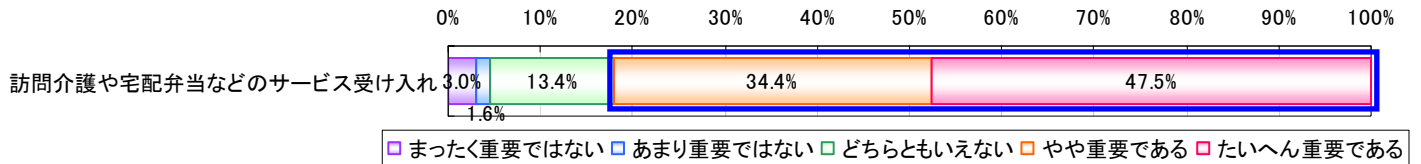


図 訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れの重要性への意識（重要度）

○直売活動や交流活動の取り組みの重要性への意識(重要度)

- ・ 「直売活動や交流活動の取り組み」が「重要である」との回答が約5割を占める。

表 直売活動や交流活動の取り組みの重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
直売活動や交流活動の取り組み	度数	13	21	97	101	67	299
	%	4.3%	7.0%	32.4%	33.8%	22.4%	100%

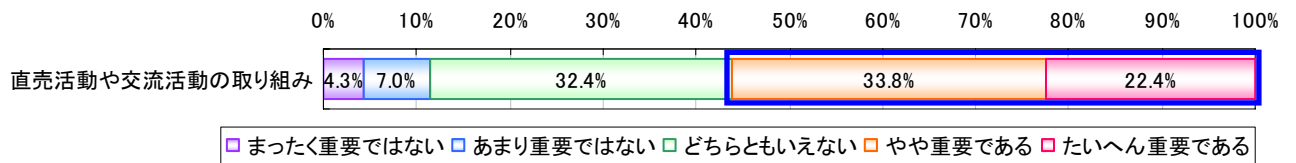


図 直売活動や交流活動の取り組みの重要性への意識（重要度）

○住民の「足の便」の確保の重要性への意識(重要度)

- ・ 「住民の「足の便」の確保」については、「重要である」との回答が約9割を占め、特にそのうち「大変重要である」との回答が7割を占める。

表 住民の「足の便」の確保の重要性への意識(重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
住民の「足の便」の確保	度数	3	8	19	72	205	307
	%	1.0%	2.6%	6.2%	23.5%	66.8%	100%

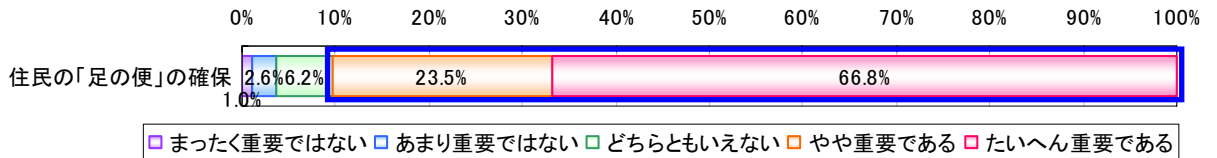
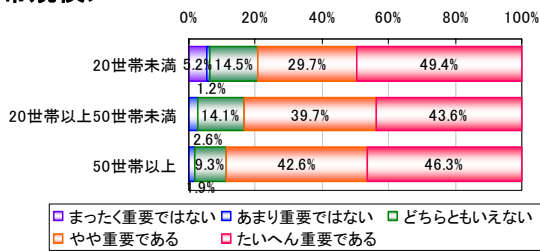


図 集落への生活支援の重要性への意識(重要度)

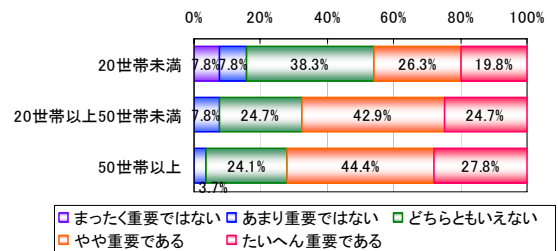
○「生活支援」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・ 住民共同活動に対する生活支援の重要性への意識と世帯規模とは関連性がみられなかった。

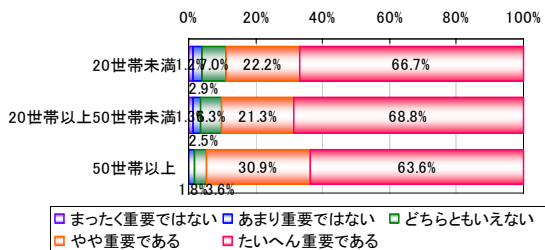
<世帯規模>



訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ



直売活動や交流活動の取り組み

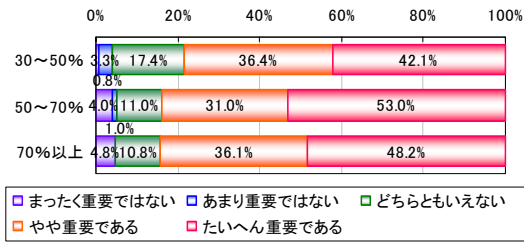


住民の「足の便」の確保

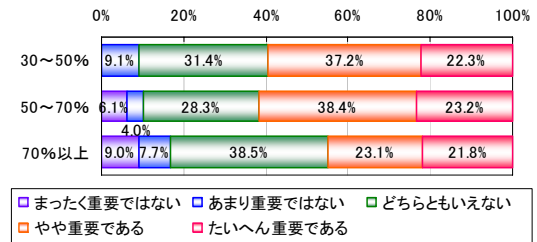
○「生活支援」の重要性への意識と高齢化率の関係

- ・ 集落の住民共同活動に対する生活支援の重要性への意識と高齢化率は関連性がみられなかった。

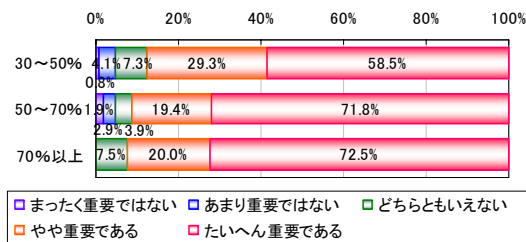
<高齢化率>



訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ



直売活動や交流活動の取り組み

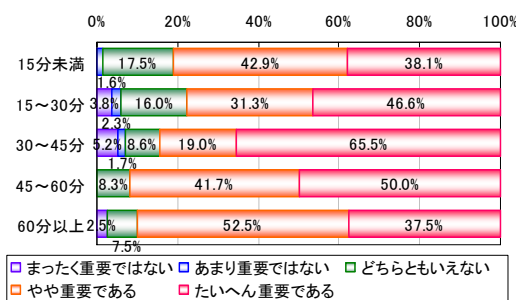


住民の「足の便」の確保

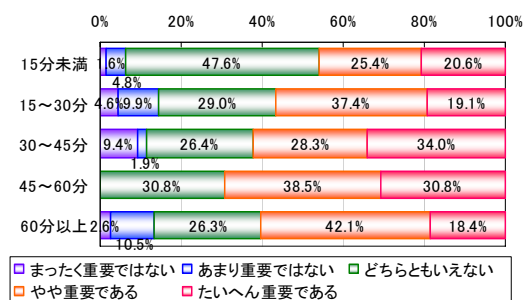
○「生活支援」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 「直売活動や交流活動の取り組み」と「住民の「足の便」の確保」については、「重要である」と「やや重要である」をあわせると、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、重要と認識する回答割合が高くなる傾向にある。
- ・ 60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

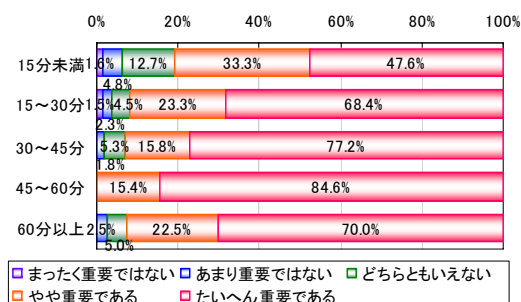
<生活中心都市までの時間距離>



訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ



直売活動や交流活動の取り組み

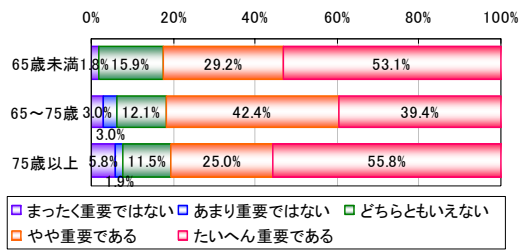


住民の「足の便」の確保

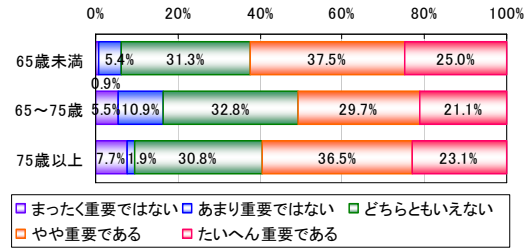
○「生活支援」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 集落の住民共同活動に対する生活支援の重要性への意識と回答者の年齢区分は関連性がみられなかった。

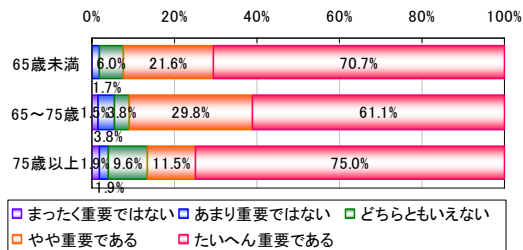
＜回答者の年齢区分＞



訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ



直売活動や交流活動の取り組み



住民の「足の便」の確保

(6) まとめ

①「農林作業」の重要性への意識（重要度）

- ・ 農林作業の住民共同活動が「重要である」と意識している集落は全体の3～4割程度であり、「重要ではない」より、若干重要度の高い傾向となっている。
- ・ 集落の農林作業に対する住民共同活動の重要性への意識と世帯規模の関係を見ると、集落世帯規模が小さくなるほど、農林作業の重要度は低くなっている。
- ・ 集落の農林作業に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「荒廃農地の共同維持管理」、及び「集落共有の山林・牧野の共同作業」の重要度は低くなっている。

②「共有資産管理」の重要性への意識（重要度）

- ・ 集落の共有資産管理の重要度はとても高くなっている。（全体の8割～9割以上の集落）
- ・ 集落の共有資産管理に対する住民共同活動の重要性への意識と世帯規模の関係を見ると、集落世帯規模が小さくなるほど、共有資産管理の重要度は低くなっている。
- ・ 集落の共有資産管理に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「用水路の清掃などの共同作業」、及び「集会所・広場等の維持管理」の重要度は低くなっている。

③「冠婚葬祭等」の重要性への意識（重要度）

- ・ 冠婚葬祭等の重要性については「重要である」が4～5割、「重要でない」が2～3割となっており、「重要である」との重要度が若干高くなっている。
- ・ 集落の集団活動に対する住民共同活動の重要性への意識と世帯規模の関係を見ると、「伝統芸能の継承活動」において、集落世帯規模が小さくなるほど、「伝統芸能の継承活動」に対する重要度は低くなっている。
- ・ 集落の集団活動に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「用水路の清掃などの共同作業」、及び「集会所・広場等の維持管理」の重要度は低くなっている。

④「住民協働体制」の重要性への意識（重要度）

- ・ 集落の相互扶助や外部からの支援など、その協働体制の重要性については、「大変重要である」、「やや重要である」が約6割～9割と大半を占め、その重要度が高くなっている。
- ・ 但し、「外部の人や団体からの支援受け入れ」について「重要である」と認識している集落は、全体の5割程度であり、他より重要度は低くなっている。

⑤「生活支援」の重要性への意識（重要度）

- ・ 集落支援の取り組みでは「訪問介護や宅配弁当の受け入れ」、「足の確保」、「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」の重要度が高くなっている。（全体の概ね8割が重要であると認識している。）
- ・ 「直売活動や交流活動の取り組み」を重要であると意識している集落は全体の5割程度である。

4. 居住継続に対する意識

(1) 居住継続に対する意識（質問3）

- 現在居住している集落への今後の居住意向について把握するため、下記の項目についての意識をたずね、4つの選択肢について選んでいただいた。
- 「今後とも住み続けたい」
- 「状況によっては離れざるを得ない」
- 「近い将来、子供たちのところなど集落を離れるつもりである」
- 「その他」

○居住継続に対する意識

- ・ 「今後とも住み続けたい」と回答した集落が約7割（223集落）を占める。一方で、「状況によっては離れざるを得ない」、「離れるつもり」との回答が、合わせて約3割（90集落）を占める。

表 集落の居住継続に対する意識

回答項目	居住意向	割合(%)
今後とも住み続けたい	223	70.8%
状況によっては離れざるを得ない	79	25.1%
近い将来、子供たちのところなど、集落を離れるつもりである	11	3.5%
その他(具体的に:)	2	0.6%
合計	315	100%

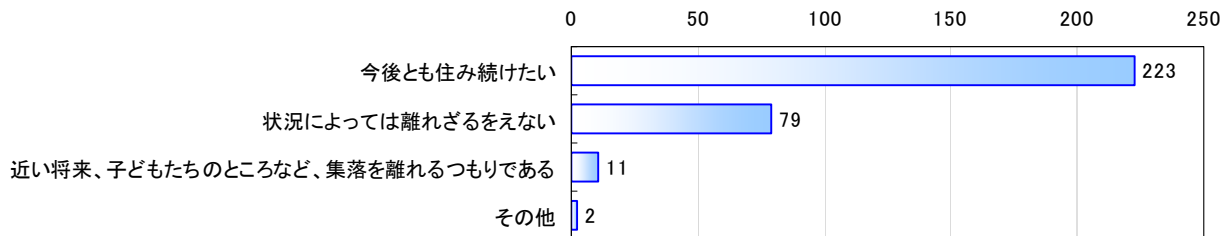


図 集落の居住継続に対する意識

○居住継続に対する意識と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が小さくなるほど、「集落を離れざるを得ない」、「離れるつもりである」との回答が多くなっている。

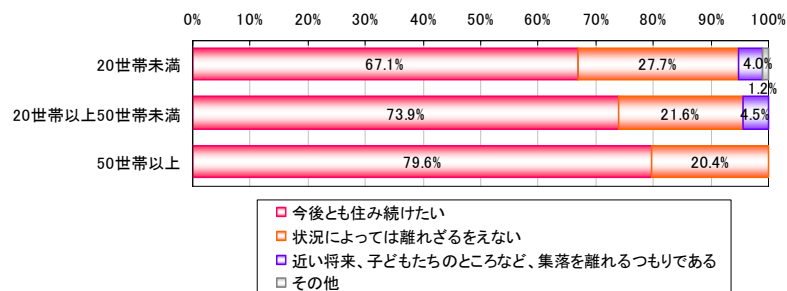


図 集落の居住継続に対する意識と集落の世帯規模との関係

○居住継続に対する意識と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高くなるほど、「集落を離れざるを得ない」、「離れるつもりである」との回答が多くなっている。

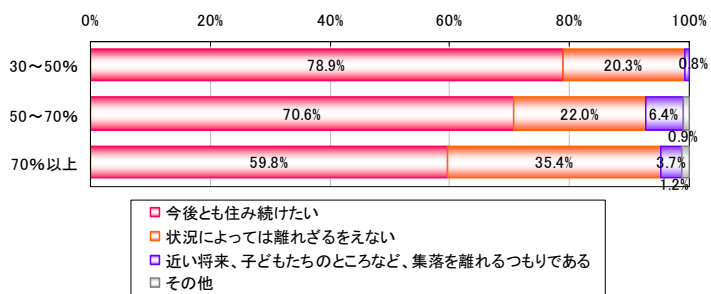


図 集落の居住継続に対する意識と集落の高齢化率との関係

○居住継続に対する意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 居住継続意志と生活中心都市までの時間距離は関連性がみられなかった。

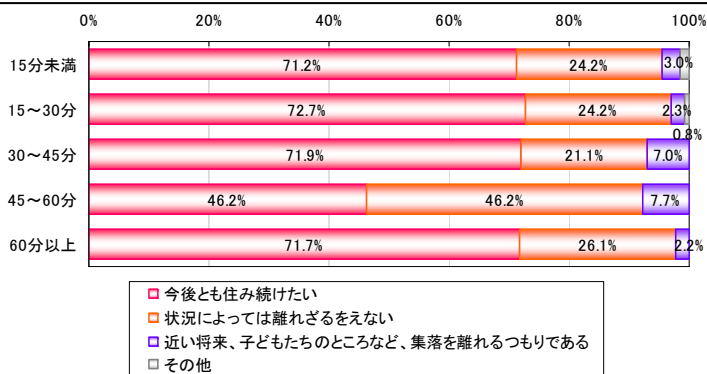


図 集落の居住継続に対する意識と生活中心都市までの時間距離との関係

○居住継続に対する意識と回答者の年齢区分の関係

- ・ 居住継続意志と回答者の年齢区分は関連性がみられなかった。

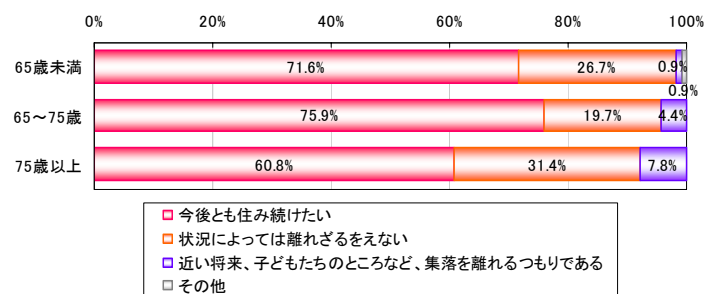


図 集落の居住継続に対する意識と回答者の年齢区分との関係

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安（質問4）

- 居住を継続する上での不安について把握するため、下記項目に示す、今後居住を継続する上での不安の項目をあげ、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」、「不安は感じない」に4段階の選択肢について選んでいただいた。
 - また、これらの項目のうち、特に不安に感じる上位3つの項目について選択していただき、不安の優先度について把握した。
- ①「農林作業」における不安
- 「鳥獣被害の増加」
 - 「山林・田畑の管理がままならなくなっている」
- ②「集団活動（コミュニティ活動）」における不安
- 「地域行事の営みができない」
 - 「共同作業の営みができない」
 - 「隣近所のつきあいが減っている」
- ③「生活サービス」における不安
- 「医療施設が遠い（サービスを受けにくい）」
 - 「福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）」
 - 「日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い」
 - 「近くに働く場がない」
 - 「日常の移動手段がない」
 - 「郵便局や農協が近くにない」
- ④「災害発生時」における不安
- 「土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在」
 - 「災害時の避難活動が困難になってきている」
 - 「災害による孤立」
- ⑤その他集落生活を営む上での不安
- その他集落生活における不安について自由に記述

①集落の農林作業における不安

○鳥獣被害の増加における不安

- 「鳥獣被害が増加している」は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が合わせて、約9割を占めており、特に「大いに不安」との回答が約5割を占める。

表 鳥獣被害の増加における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
鳥獣被害の増加	度数	150	41	61	31	283
	%	53.0%	14.5%	21.6%	11.0%	100%

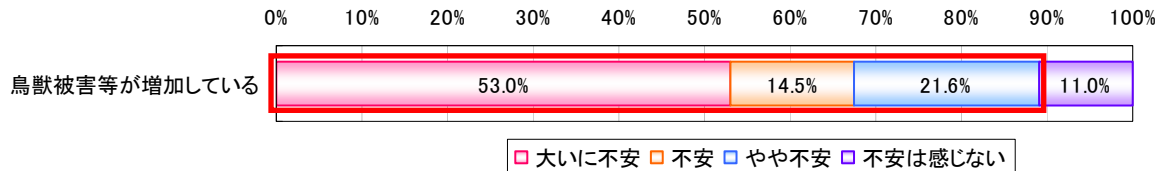


図 鳥獣被害の増加における不安

○山林、田畑の管理がままならなくなる不安

- 「山林、田畑の管理がままならなくなっている」については、「おおいに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が合わせて、約9割を占めている。

表 山林、田畑の管理がままならなくなる不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
山林、田畑の管理がままならなくなっている	度数	89	84	83	23	279
	%	31.9%	30.1%	29.7%	8.2%	100%

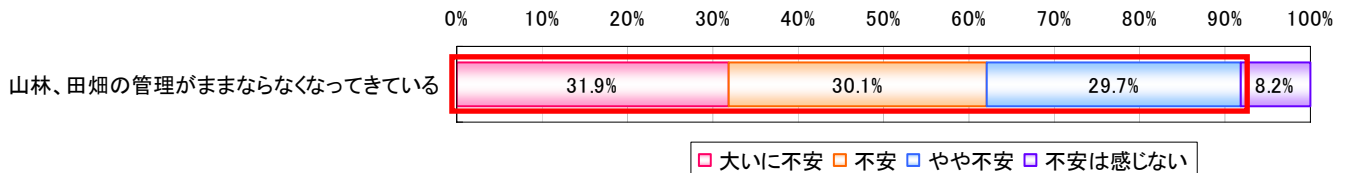
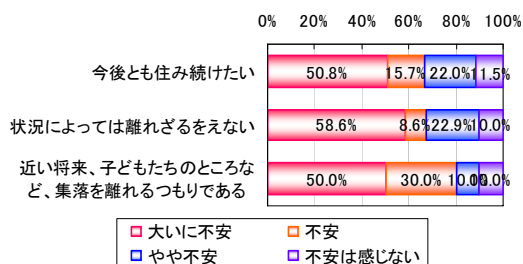


図 集落の農林作業における不安

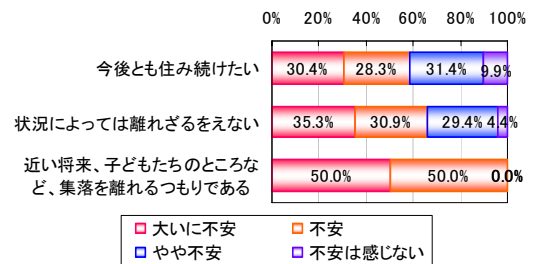
○集落の農林作業における不安と居住継続意志の関係

- 農林作業による不安が大きくなると居住継続意志が弱くなっている。

<居住継続意志>



鳥獣被害の増加

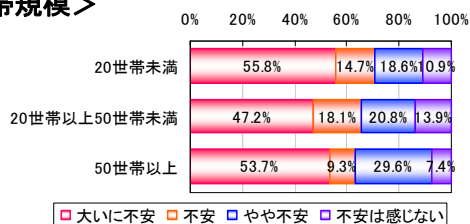


山林・田畑の管理がままならなくなっている

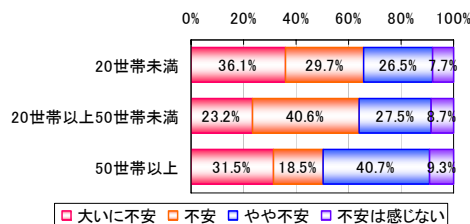
○集落の農林作業における不安と世帯規模との関係

- ・ 集落の農林作業における不安と世帯規模は関連性がみられなかった。

<世帯規模>



鳥獣被害の増加

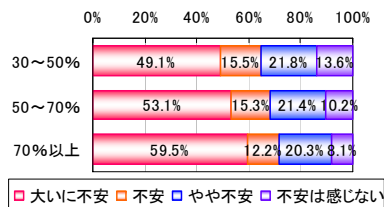


山林・田畑の管理がままならなくなってきている

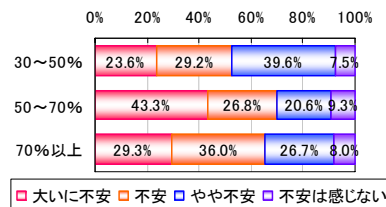
○集落の農林作業における不安と高齢化率の関係

- ・ 集落の農林作業における不安と高齢化率は関連性がみられなかった。

<高齢化率>



鳥獣被害の増加

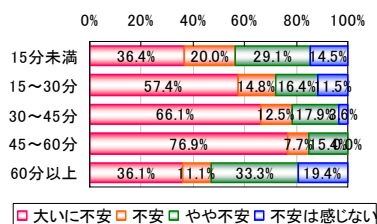


山林・田畑の管理がままならなくなってきている

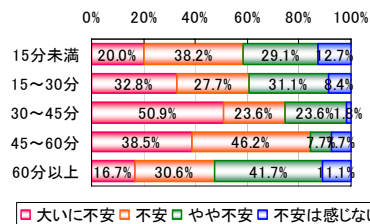
○集落の農林作業における不安と生活中心都市への時間距離との関係

- ・ 「鳥獣被害の増加」、「山林・田畑の管理がままならなくなってきている」については、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、不安とする回答割合が高くなる傾向にある。
- ・ 60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

<生活中心都市までの時間距離>



鳥獣被害の増加



山林・田畑の管理がままならなくなってきている

②集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安

○地域行事を営むことができなくなっている不安

- 「地域行事を営むことができなくなっている」不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約9割を占める。

表 地域行事の営むことができなくなっている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
地域行事を営むことができなくなっている	度数	56	76	112	36	280
	%	20.0%	27.1%	40.0%	12.9%	100%

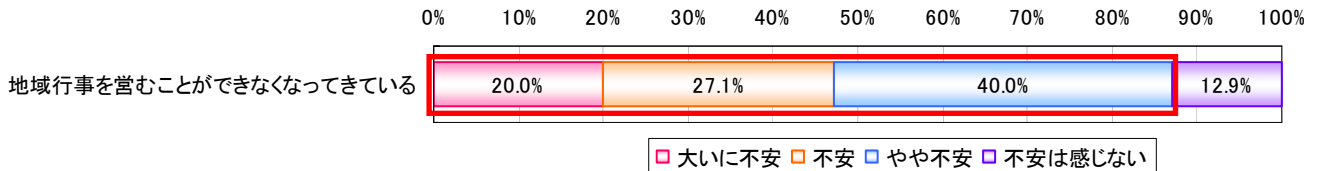


図 地域行事営むことが出来なくなっている不安

○共同作業の営みが出来なくなっている不安

- 「共同作業を営むことができなくなっている」不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約9割を占める。

表 共同作業の営みができなくなっている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
共同作業を営むことができなくなっている	度数	60	88	97	35	280
	%	21.4%	31.4%	34.6%	12.5%	100%

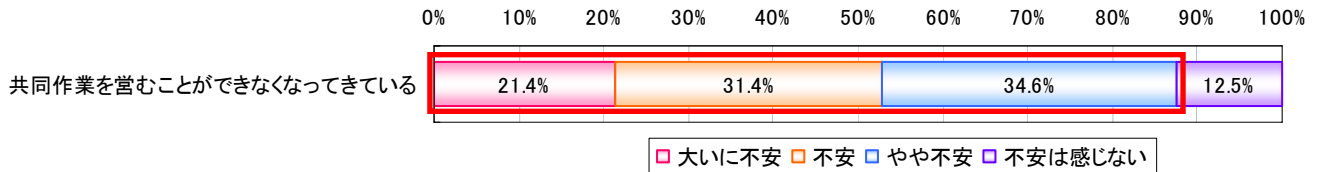


図 共同作業を営むことができなくなっている不安

○隣近所のつきあいが減ってきている不安

- 「隣近所のつきあいが減ってきている」について、「不安に感じない」との回答が約3割を占め、他の不安に比べて割合が高くなっている。

表 隣近所のつきあいが減ってきている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
隣近所のつきあいが減ってきている	度数	25	57	110	81	273
	%	9.2%	20.9%	40.3%	29.7%	100%

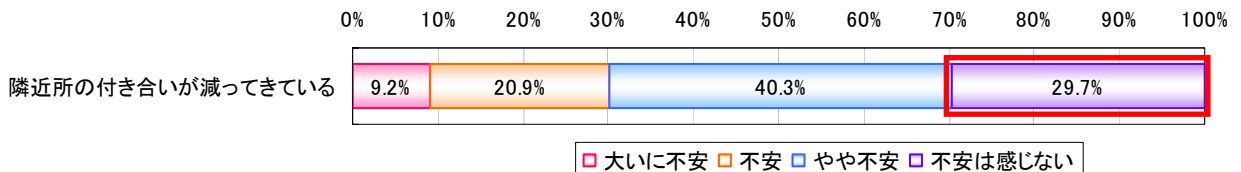
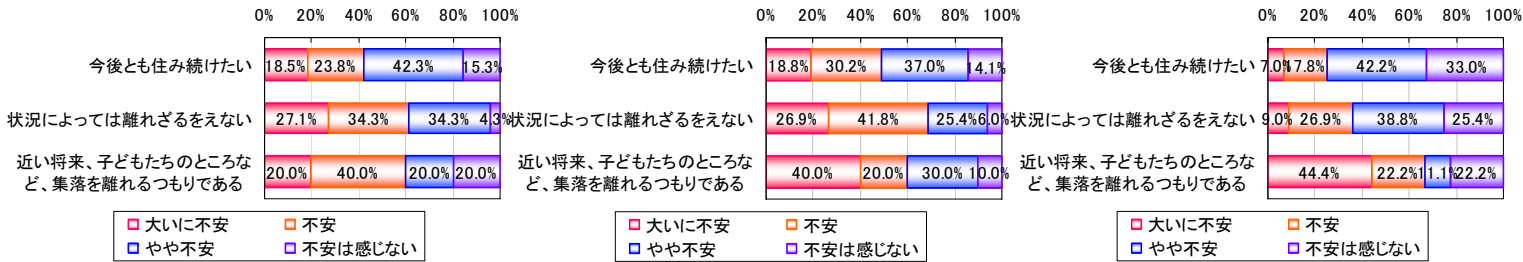


図 隣近所のつきあいが減ってきている不安

○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と居住継続意志の関係

- ・ 居住継続意志が低い集落ほど、コミュニティ活動に関する不安が大きくなる傾向にある。

<居住継続意志>



地域行事の営みができない

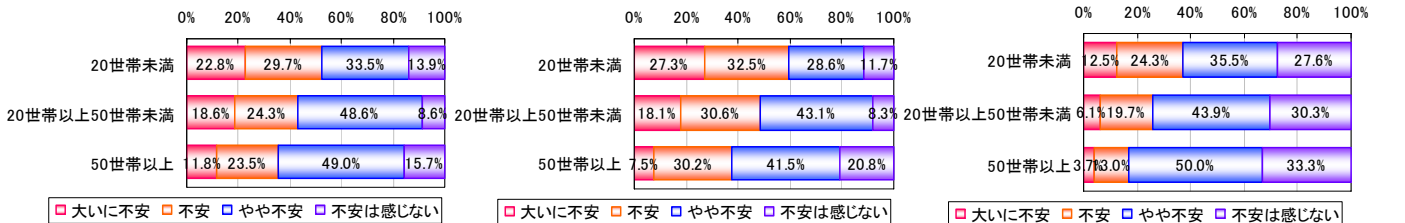
共同作業の営みができない

隣近所のつきあいが減っている

○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が大きくなるほど、コミュニティ活動に関する不安が小さくなっている。

<世帯規模>



地域行事の営みができない

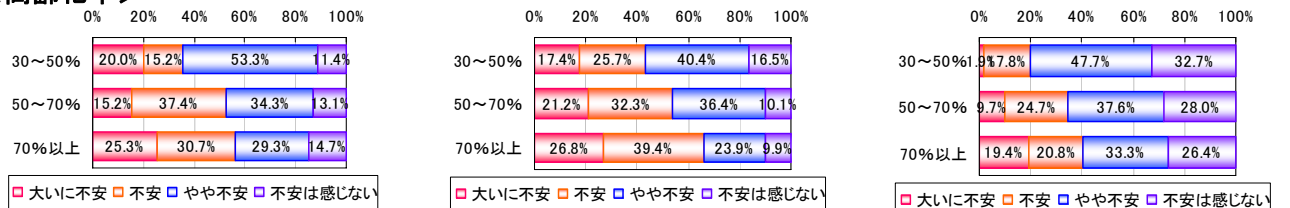
共同作業の営みができない

隣近所のつきあいが減っている

○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と高齢化率の関係

- ・ 高齢化が高くなるほど、コミュニティ活動に関する不安が大きくなっている。

<高齢化率>



地域行事の営みができない

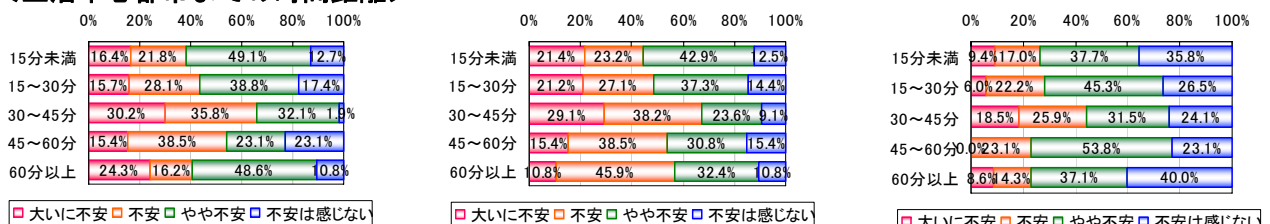
共同作業の営みができない

隣近所のつきあいが減っている

○集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と生活中心都市まで時間距離の関係

- ・ 集落の集団活動（コミュニティ活動）における不安と生活中心都市までの時間距離は関連性がみられなかった。

<生活中心都市までの時間距離>



地域行事の営みができない

共同作業の営みができない

隣近所のつきあいが減っている

③集落の生活サービスにおける不安

○医療施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

- ・ 「医療施設が遠い」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約8割を占め、特に「大いに不安」との回答が約4割を占める。

表 医療施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
医療施設が遠い(サービスを受けにくい)	度数	106	53	84	46	289
	%	36.7%	18.3%	29.1%	15.9%	100%

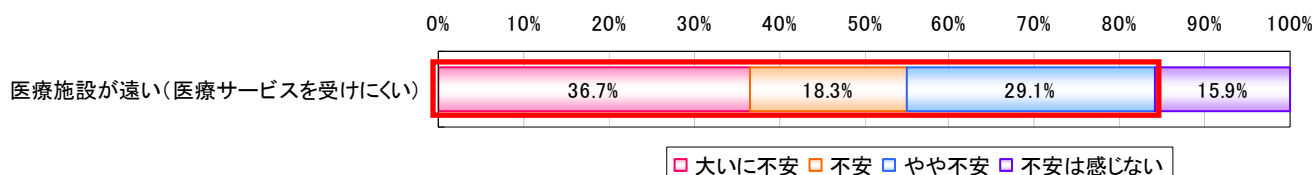


図 医療施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

○福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

- ・ 「福祉施設が遠い」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約8割を占める。

表 福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
福祉施設が遠い(サービスを受けにくい)	度数	66	57	106	48	277
	%	23.8%	20.6%	38.3%	17.3%	100%

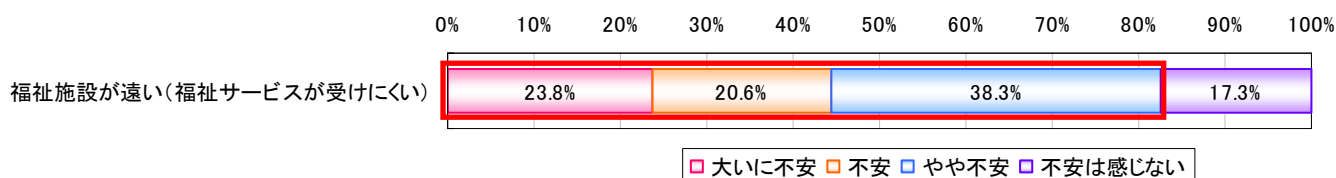


図 福祉施設が遠い（サービスを受けにくい）不安

○日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い不安

- ・ 「日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約8割を占める。

表 日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い	度数	72	75	76	59	282
	%	25.5%	26.6%	27.0%	20.9%	100%

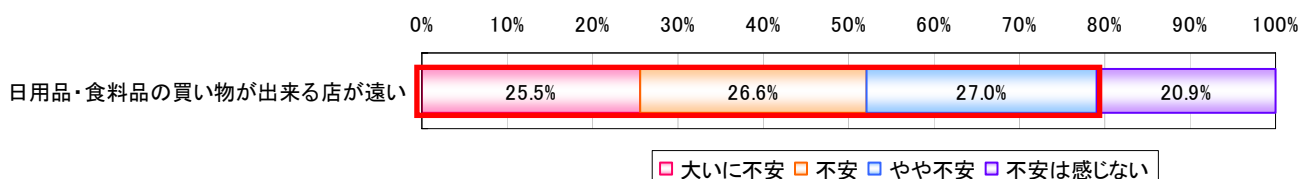


図 日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い不安

○近くに働く場がなくなっている不安

- ・ 「近くに働く場がなくなっている」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて9割を占め、特に「大いに不安」との回答が約3割を占める。

表 近くに働く場がなくなっている不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
近くに働く場が無くなってきている	度数	96	87	69	28	280
	%	34.3%	31.1%	24.6%	10.0%	100%

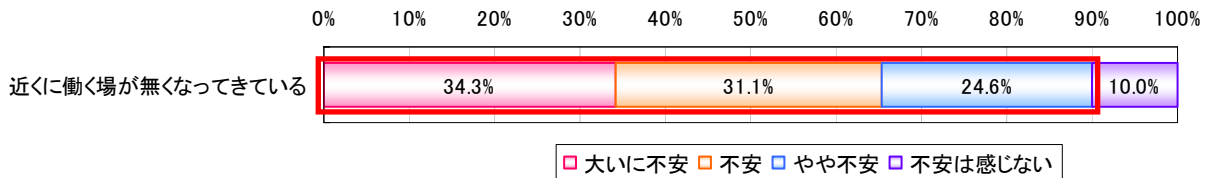


図 近くに働く場がなくなっている不安

○日常の移動手段がなくなっている不安

- ・ 「日常の移動手段がなくなっている」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7割を占める。

表 日常の移動手段がない不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
日常の移動手段がなくなっている	度数	39	60	105	65	269
	%	14.5%	22.3%	39.0%	24.2%	100%

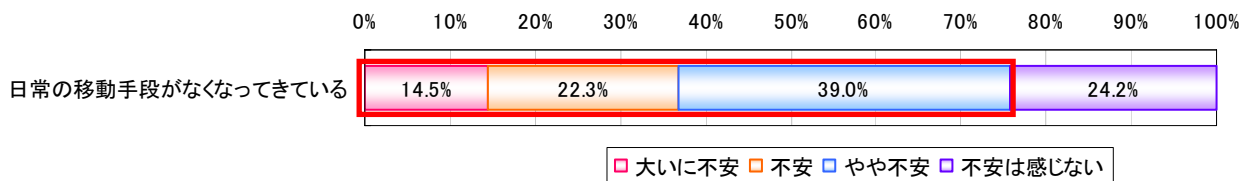


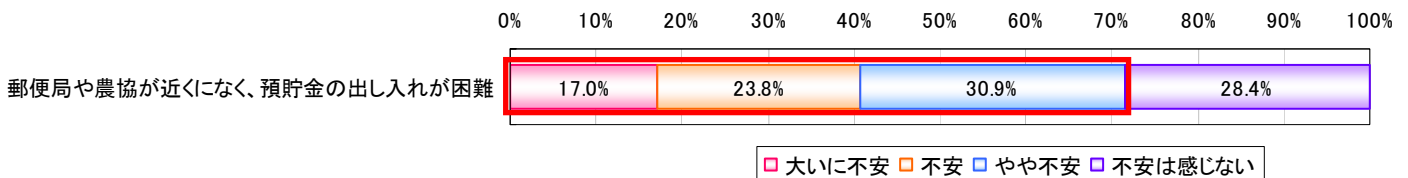
図 日常の移動手段がなくなっている不安

○郵便局や農協が近くにない不安

- ・ 「郵便局や農協が近くになく、預貯金の出し入れが困難」については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7割を占める。

表 郵便局や農協が近くにない不安

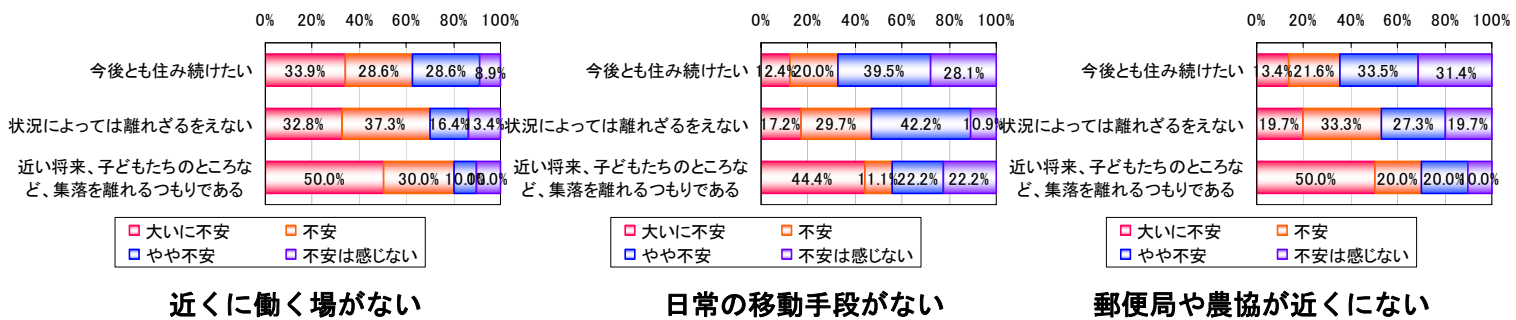
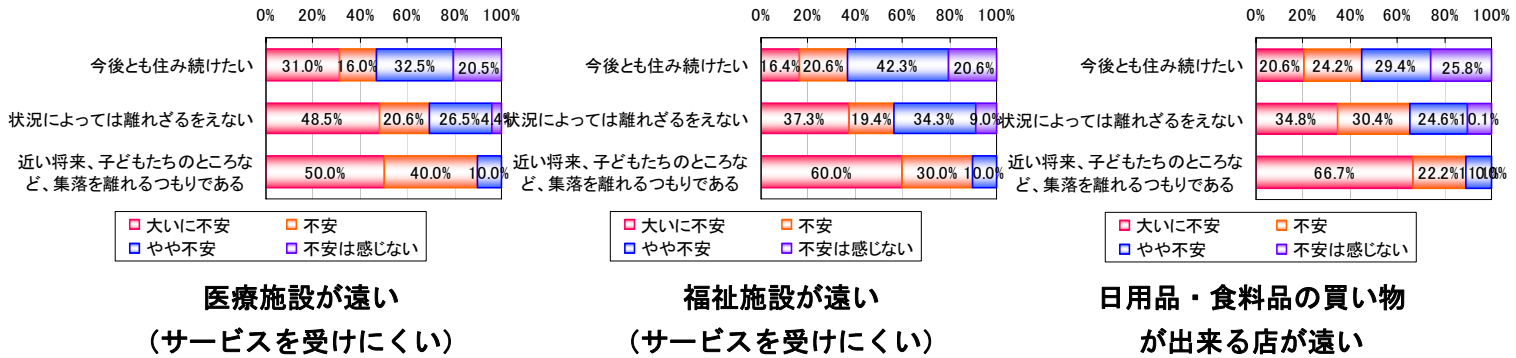
質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
郵便局や農協が近くにない	度数	48	67	87	80	282
	%	17.0%	23.8%	30.9%	28.4%	100%



○集落の生活サービスにおける不安と継続居留意志の関係

- ・ 居住継続意志が低い集落ほど、生活サービスにおける不安が大きくなっている。
- ・ 「今後とも住み続けたい」と回答した集落ほど、「不安は感じない」との回答の割合が高くなっている。

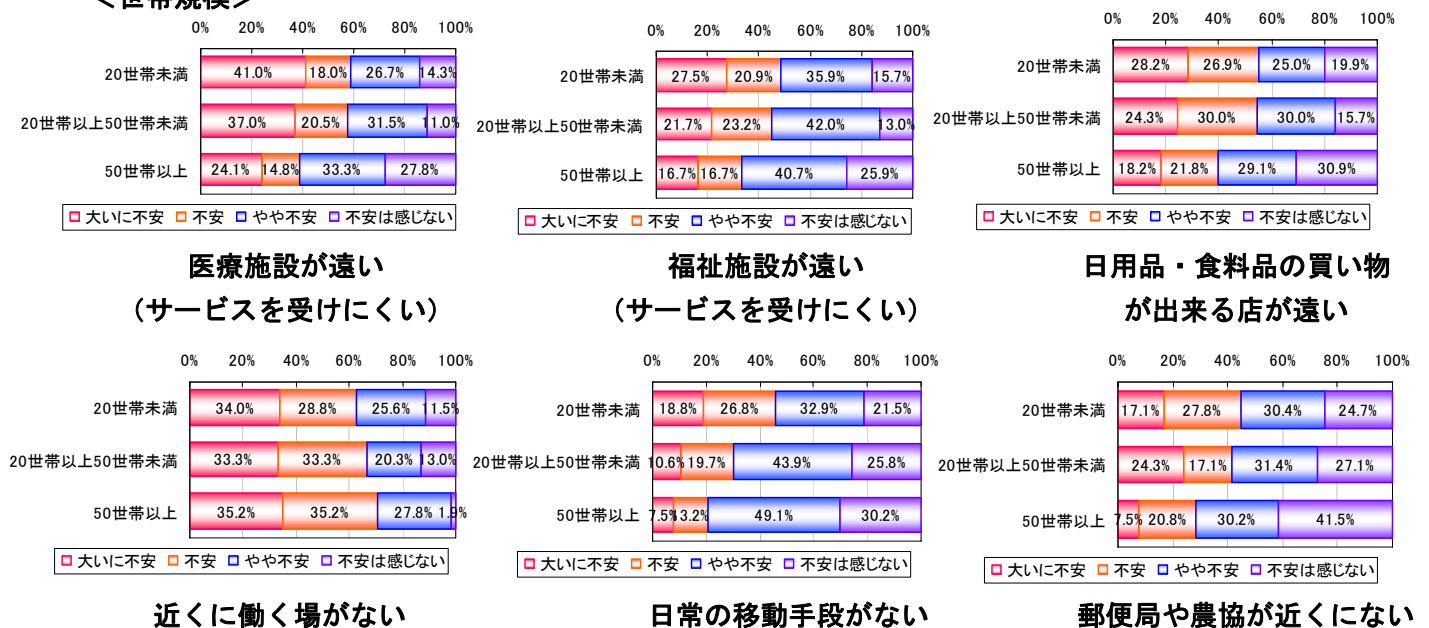
<居住継続意志>



○集落の生活サービスにおける不安と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が大きくなるほど、生活サービスに関する不安が小さいが、「近くに働く場がない」の傾向のみ、集落が大きくなるほど不安が大きくなっている。

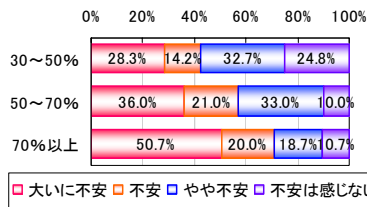
<世帯規模>



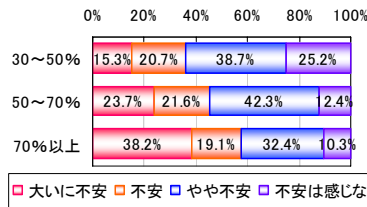
○集落の生活サービスにおける不安と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高くなるほど、生活サービスに関する不安が大きいが、「近くに働く場がない」についてはその傾向が見られなかった。(高齢化率が高い集落住民は、働く場が関係しないためであると考えられる。)

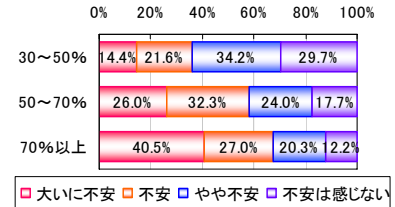
<高齢化率>



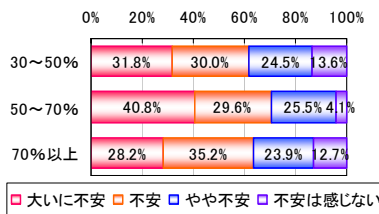
医療施設が遠い
(サービスを受けにくい)



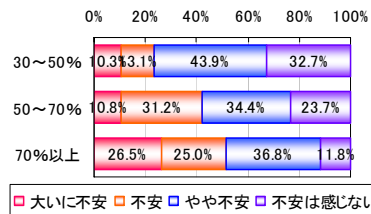
福祉施設が遠い
(サービスを受けにくい)



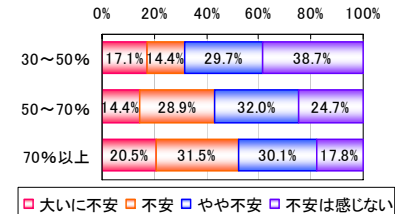
日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い



近くに働く場がない



日常の移動手段がない

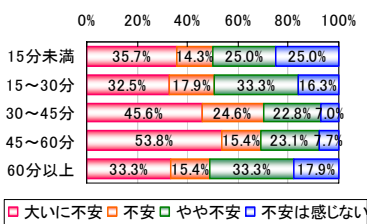


郵便局や農協が近くにない

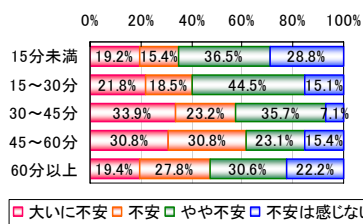
○集落の生活サービスにおける不安と生活中心都市までの時間距離との関係

- ・ 生活サービスに関する不安全般にわたり、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、不安とする回答割合が高くなる傾向にある。
- ・ 60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

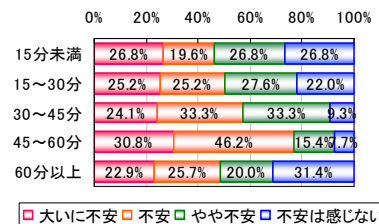
<生活中心都市までの時間距離>



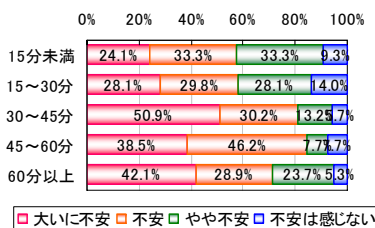
医療施設が遠い
(サービスを受けにくい)



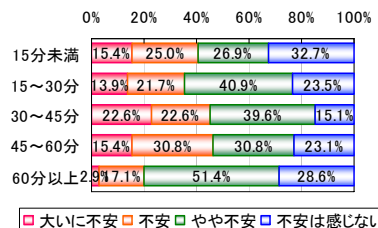
福祉施設が遠い
(サービスを受けにくい)



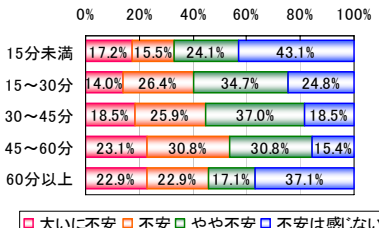
日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い



近くに働く場がない



日常の移動手段がない



郵便局や農協が近くにない

④集落の災害発生時における不安

○災害発生危険箇所の存在における不安

- ・ 「土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在」についての不安は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が約7割を占める。

表 土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在	度数	74	65	60	74	273
	%	27.1%	23.8%	22.0%	27.1%	100%

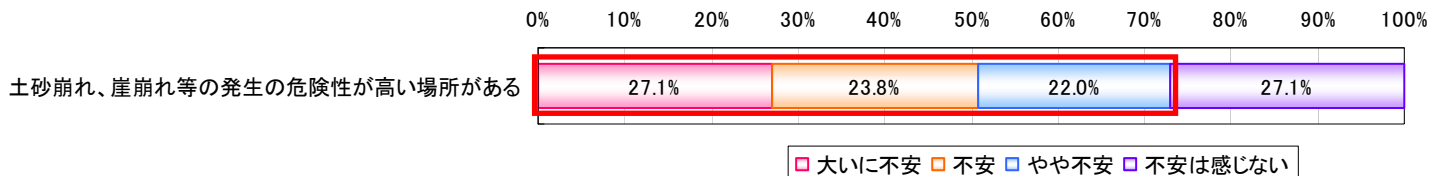


図 土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在についての不安

○災害時の避難活動が困難になってきている不安

- ・ 「災害時の避難活動が困難になってきている」不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が約8割を占める。

表 集落の災害発生時における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
災害時の避難活動が困難になってきている	度数	67	61	89	56	273
	%	24.5%	22.3%	32.6%	20.5%	100%

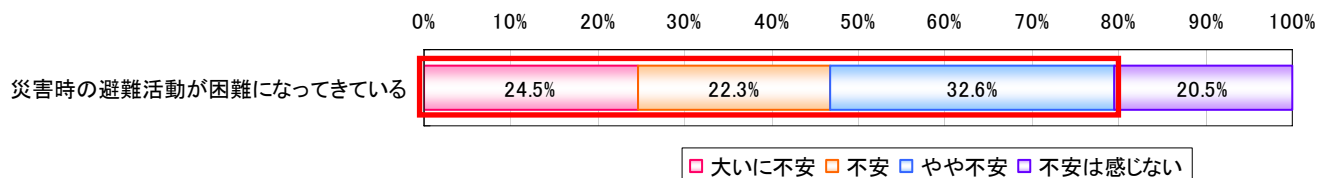


図 災害時の避難活動が困難になっている不安

○災害による孤立における不安

- ・ 「災害による孤立」の不安については、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が約7割を占める。

表 集落の災害発生時における不安

質問項目		大いに不安	不安	やや不安	不安は感じない	計
災害による孤立	度数	61	56	73	83	273
	%	22.3%	20.5%	26.7%	30.4%	100%

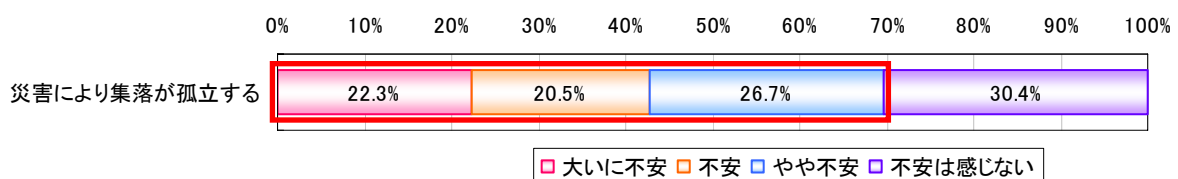
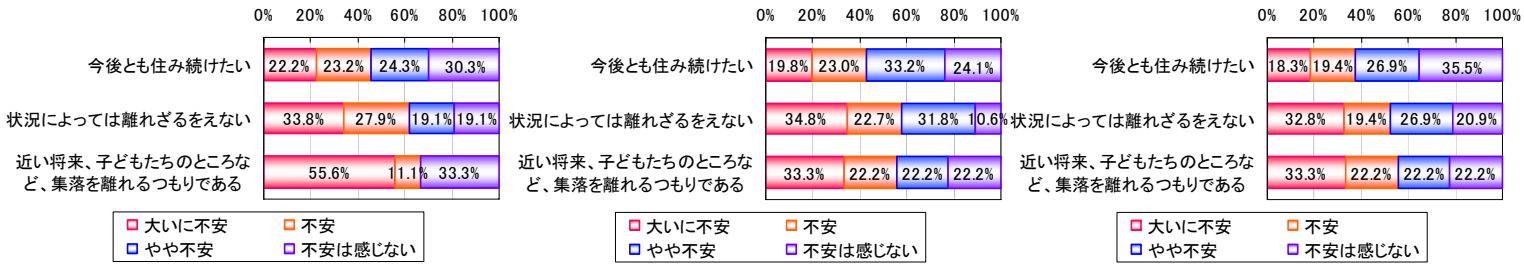


図 災害による孤立についての不安

○集落の災害発生時における不安と居住継続意志の関係

- ・ 「今後とも住み続けたい」集落ほど、「不安を感じない」割合が高くなる傾向がある。

<居住継続意志>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

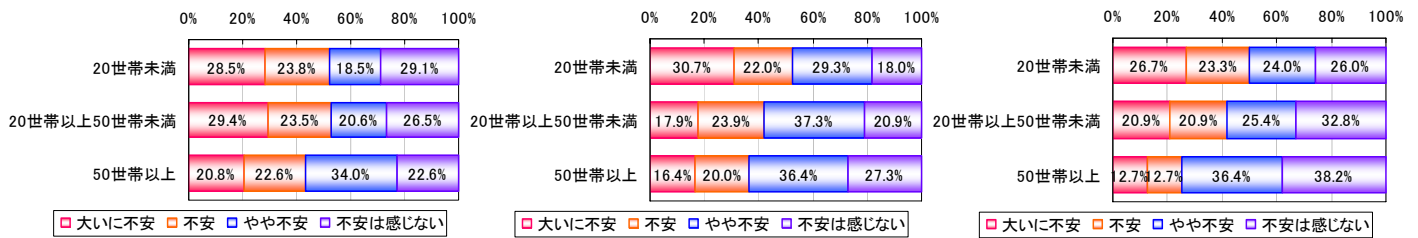
災害時の避難活動が困難になってきている

災害による孤立

○集落の災害発生時における不安と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が大きくなるほど、集落の災害発生時における不安が小さくなる傾向にある。但し、「土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在」の傾向についてのみ、災害発生時における不安との関係性が見られなかった。

<世帯規模>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

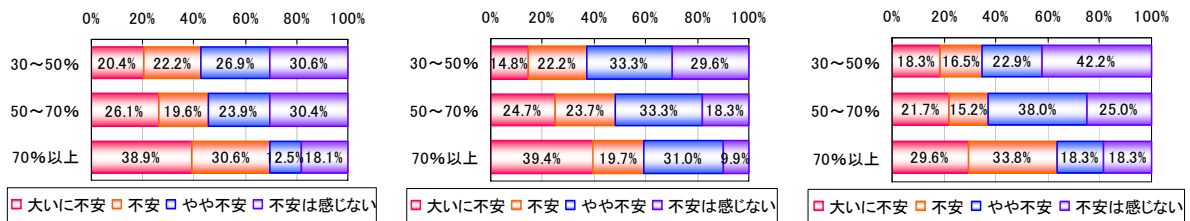
災害時の避難活動が困難になってきている

災害による孤立

○集落の災害発生時における不安と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高くなるほど、集落の災害発生時における不安が大きくなっている。

<高齢化率>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

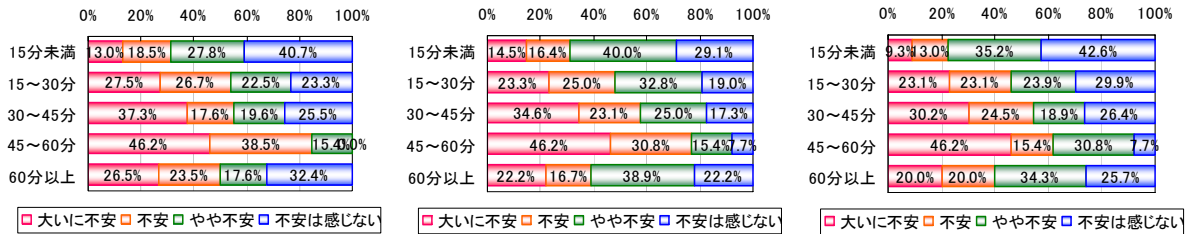
災害時の避難活動が困難になってきている

災害による孤立

○集落の災害発生時における不安と生活中心都市までの時間距離との関係

- 生活中心都市との時間距離が増加するほど、災害発生時における不安が大きいが、時間距離 60 分を超える地域ではその傾向が見られなかった。（生活中心都市までの時間距離が 60 分を超える集落は離島に多い。）

<生活中心都市までの時間距離>



土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

災害時の避難活動が困難になってきている

災害による孤立

⑤その他集落生活を営む上での不安

○その他集落生活を営む上での不安として記述のあった回答として以下のような意見があった。

表 その他集落生活を営む上での不安（抜粋）

現金収入がない。国民年金ではとても大変である。
農村産物の価格の低迷。
急坂ではないのに坂道には高齢者は大変な思いをしているのが目にみえます。電動車いすがあるといいなと思うことが良くあります。何%かの補助をしてもらえないものかと思う。
色々な世話役（役職）ができない。
道路の整備。
祭日・土日のバス運休。
路線バスの回数が減少している。
高齢化で道路維持管理が困難。
市道（生活道路）の改修をしないから車の運転がしにくい。
国道の早期整備をしてほしい。
少子高齢化。
後継不足。
お年寄りだけの世帯がふえている。車の運転ができない為、移動手段もない。
一人暮らしが多いので大変です。
通院。
災害時、緊急時（携帯電話が入らない）。

⑥集落で今後居住を継続する上での不安の度合い

○ 居住を継続する上での不安の度合い

- 不安を感じる項目上位3つをたずねたところ、「医療施設が遠い」（116集落）が最も多く、次いで、「鳥獣被害等が増加している」（94集落）となっている。
- 農林作業における不安では「鳥獣被害等が増加している」（94集落）が最も多く、更に、「山林・田畑の管理がままならなくなってきている」（64集落）も多くなっている。
- 地域コミュニティ活動の不安では「隣近所の付き合いが減ってきている」（16集落）は他と比べ少なくなっている。
- 生活サービスの不安では「医療施設が遠い（サービスが受けにくい）」（116集落）が多く、次いで「近くに働く場が無くなってきている」（68集落）が多くなっている。
- 災害発生時の不安は「災害発生危険性の高い場所がある」（38集落）、「避難活動が困難」（28集落）、「災害による孤立」（38集落）とも同様な傾向を示したが、不安の度合いとしては全体的に低くなっている。

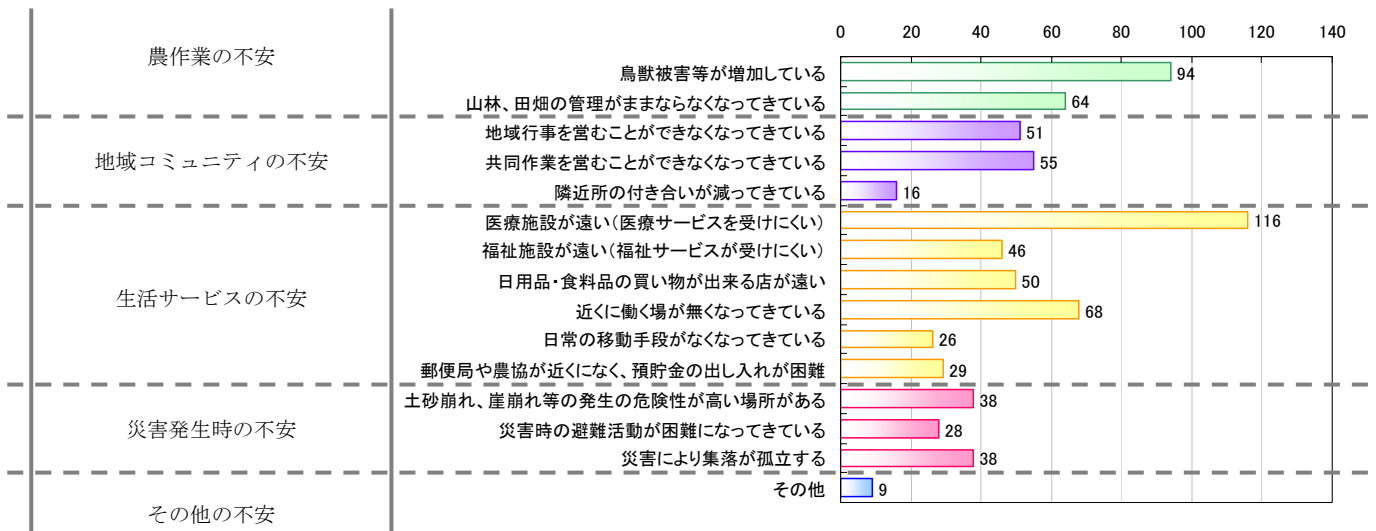


図 集落で今後居住を継続する上での不安の度合い

⑦今後居住を継続する上で必要な支援体制（質問5）

- 今後集落での居住を継続する上で必要な支援体制のあり方について把握するため、下記の6段階の回答選択肢についてたずねた
- 「集落内の相互扶助」
- 「周辺集落の協力」
- 「他出者（集落の外に出て行った家族や親族等）の協力」
- 「集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）の協力」
- 「国や自治体の支援・協力」
- 「その他（具体的に）」
- また、これらの項目のうち、最も重要である支援体制について選択していただき、今後居住を継続する上で必要な支援体制の優先度について把握した。

○今度居住する上で必要な支援体制

- ・ 最も重要な支援体制は、「国や自治体の支援・協力」との回答が105集落となり、次いで「集落内の相互扶助」との回答が70集落と多くなっている。
- ・ 必要な支援体制について、「集落内の相互扶助」「国や自治体の支援・協力」は、「とても必要」、「必要」との回答が、合わせて約9割を占める。
- ・ 「集落外の支援者からの支援」は、「不必要」である割合が、他と比較して高くなっている。

表 今後居住を継続する上で必要な支援体制

質問項目		とても必要	必要	やや必要	不必要	計
集落内の相互扶助	度数	138	117	26	4	285
	%	48.4%	41.1%	9.1%	1.4%	100%
周辺集落の協力	度数	73	141	56	11	281
	%	26.0%	50.2%	19.9%	3.9%	100%
他出者（集落の外に出て行った家族や親族等）の協力	度数	56	107	94	13	270
	%	20.7%	39.6%	34.8%	4.8%	100%
住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等の協力	度数	35	85	116	37	273
	%	12.8%	31.1%	42.5%	13.6%	100%
国や自治体の支援・協力	度数	157	96	32	5	290
	%	54.1%	33.1%	11.0%	1.7%	100%
その他（具体的に： ）	度数	19	3	1	0	23
	%	82.6%	13.0%	4.3%	0.0%	100%

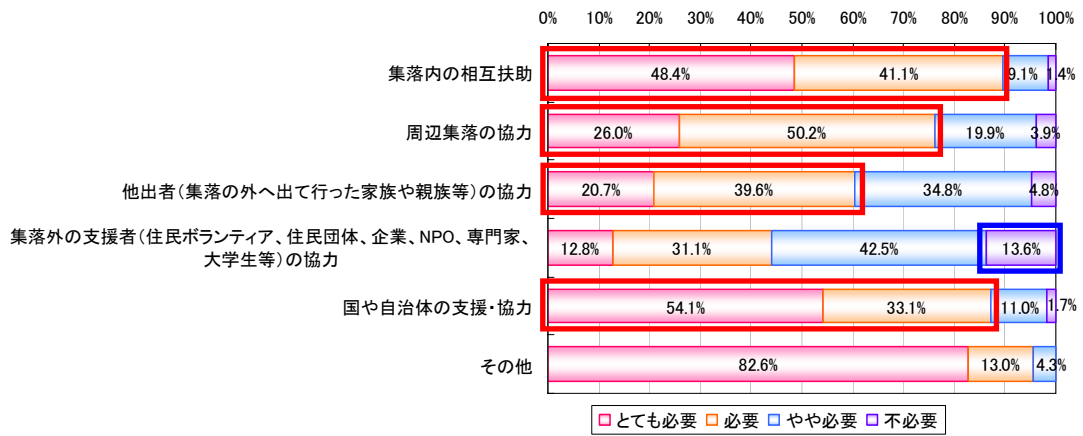


図 今後居住を継続する上で必要な支援体制

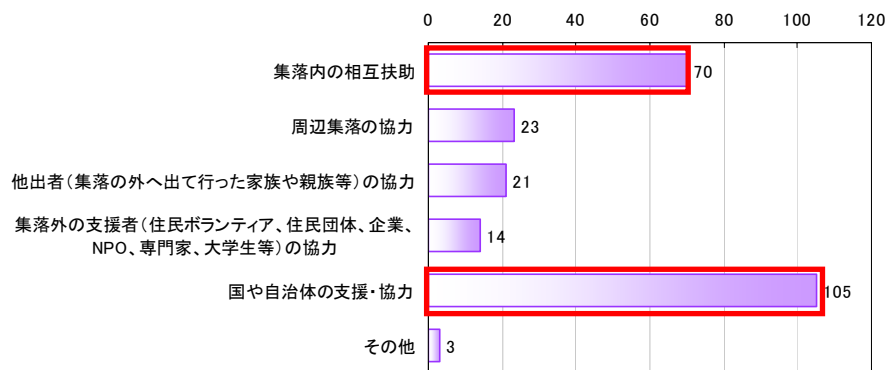
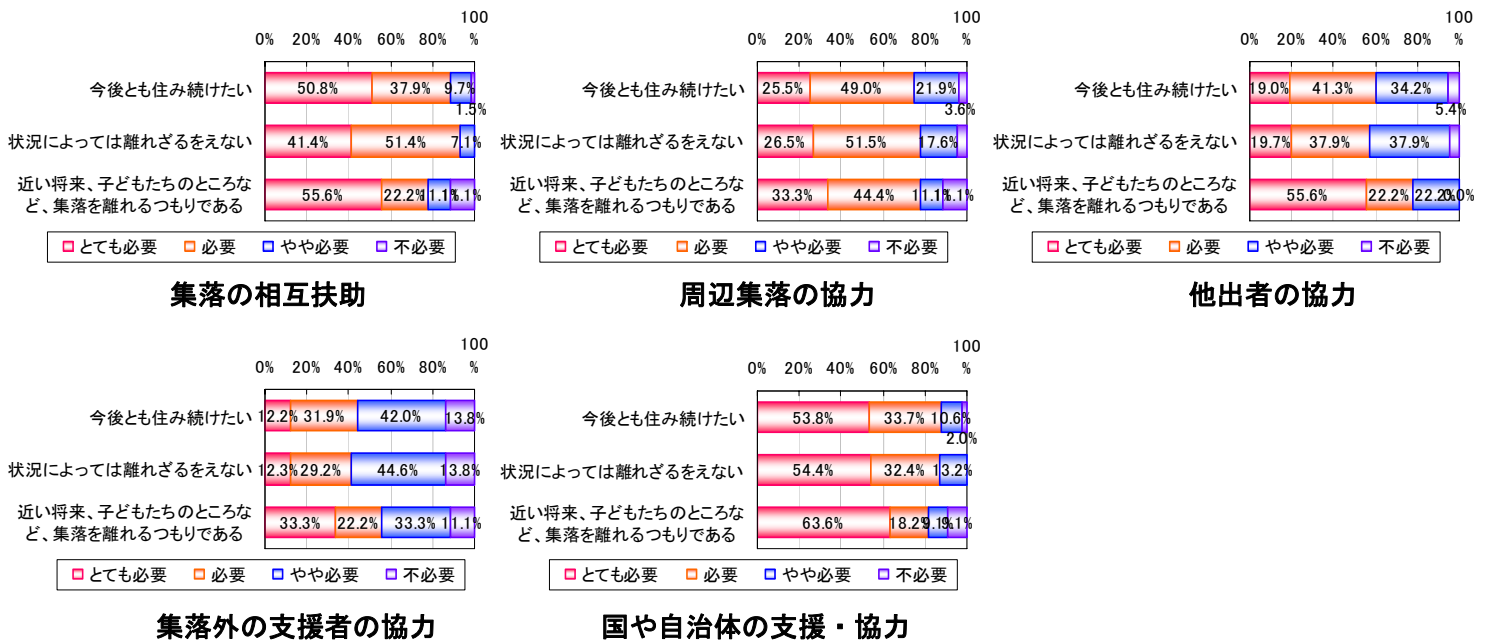


図 今後居住を継続する上で最も重要な支援体制

○今後居住する上で必要な支援体制と居住継続意志の関係

- ・ 必要な支援体制と居住継続意志には、顕著な傾向は見られなかった。

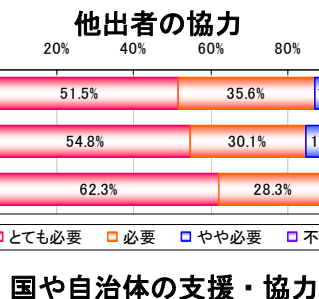
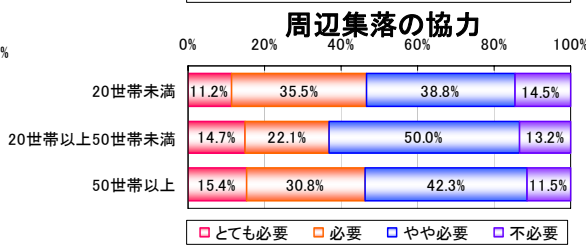
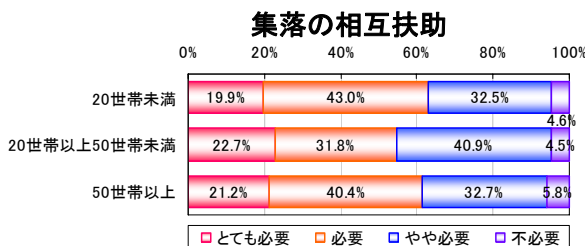
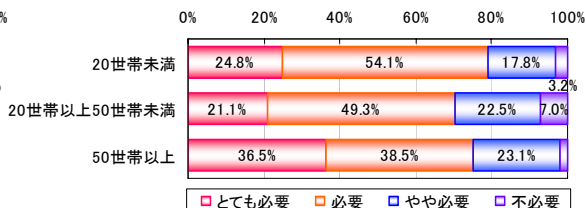
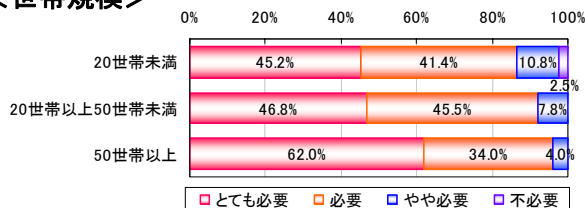
<居住継続意志>



○今後居住する上で必要な支援体制と世帯規模の関係

- ・ 必要な支援体制と世帯規模には、顕著な傾向は見られなかった。

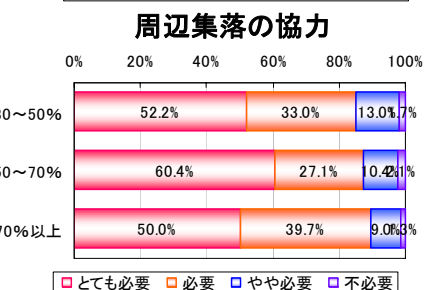
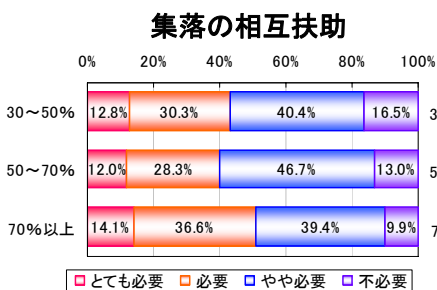
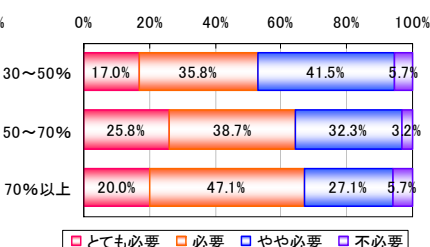
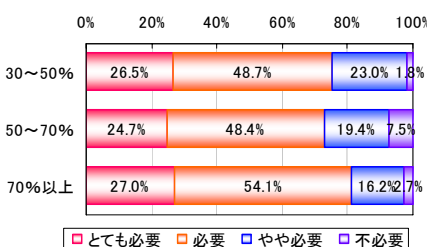
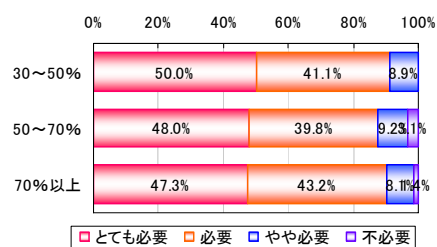
<世帯規模>



○今後居住する上で必要な支援体制と高齢化率の関係

- ・ 必要な支援体制と高齢化率には、顕著な傾向は見られなかった。

<高齢化率>



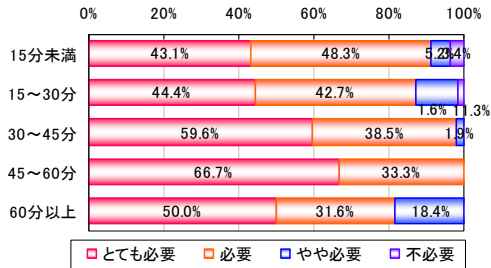
集落外の支援者の協力

国や自治体の支援・協力

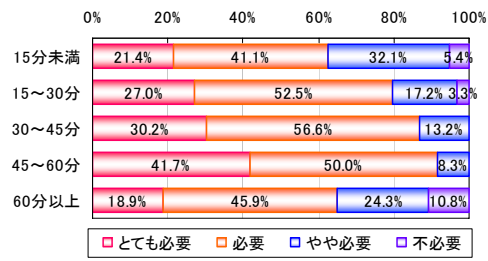
○今後居住する上で必要な支援体制と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 「集落の相互扶助」や「周辺集落の協力」については、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、必要とする回答割合が高くなる傾向にある。
- ・ 60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

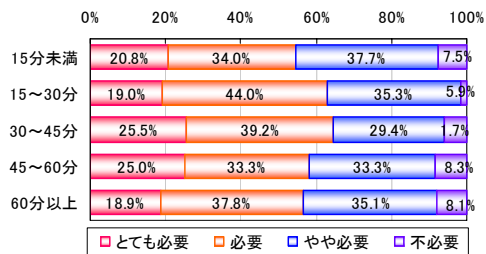
＜生活中心都市までの時間距離＞



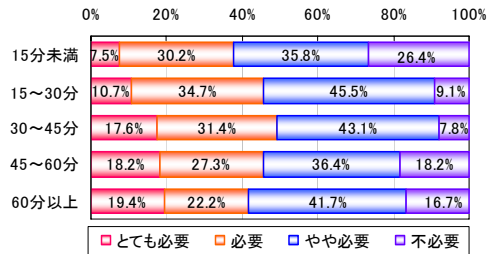
集落の相互扶助



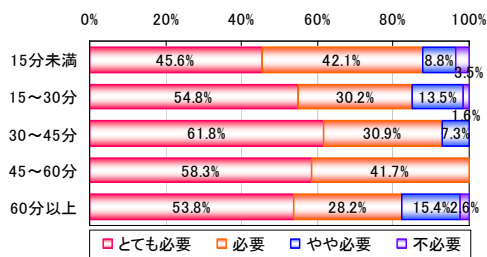
周辺集落の協力



他出者の協力



集落外の支援者の協力



国や自治体の支援・協力

5. 集落元気づくりに向けた取り組み状況と意向

(1) 集落元気づくりに向けた取り組み（質問10）

- 集落に居住されている人たちの元気を呼び戻す「集落元気づくり」に向けた取組の意向について下記の6つの回答選択肢より1つ選んでいただいた
- 「既に取り組みを実施している」
- 「取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい」
- 「周辺集落と協力して取り組みたい」
- 「他出者（集落の外に出て行った家族や親族）と協力して取り組みたい」
- 「集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）と協力して取り組みたい」
- 「今のところ取り組む気はない」。

○集落元気づくりに向けた取り組み

- ・ 「既の実施している」との回答が17.4%となり、「取り組み意欲がある」との回答が合わせて47.1%、「今のところ取り組む気はない」との回答が35.5%となっている。

表 集落元気づくりに向けた取り組み

質問項目	計	割合(%)
既に取り組みを実施している	50	17.4%
取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい	51	17.8%
周辺集落と協力して取り組みたい	54	18.8%
他出者（集落の外に出て行った家族や親族）と協力して取り組みたい	14	4.9%
集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）と協力して取り組みたい	16	5.6%
今のところ取り組む気はない	102	35.5%
合計	287	100%

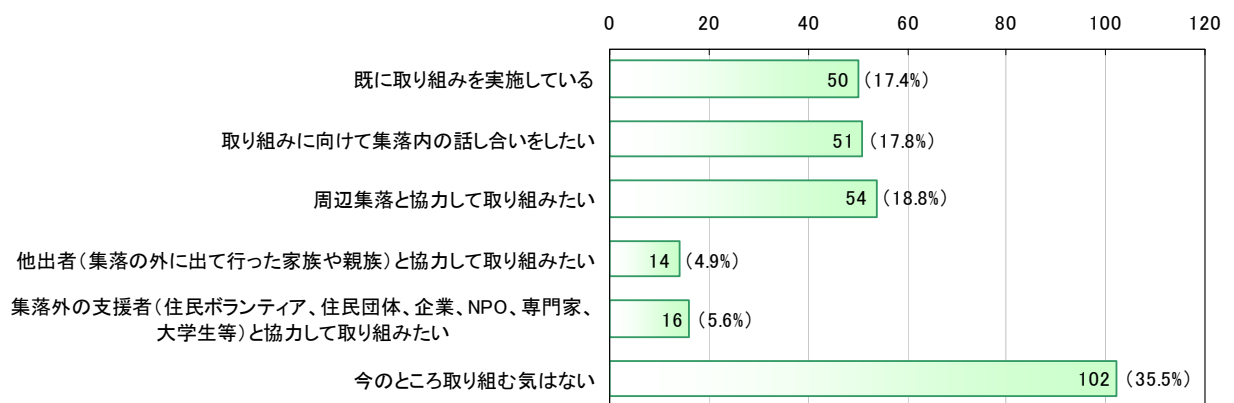


図 集落元気づくりに向けた取り組み

○今後居住する上で必要な支援体制と居住継続意志の関係

- ・ 居住継続意志が低くなるほど、集落元気づくりへの取り組み意欲が低くなっている。

<居住継続意志>

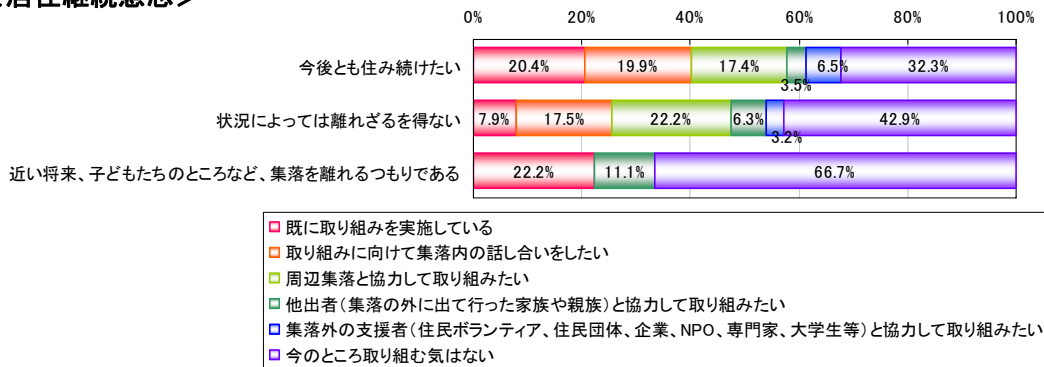


図 集落元気づくりに向けた取り組みと居住継続意志の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と世帯規模の関係

- ・ 世帯規模が大きくなるほど、「既の実施している」割合が高くなっている。
- ・ 集落元気づくりへの取り組み意欲がある（「既に取り組みを実施している」、「取り組みに向けて集落内の話し合いをしたい」、「周辺集落と協力して取り組みたい」、「他出者（集落の外に出て行った家族や親族）と協力して取り組みたい」、集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）と協力して取り組みたい）との回答は、集落規模が 20～50 世帯が最も高く（77.3%）、次いで 50 世帯未満（72.4%）、20 世帯以上（56.3%）となっている。

<世帯規模>

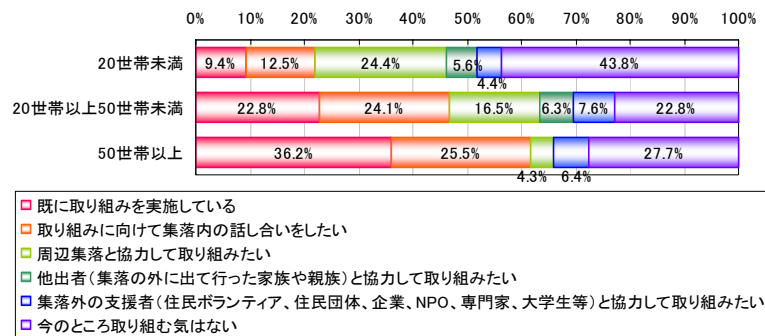


図 集落元気づくりに向けた取り組みと世帯規模の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と高齢化率の関係

- ・ 高齢化率が高くなるほど、集落元気づくりへの取り組み意欲が低くなっている。

<高齢化率>

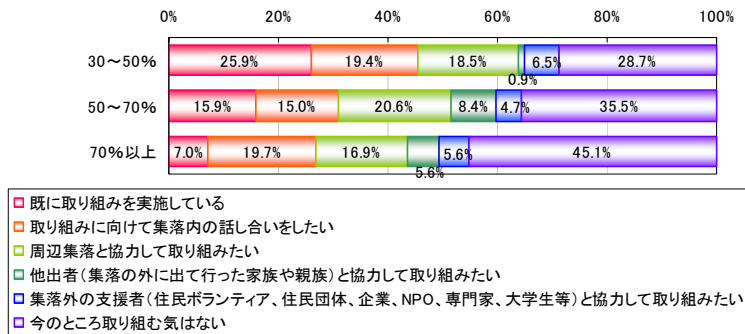


図 集落元気づくりに向けた取り組みと高齢化率の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・ 今後居住する上で必要な支援体制と生活中心都市までの時間距離の関係はみられないものの、「今のところ取り組む気はない」とする回答割合については、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、高くなる傾向にある。
- ・ 60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

<生活中心都市までの時間距離>

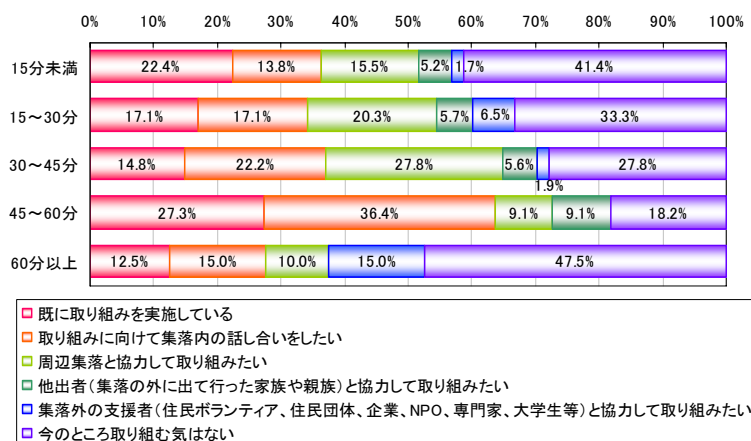


図 集落元気づくりに向けた取り組みと生活中心都市までの時間距離の関係

○今後居住する上で必要な支援体制と回答者の年齢区分の関係

- ・ 今後居住する上で必要な支援体制と回答者の年齢区分との関係はみられないものの、「今のところ取り組む気はない」とする回答割合については、回答者の年齢が高いほど、高くなる傾向にある。

<回答者の年齢区分>

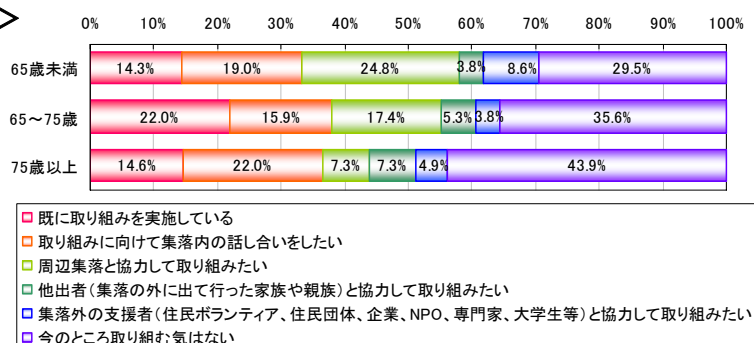


図 集落元気づくりに向けた取り組みと回答者の年齢区分の関係

(2) 集落内の地域として誇るべき地域資源（質問6）

- 集落内もしくは近隣に、あまり人に知られていないが地域として誇るべき資源（例えば、風景、自然林、湧水、清流、寺社・祠等）があるかを把握するため、資源の名称及びその特徴について記述していただいた。
- 記述された資源名称を「風景」、「自然林」、「湧水」、「清流」、「寺社・ほこら」、「その他」の6つに分類し、その傾向を分析した。

○集落内の地域として誇るべき地域資源

- ・ 「風景」との回答が41集落となり、次いで「寺社・ほこら」との回答が36集落となっている。

表 誇るべき集落の地域資源

質問分類項目	計
風景	41
自然林	12
湧水	24
清流	25
寺社・ほこら	36
その他	32
記載無し	215

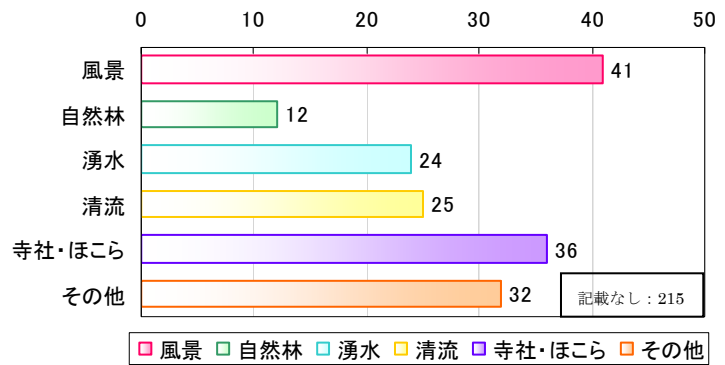


図 誇るべき集落の地域資源

表 項目別代表的な資源（抜粋）

質問分類項目	資源名称
風景	高原の野焼き、眼鏡橋、椽の木橋、雪舟の庭園、岩戸、峡谷
自然林	ホルトの樹、五葉松、ガジュマル、大銀杏、梅林公園
湧水	妙見宮、高木水源、湧水群、健康の泉、温泉、冷泉
清流	白糸の滝、一番滝
寺社・ほこら	神社、菊池家墓所、ねずみ神社、平家落人居住跡地、安国寺、観世音菩薩、地藏、洞穴
その他	城址、勘場跡、旧軍用施設、自然石群、天文台、関所、精米施設、砲台跡

(3) 集落内で今後活用可能な資源（質問7）

- 集落内もしくは近隣に、今後活用可能な資源（例えば、遊休地、耕作放棄地、空き家、廃校、管理されない共有林等）があるかを把握するため、資源の名称及びその特徴について記述していただいた。
- 記述された資源名称を「遊休地」、「耕作放棄地」、「空き家」、「廃校」、「管理されない共有林」、「その他」の6つに分類し、その傾向を分析した。

○集落内で今後活用可能な資源

- ・ 「耕作放棄地」との回答が35集落となり、次いで「空き家」が25集落、「廃校」が25集落となっている。

表 集落内で今後活用可能な資源

質問分類項目	計
遊休地	18
耕作放棄地	35
空き家	25
廃校	25
管理されない共有林	11
その他	11
記載無し	236

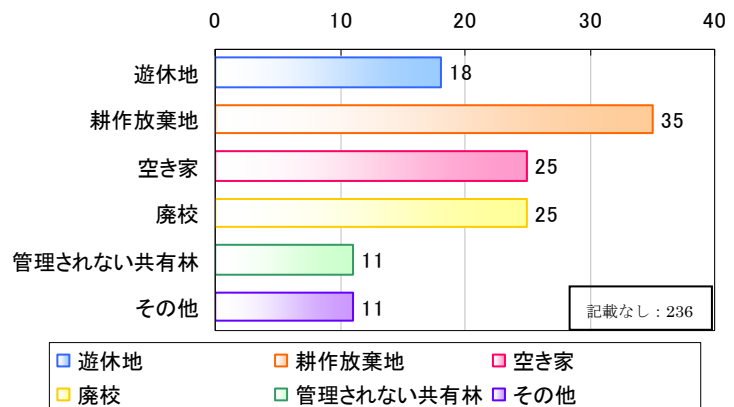


図 集落内で今後活用可能な資源

(4) 集落内の山の幸や海の幸 (質問8)

- 集落における山の幸 (山菜等)、海の幸 (海草・魚介類等) があるかを把握するため、食材 (もしくは (料理) の内容を記述していただいた。
- 記述された食材 (料理) 名称を「山菜」、「農作物」、「果樹」「魚介」、「食肉」、「加工」、「その他」の7つに分類し、その傾向を分析した。
- また、これら食材の量がどれくらいあるかを把握するため「販売可能なほど食材がある」、「集落家庭内で食するほどある」、「ない」のいずれかを選択していただいた。

○集落内海の幸や山の幸

- ・ 「山菜」との回答が 154 集落と特に多く、次いで魚介類との回答が 23 集落となっている。
- ・ 食材の量は、「集落家庭内で食するほどある」との回答が 128 集落となり、「販売可能なほど食材がある」との回答が 50 集落となっている。

表 集落内の山の幸・海の幸

質問分類項目	計
山菜	154
農作物	8
果樹	11
魚介	23
食肉	4
加工	31
記載無し	155

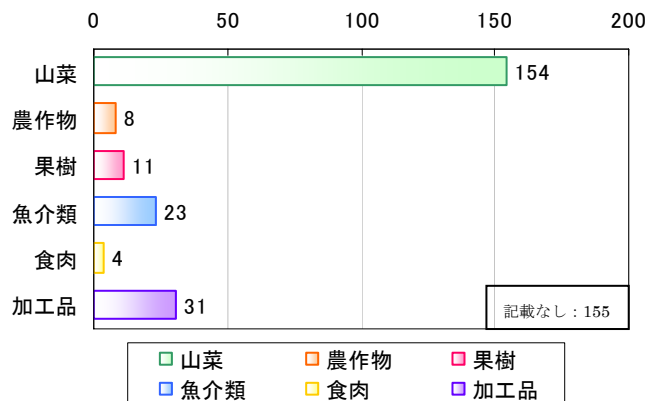


図 集落内の海の幸・山の幸

表 項目別代表的な食材 (抜粋)

質問分類項目	食材・料理名称
山菜	蕨、ゼンマイ、筍、蒨、タラの芽、芹、山葵、椎茸、イタドリ、独活、フキノトウ、山椒、蓬、コシアブラ、クサギ、山芋、松茸、土筆、クレソン、三つ葉、石蓴、野蒜、
農作物	米、麦、大豆、野菜、蕎麦
果樹	ムベ、アケビ、柚子、柿、栗、野苺、山桃、島みかん、梅、キウイ
魚介	サザエ、烏賊、蛸、海老、蜆、雲丹、アオサ、蟹、鰻、鮭、カマス、ヒジキ、ツノリ、川魚、ワカメ、牡蠣、飛び貝
食肉	猪、鹿
加工	独活の味噌和え、蒨の佃煮、ツワの油炒め、雲丹丼、サザエ丼、コンニャク、梅林漬、コッパ餅、独活の根の蒲焼、蓬餅、

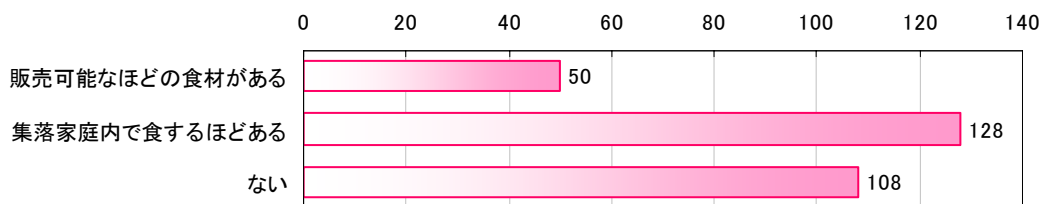


図 集落にある食材の量

(5) 子孫に伝えたい伝統文化、芸能、風習（質問9）

- 集落において代々受け継がれてきた伝統文化、芸能・風習について把握するため、伝統文化や芸能、風習の内容及びその特徴を記述していただいた。
- 記述された伝統文化、芸能、風習の名称を「伝統文化」、「祭り」、「文化財」「その他」の4つに分類し、その傾向を分析した。

○子孫に伝えたい伝統文化、芸能、風習

- ・ 「伝統芸能」との回答が 62 集落となり、次いで「祭り」が 36 集落となっている。

表 受け継がれてきた伝統文化・芸能・風習

質問分類項目	計
伝統文化	62
祭り	36
文化財	1
その他	21
記載無し	233

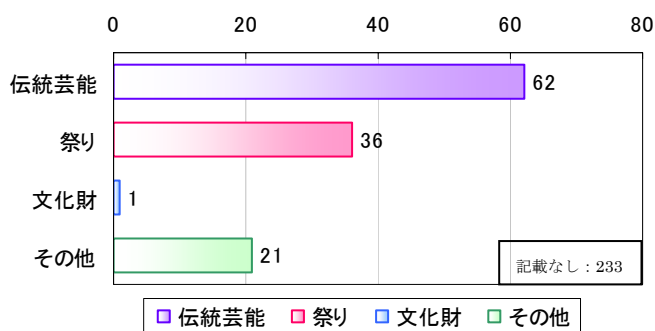


図 受け継がれてきた伝統文化・芸能・風習

表 項目別代表的な伝統文化・芸能・風習（抜粋）

質問分類項目	伝統文化・芸能・風習名称
伝統文化	棒おどり、神楽の伝統、鬼火たき、獅子舞、人形芝居、太鼓踊り、虚無僧踊、狩踊、金山踊、髯踊、矢旗踊、祝い唄
祭り	山神祭り、盆踊り、うどん祭り、豊年祭、氏神祭、天神祭、地藏祭、先祖供養祭、8月15夜まつり
文化財	長観世音菩薩
その他	花見運動会、子供の頃から聞いた話、金山の歴史

(6) 集落元気づくりのアイデア (質問11)

- 集落での、集落元気づくりの取り組み内容、あるいは今後取り組むアイデアについて把握を行い、その傾向を分析することを目的とする。
- 記述していただいたアイデアを「独創性」(他の地域であまり取り組まれていないアイデア)、「実現性」(既に実施しているあるいは実現可能性の高いアイデア)、「安心」(集落の生活、安全機能向上に関するアイデア)、「元気」(集落の地域資源活用に関するアイデア)、「外部交流」(外部支援あるいは外部交流に関するアイデア)、「その他」(その他のアイデア、もしくはアイデア以外のこと)の6項目に分類した。

○集落元気づくりのアイデア

- ・ 集落元気づくりのアイデアは、「元気につながるアイデア」の回答が55集落あり、「安心につながるアイデア」の回答が46集落あった。

集落元気づくりのアイデア

質問分類項目	計
安心	46
元気	55
外部交流	32
その他	31
記載無し	195

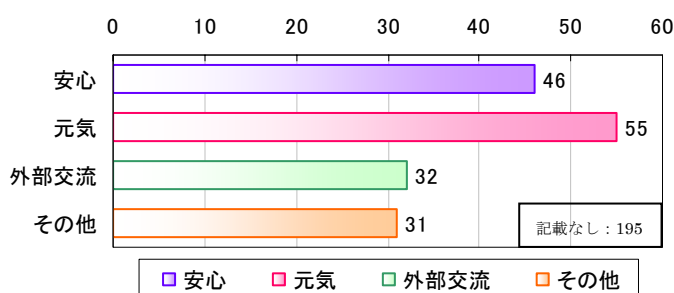


図 集落元気づくりのアイデア

Ⅱ-2 自治体アンケート調査結果

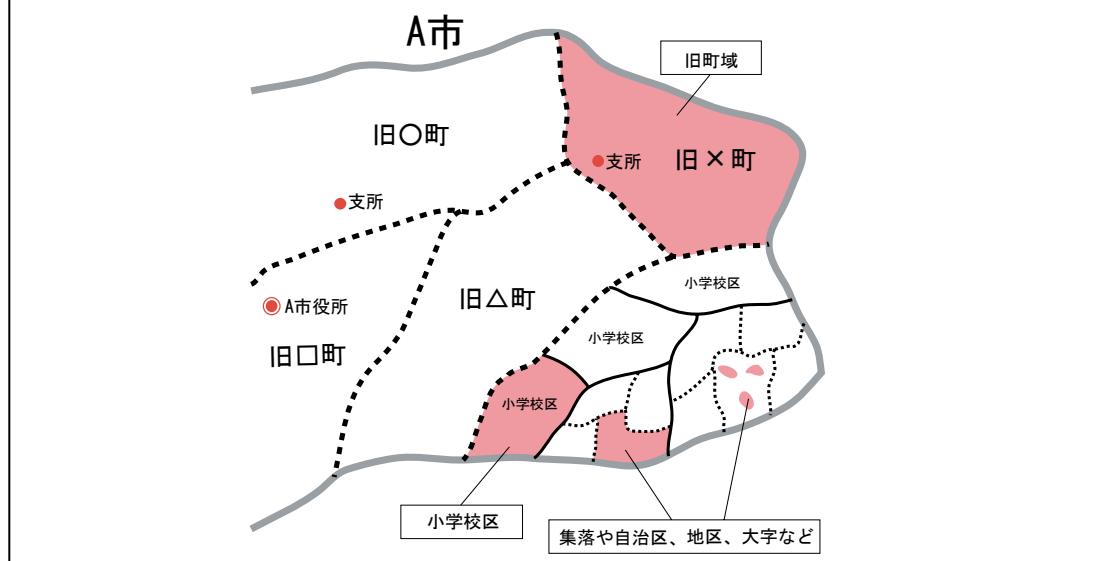
- 自治体アンケートは集落代表者に対する集落アンケートにおいて、把握することが困難な集落の基礎的な情報（集落基本単位の考え方、集落類型区分、集落世帯規模、高齢化率）について把握することを目的とする。（クロス集計の項目として考えられる項目については集落アンケートの集落基本属性においてとりまとめた。）

①集落の基本単位の考え方

- 集落の基本単位の考え方は、自治体により異なり、世帯規模に影響を及ぼすことから、自治体の集落の基本単位の考え方を「町丁目・大字などの住所表示で指定」、「自治区、地区、小学校区など、一定の規模で指定」、「市町村合併前の行政区（旧町域・村域）で指定」、「その他」の4段階に区分し、分析を行った。

《集落の基本単位の考え方（参考）》

※「集落」とは、一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な地域単位であり、市町村行政において扱う行政区の基本単位（農業センサスにおける農業集落とは異なる）として下さい。
（H18.6月実施「過疎地域等における集落の状況に関するアンケート調査（国土交通省国土計画局総合計画課，総務省自治行政局過疎対策室）」と同定義）



※その他、集落類型区分、集落世帯規模、高齢化率については集落アンケート調査結果に記載。

(1) 自治体の集落の基本単位の考え方 (質問1)

○ 自治体の集落基本単位の考え方

集落の基本単位の考え方は、「自治区・地区・小学校区など、一定の規模で指定」しているとの回答が、約7割を占める。

- ・ 「町丁目・大字などの住所表示」及び「市町村合併の前の行政区(旧町域・村域)で指定」との回答が、それぞれ約1割占める。

表 集落の基本単位の考え方

質問項目	計	割合(%)
町丁目・大字などの住所表示で指定	17	14.3%
自治区・地区・小学校区など、一定の規模で指定	83	69.7%
市町村合併の前の行政区(旧町域・村域)で指定	13	10.9%
その他	6	5.0%
合計	119	100%

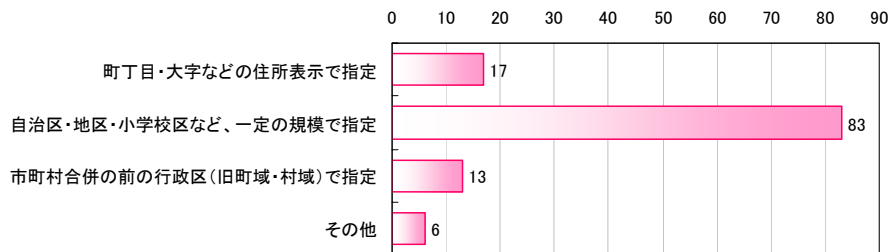


図 集落の基本単位の考え方

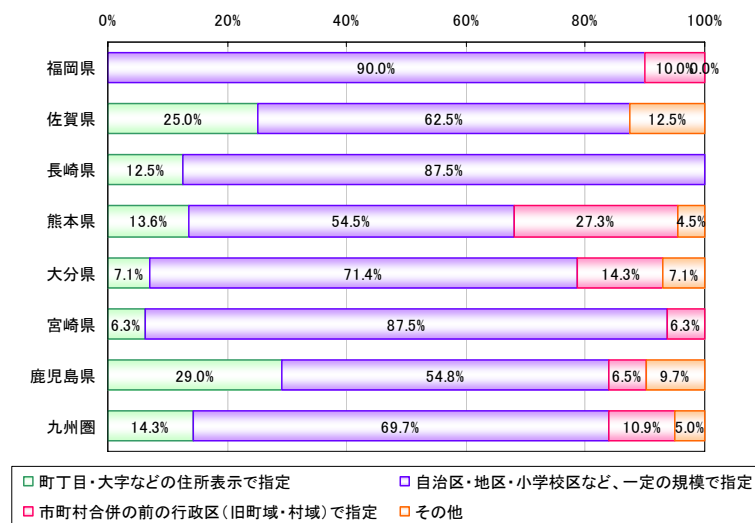


図 自治体における集落の基礎単位の捉え方 (県別)

2. 集落の交流機能・生活機能（質問1）

- 集落の交流（コミュニティ）機能（集会施設、学校施設等）や生活サービス機能（社会基盤、公共交通、医療福祉、商業施設等）の状況を把握することを目的として、以下の施設の整備状況を集落毎に把握した。

(1) 集落の交流（コミュニティ）機能

① 集会場施設

- 施設あり（健全）」
- 「施設あり（要修繕）」
- 「施設無し」

② 学校施設

- 「施設あり」
- 「建築物や敷地の残っている廃校あり」
- 「施設無し」

③ 集落の寄り合い等に利用可能なその他公共施設

- 「施設あり（健全）」
- 「施設あり（要修繕）」
- 「施設無し」

(2) 集落の生活サービス

① 交通インフラの整備状況

- 「片側1車線（両側2車線）以上の幅員の道路が整備済）」
- 「狭隘な道路（離合可能）」
- 「狭隘な道路（待合い離合）」

② ブロードバンドの整備状況

- 「集落内整備」
- 「集落内は整備されていないが自治体内では整備地域あり」
- 「整備無し」

③ 携帯電話の通話圏域

- 「問題なく通話できる」
- 「一部通話に不通箇所あり」
- 「通話は困難」

④ 介護・福祉訪問サービスの担い手

- 「集落内にいる」
- 「域外も含め集落外からのサービス」
- 「無し」

⑤ 福祉機能（施設）の状況

- 「福祉施設が徒歩圏内にあり」
- 「福祉施設への送迎サービスあり」
- 「無し」

⑥ 公共交通の運行状況

- 「有（5便／日以上）」
- 「有（5便／日未満）」
- 「無し」

⑦ 商業機能（施設）の状況

- 「店舗（雑貨屋等）あり」
- 「移動販売あり」
- 「無し(車等で買い出し)」

⑧ 医療機能（施設）の状況

- 「病院・診療所（医者常駐）あり」
- 「巡回医療あり」
- 「無し（救急車か車で搬送）」。

⑨ 小学校の状況

- 「1km 圏徒歩通学可能」
- 「4km 圏 1 時間以内の徒歩通学」
- 「バス等交通手段が必要)」

(1) 集落の交流（コミュニティ）機能

○集落の交流（コミュニティ）機能

- ・ 「集会場施設が有る」との回答が約 7 割を占める。
- ・ 「学校施設（建築物や敷地の残っている廃校含む）が無い」との回答が約 9 割を占める。
- ・ 「その他の公共施設（集落の寄り合いに利用可能な施）が無い」との回答が約 8 割を占める。

表 集落の交流（コミュニティ）機能

質問項目		施設あり(健全)	施設有(要修繕)	施設なし	計
集会場施設の有無	度数	276	50	130	456
	%	60.5%	11.0%	28.5%	100%
質問項目		施設あり	建築物や敷地の残っている廃校あり	施設なし	計
学校施設の有無	度数	40	26	392	458
	%	8.7%	5.7%	85.6%	100%
質問項目		施設あり(健全)	施設有(要修繕)	施設なし	計
その他公共施設の有無	度数	102	7	343	452
	%	22.6%	1.5%	75.9%	100%

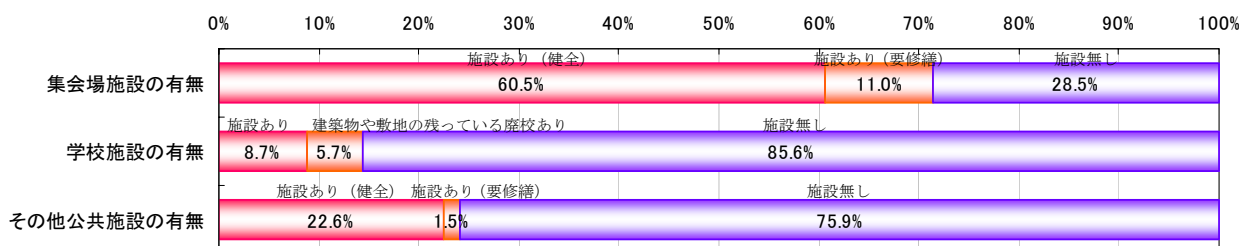


図 集落の交流（コミュニティ）機能

(2) 集落の生活サービス

○集落の生活サービス

- ・ 「交通インフラの整備状況」は、「狭隘な道路（待合離合）」との回答が約3割を占める。
- ・ 「ブロードバンドの整備状況」は、「整備無し」、「自治体内一部整備」との回答が約7割を占める。
- ・ 「携帯電話の通話圏域」は、「問題なく通話可能」、「一部通話に不通箇所あり」との回答が、合わせて約8割を占める。
- ・ 「介護・福祉訪問サービスの担い手」は、「集落内にいる」、「域外も含め集落外からのサービス」との回答が、合わせて約8割を占める。
- ・ 「福祉施設の状況」は、「福祉施設が徒歩圏内にあり」、「福祉施設への送迎サービスあり」との回答が、合わせて約8割を占める。
- ・ 「公共交通の運行状況」は、「無し」との回答が約4割を占める。
- ・ その他、「商業機能の状況」で「無し（車等で買出し）」との回答が約7割、「医療機能の状況」で「無し（救急車か車で搬送）」との回答が約8割、「小学校の状況」で、「バス等交通手段が必要」との回答が約5割を占める。

表 集落の生活サービス

質問項目		片側1車線	狭隘な道路(離合可能)	狭隘な道路(待合離合)	計
交通インフラの整備状況	度数	117	194	145	456
	%	25.7%	42.5%	31.8%	100%
質問項目		集落内整備	自治体内では整備地域あり	整備なし	計
ブロードバンドの整備状況	度数	148	123	181	452
	%	32.7%	27.2%	40.0%	100%
質問項目		問題なく通話可能	一部通話に不通箇所あり	通話は困難	計
携帯電話の通話圏域	度数	207	169	78	454
	%	45.6%	37.2%	17.2%	100%
質問項目		集落内にいる	域外も含め集落外からのサービスあり	無し	計
介護・福祉訪問サービスの担い手	度数	14	350	91	455
	%	3.1%	76.9%	20.0%	100%
質問項目		福祉施設が徒歩圏内にあり	福祉施設への送迎サービスあり	無し	計
福祉機能（施設）の状況	度数	14	340	104	458
	%	3.1%	74.2%	22.7%	100%
質問項目		有(5便/日以上)	有(5便/日未満)	無し	計
公共交通の運行状況	度数	60	207	185	452
	%	13.3%	45.8%	40.9%	100%
質問項目		店舗(雑貨屋等)あり	移動販売あり	無し(車等で買出し)	計
商業機能（施設）の状況	度数	73	73	312	458
	%	15.9%	15.9%	68.1%	100%

質問項目		病院・診療所あり	巡回医療あり	無し(救急車が車で搬送)	計
医療機能(施設)の状況	度数	25	55	375	455
	%	5.5%	12.1%	82.4%	100%
質問項目		1km圏徒歩通学可能	4km圏1時間以内の徒歩通学	バス等交通手段が必要	計
小学校の状況	度数	60	181	215	456
	%	13.2%	39.7%	47.1%	100%

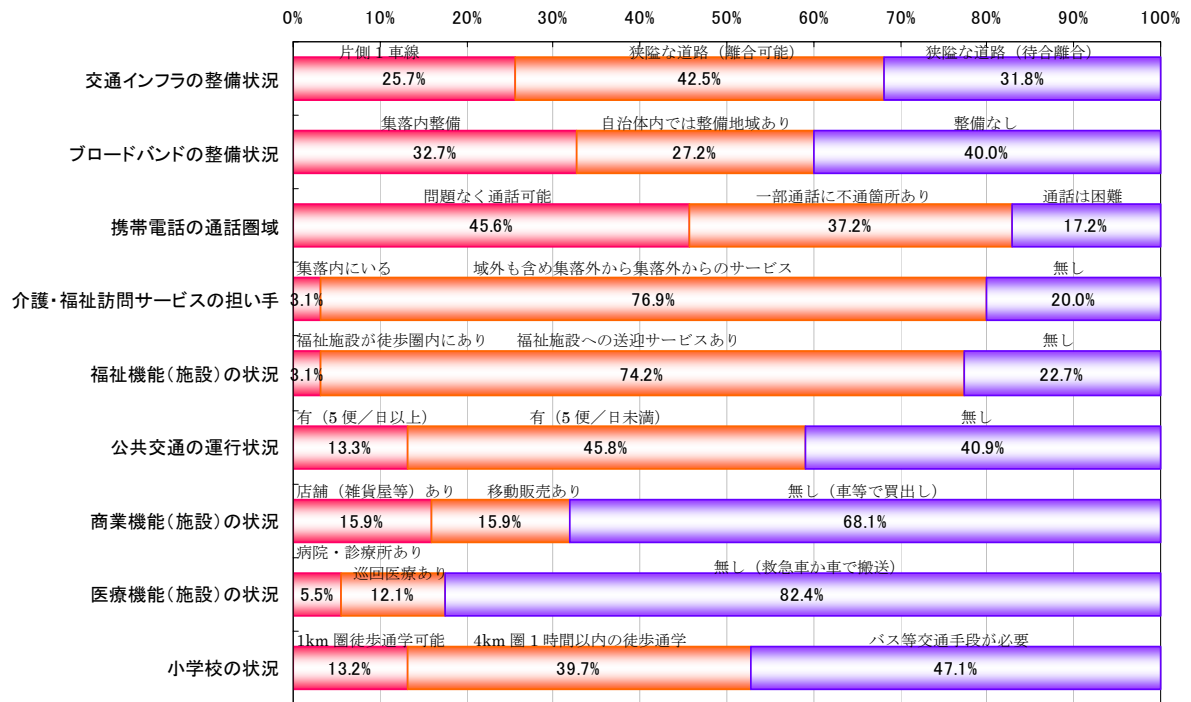


図 集落の生活サービス

3. 集落元気づくりへの協力体制（質問2）

○集落代表者の方々の集落元気づくりへの参加意向をふまえ、自治体としてどのような協力体制を構築することが可能であるかを把握するため、「対象集落の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である」、「取り組みを支援できる組織（住民団体・事業者等）を紹介することが可能である」、「対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい」、「協力することは困難である」の4つの選択肢より該当する回答を複数選んでいただいた。

○集落元気づくりへの協力体制

- ・ 「対象集落の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である」との回答は、約3割を占める。
- ・ 「取り組みを支援できる組織（住民団体・事業者等）を紹介することが可能である」との回答は約1割を占める。
- ・ 「対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい」との回答は、約6割を占める。
- ・ 2つの自治体が「協力することは困難である」と回答した。

表 集落元気づくりへの協力体制

質問項目	計	割合(%)
対象集落の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である	50	29.8%
取り組みを支援できる組織（住民団体・事業者等）を紹介することが可能である	20	11.9%
対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい	96	57.1%
協力することは困難である	2	1.2%

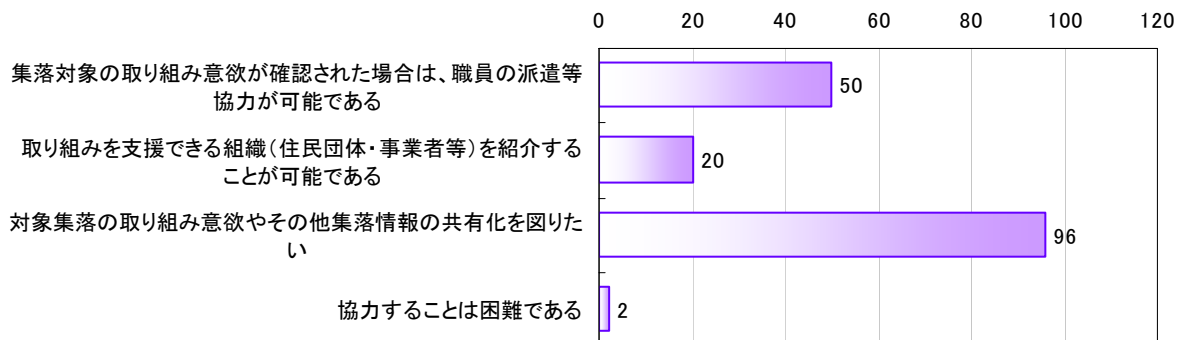


図 集落元気づくりへの協力体制

4. 集落での集落支援のアイデア（質問3）

- 自治体の集落元気づくりの取り組み内容、あるいは今後取り組むアイデアについて把握を行い、その傾向を分析することを目的とする。
- 記述していただいたアイデアを「独創性」（他の地域であまり取組まれていないアイデア）、「実現性」（既に実施しているあるいは実現可能性の高いアイデア）、「汎用性（安心）」（集落の生活、安全機能向上に関するアイデア）、「汎用性（元気）」（集落の地域資源活用に関するアイデア）、「汎用性（外部交流）」（外部支援あるいは外部交流に関するアイデア）、「その他」（その他のアイデア、もしくはアイデア以外のこと）の6項目に分類した。

○集落での集落支援のアイデア

- ・ 「安心につながるアイデア」が 19 自治体あり、「元気につながるアイデア」が 16 自治体あった。
- ・ 「外部交流」が、22 自治体あった。

表 集落元気づくりのアイデア

質問分類項目	計
安心	19
元気	16
外部交流	22
計	57

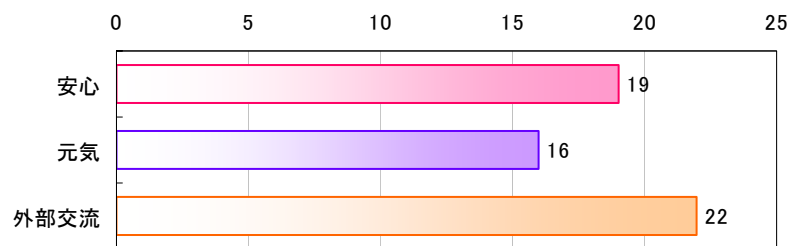


図 集落元気づくりのアイデア

5. 対象集落の再編の予定（質問4）

○対象集落において、集落の存続・再生を図るために再編（行政区の見直し含む）の予定があるかを目的とし、集落毎に「集落再編を既に実施している」、「実施する予定である」、「実施する予定はない」の3つの選択肢より選んでいただき、実施している、あるいは実施する予定があると回答した場合はその具体的な内容について把握した。

- ・ 対象集落において「集落再編を既に実施している集落」は14集落（3.2%）存在した。
- ・ 対象集落において「集落再編の予定がある集落」は73集落（16.7%）存在した。
- ・ 約8割の集落において「集落再編は予定されていない」

表 集落の再編

質問項目	計	割合(%)
集落再編を既に実施している	14	3.2%
実施する予定である	73	16.7%
実施する予定はない	350	80.1%
計	437	100%

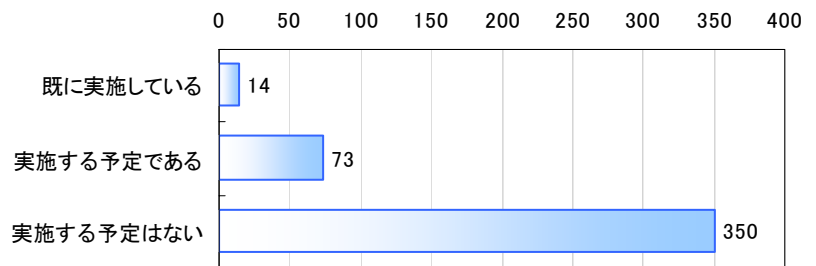
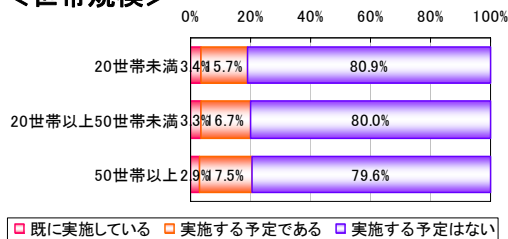


図 集落の再編

○対象集落の再編の予定と世帯規模の関係

- ・ 対象集落の再編予定と世帯規模の関係はみられなかった。

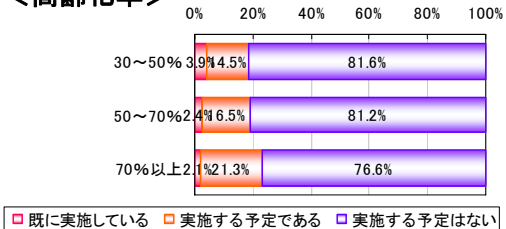
<世帯規模>



○対象集落の再編の予定と高齢化率の関係

- ・ 対象集落の再編予定と高齢化率の関係はみられなかった。

<高齢化率>



○対象集落の再編の予定と基本属性との関係

- ・ 対象集落の再編予定と生活中心都市までの時間距離の関係はみられなかった。

<生活中心都市への時間距離>

